

# 2020

## 文化情報学部 履修要項

---

2017年度以降生用

同志社大学

春学期 17 4/6週 (106日)

秋学期 17 5/6週 (107日)

## 2020年

- 4月1日(水) 春学期始め・春学期入学式
- 2日(木) } 新入学生履修指導期間
- 3日(金) } 履修科目登録期間(注1)
- 4日(土) } 履修科目登録期間(注1)
- 5日(日) } 履修科目登録期間(注1)
- 6日(月) } 履修科目登録期間(注1)
- 7日(火) 講義開始
- 28日(火) 春学期学費納入最終日
- 4月29日(水) } 休日
- 5月5日(火) } 休日
- 5月6日(水) 振替休日(授業日)
- 7月23日(木) 海の日(授業日)
- 24日(金) スポーツの日(授業日)
- 27日(月) 講義最終日
- 28日(火) 期末試験開始
- 8月7日(金) 期末試験終了
- 8日(土) 期末試験予備日・夏期休暇開始
- 9月10日(木) 夏期休暇終了
- 11日(金) 在学生成績通知(注2)
- 19日(土) 春学期卒業式・学位授与式
- 20日(日) 春学期終り

- 9月21日(月) 秋学期始め・秋学期入学式
- 21日(月) } 秋学期履修科目登録変更
- 22日(火) } 秋学期履修科目登録変更
- 24日(木) 講義開始
- 10月30日(金) 秋学期学費納入最終日
- 10月31日(土) } 同志社クローバー祭
- 11月1日(日) } 同志社クローバー祭
- 1日(日) スポーツフェスティバル
- 23日(月) 勤労感謝の日(授業日)
- 26日(木) } 創立記念行事週間(休講)
- 27日(金) } 創立記念行事週間(休講)
- 28日(土) } 創立記念行事週間(休講)
- 29日(日) 創立記念日
- 12月23日(水) 冬期休暇開始
- 25日(金) キリスト降誕日(休日)

## 2021年

- 1月5日(火) 冬期休暇終了
- 6日(水) 講義再開
- 23日(土) 創立者永眠の日
- 26日(火) 講義最終日
- 27日(水) 期末試験開始
- 2月16日(火) 期末試験終了
- 3月上旬 卒業可否通知
- 3月20日(土) } 秋学期卒業式・学位授与式
- 21日(日) } 秋学期卒業式・学位授与式
- 22日(月) } 秋学期卒業式・学位授与式
- 24日(水) 在学生成績通知(注3)
- 31日(水) 秋学期終り

(注1) 一般登録科目の履修科目登録日は、この期間内の年次毎に指定された日となる。

また、2年次生以上は前年度3月の成績通知日以降、1年次生は入学式以降、この履修科目登録期間までに、先行登録期間が設定される。

(注2) 成績通知日以降、履修科目登録変更までに、先行登録期間が設定される。

(注3) 成績通知日以降、翌年度4月の履修科目登録期間までに、先行登録期間が設定される。

2020年				2020年				2020年				2020年																																											
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日																											
				1	2	3	4					1	2			1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
4	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31														
月	12	13	14	15	16	17	18	月	17	18	19	20	21	22	23	月	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			月	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31													

# 文化情報学部履修要項

## 2017 年度以降生用

### 目 次

学部学則 .....	i
学部一般内規 .....	xii
外国留学に関する諸規程 .....	xiv
学業履修について .....	xvi
I. 文化情報学部について .....	1
II. 人材養成目的 .....	2
III. 養成する能力 Diploma Policy .....	2
IV. カリキュラム Curriculum Policy .....	3
V. カリキュラムの特色 .....	4
VI. 履修の要領 .....	5
VII. 履修の体系 .....	7
科目説明 .....	14
履修モデル .....	21
VIII. 開講科目一覧 .....	26
免許資格関係について .....	46
充実した学生生活を過ごすために .....	50
交通機関の不通と暴風警報・特別警報発表に伴う授業・試験の実施について (司法研究科以外) .....	53



## 第1章 総 則

第1条 本大学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、あわせてキリスト教的教育の特色を発揮し、国家社会に有用な人物を養成することを目的とする。

第1条の2 本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 点検及び評価に関する規則は、別に定める。

3 本大学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第1条の3 本大学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

第2条 本大学に、学部、大学院その他の教育研究組織を置く。

2 大学院に関する学則は、別にこれを定める。

第2条の2 本大学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部において学科毎に定め、別表Ⅱに記載する。

## 第2章 学 部

### 第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

第3条 学部の修業年限は、4年とする。

2 在学年限は、8年を超えることができない。

第4条 削除

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

第6条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日

(3) 創立記念日 11月29日

(4) キリスト降誕日 12月25日

(5) 夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。

2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

### 第2節 学部学科等の組織

第7条 本大学に、次の学部学科を置く。

神学部

神学科

文学部

英文学科

哲学科

美学芸術学科

文化史学科

国文学科

社会学部

社会学科

社会福祉学科

メディア学科

産業関係学科

教育文化学科

法学部

法律学科

政治学科

経済学部

経済学科

商学部

商学科

政策学部

政策学科

文化情報学部

文化情報学科

理工学部

インテリジェント情報工学科

情報システムデザイン学科

電気工学科

電子工学科

機械システム工学科

機械理工学科

機能分子・生命化学科

化学システム創成工学科

環境システム学科

数理システム学科

生命医科学部

医工学科

医情報学科

医生命システム学科

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

心理学部

心理学科

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学科

第7条の2 削除

第7条の3 本大学にキリスト教文化センターを置く。

2 キリスト教文化センターに関する規程は、別に定める。

第7条の4 本大学にハリス理化学研究所を置く。

2 ハリス理化学研究所に関する規程は、別に定める。

第7条の5 削除

第7条の6 本大学に歴史資料館を置く。

2 歴史資料館に関する規程は、別に定める。

第7条の7 本大学に日本語・日本文化教育センターを置く。

2 日本語・日本文化教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の8 本大学に全学共通教養教育センターを置く。

2 全学共通教養教育センターに関する規程は、別に定める。

- 第7条の9 本大学に国際教育インスティテュートを置く。
- 2 国際教育インスティテュートに関する規程は、別に定める。
- 第7条の10 本大学に免許資格課程センターを置く。
- 2 免許資格課程センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の11 本大学に学習支援・教育開発センターを置く。
- 2 学習支援・教育開発センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の12 本大学にグローバル教育センターを置く。
- 2 グローバル教育センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の13 本大学に文部科学省共同利用・共同研究拠点として、赤ちゃん学研究センターを置く。
- 2 赤ちゃん学研究センターに関する規程は、別に定める。

### 第3節 教育課程及び履修方法

- 第8条 各学部学科の教育課程及び履修方法は、別表Ⅱにこれを定める。
- 第8条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 本大学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 第8条の3 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
- 第9条 学生は、所属学部学科の規定に従って、一定単位数の授業科目を履修しなければならない。
- 2 教育職員免許状を得るための資格及び司書、司書教諭、学芸員の資格を得たい者は、特に指定された授業科目を履修しなければならない。
- 3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。
- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本大学が定める。
- 4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。
- 第9条の2 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が学部の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で認定することができる。
- 2 第27条の2により留学した大学において単位を修得した者には、前項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

- 3 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、前2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。
- 第9条の3 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の定めるところにより単位を与えることができる。
- 2 前項の単位数は、前条第1項、第2項及び第3項と合わせて60単位を超えないものとする。
- 第9条の4 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学において修得したものとして認定することができる。
- 2 本大学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 前2項の単位数は、転入学及び編入学の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第9条の2第1項、第2項及び第3項並びに前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 第9条の5 第8条の2第2項の授業の方法により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。
- 第9条の6 本大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。
- 2 本大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。
- 第10条 削除

### 第4節 試験

- 第11条 履修した授業科目については、春学期及び秋学期の終りに定期試験を行う。また臨時に試験を行うことがある。
- 第12条 削除
- 第13条 試験の成績は、A、B、C、D及びFで評価し、D以上の成績を合格とする。ただし、学部の定めるところにより、特定の授業科目については試験の成績を、合格又は不合格で評価することができる。
- 第14条 疾病その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は、その授業科目の試験終了後3日以内に願い出れば、追試験を行うことがある。

## 第5節 卒業及び学位の授与

第15条 本大学に4年以上在学し、学部学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に卒業の認定を行い、卒業した学部学科の種類により次の学士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績で修得したと認められる者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

学士（神学、英文学、哲学、美学芸術学、文化史学、国文学、社会学、社会福祉学、メディア学、産業関係学、教育文化学、法学、政治学、経済学、商学、政策学、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、グローバル・コミュニケーション学、グローバル地域文化学、国際教養）

2 前項に規定する学位には、「学士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

## 第6節 収容定員及び職員組織

第16条 各学部の入学生定員、編入学生定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部学科別	入学生定員	編入学生定員	収容定員
神学部	63名		252名
神学科	63名		252名
文学部	705名		2,820名
英文学科	315名		1,260名
哲学科	70名		280名
美学芸術学科	70名		280名
文化史学科	125名		500名
国文学科	125名		500名
社会学部	442名		1,768名
社会学科	90名		360名
社会福祉学科	98名		392名
メディア学科	88名		352名
産業関係学科	87名		348名
教育文化学科	79名		316名
法学部	893名		3,572名
法律学科	683名		2,732名
政治学科	210名		840名
経済学部	893名		3,572名
経済学科	893名		3,572名
商学部	893名		3,572名
商学科	893名		3,572名
政策学部	420名		1,680名
政策学科	420名		1,680名
文化情報学部	294名		1,176名
文化情報学科	294名		1,176名
理工学部	756名	20名	3,064名
インテリジェント情報工学科	83名	2名	336名
情報システムデザイン学科	83名	2名	336名
電気工学科	80名	2名	324名
電子工学科	86名	2名	348名
機械システム工学科	96名	2名	388名
エネルギー機械工学科	70名	2名	284名
機能分子・生命化学科	83名	2名	336名
化学システム創成工学科	83名	2名	336名
環境システム学科	51名	2名	208名
数理システム学科	41名	2名	168名
生命医科学部	265名		1,060名
医工学科	100名		400名
医情報学科	100名		400名
医生命システム学科	65名		260名
スポーツ健康科学部	221名		884名
スポーツ健康科学科	221名		884名
心理学部	158名		632名
心理学科	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学部	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学科	158名		632名
(うち、英語コース)	85名		340名)
グローバル地域文化学部	190名		760名
グローバル地域文化学科	190名		760名
計	6,351名	20名	25,444名

- 第17条 本大学に、教授、准教授、助教及び助手を置く。
- 2 本大学に、特別任用教授、特別任用助教（有期研究員）及び特別任用助手（有期研究員）を置くことができる。
- 3 本大学に、客員教授、客員准教授及び客員助教を置くことができる。
- 第17条の2 本大学に、実験講師を置く。
- 第18条 本大学に、学長を置く。
- 2 学長は、本学を代表するとともに、校務をつかさどり、教職員を統括する。
- 3 学長は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。
- 4 学長に関し必要な事項は、別に定める。
- 第18条の2 本大学に、副学長を置く。
- 2 副学長に関し必要な事項は、別に定める。
- 第18条の3 本大学に、学部長を置く。
- 2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。
- 第18条の4 本大学に、機構長、部長、所長、館長、室長、別科長等を置く。
- 第18条の5 本大学に、学長補佐を置くことができる。
- 2 学長補佐に関し必要な事項は、別に定める。
- 第18条の6 本大学に、その事務を遂行するため、職員を置く。
- 2 事務組織に関する規程は、別に定める。
- 第19条 本大学の各学部に教授会を置く。
- 2 教授会は、学部に関する次の事項を審議する。
- (1) 学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項及び学位の授与に関する事項
  - (2) 教育課程に関する事項
  - (3) 教員の人事に関する事項
  - (4) 学則、学部諸規程に関する事項
  - (5) その他、学部長がつかさどる教育研究に関する事項
- 3 教授会は、学長から諮問された事項について審議する。
- 4 教授会は、学生の入学、卒業及び学位の授与、その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- 5 教授会の組織及び運営に関する事項は、各学部教授会において定める。
- 第19条の2 本大学に部長会を置く。
- 2 大学及び各学部に通ずる重要事項は、部長会で審議する。
- 3 部長会に関する規定は、別に定める。
- 第19条の3 本大学に大学評議会を置く。
- 2 大学評議会は、本学の中長期的方針に関わる事項を審議し、その達成状況を検証する。
- 3 大学評議会に関する規則は、別に定める。
- 第19条の4 本大学に大学教授会を置く。
- 2 大学教授会は、大学の重要な事項に関し学長の諮問に応じる。

## 第7節 入学、転入学、編入学、休学、留学、退学、除籍及び再入学

- 第20条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、学部が必要とする時には、入学の時期を学期の始めとすることができる。
- 第21条 学部第1年次に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。
- (1) 高等学校卒業生
  - (2) 中等教育学校卒業生
  - (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
  - (4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認められたもの
  - (5) 大学への入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第150条に規定された者
- 第22条 前条の資格を有する入学志願者について、高等学校卒業程度の入学試験を行い、入学を許可する。
- 第23条 学部第2年次及び第3年次では、第2項又は第3項の各号のいずれかに該当する入学志願者について選考を行い、転入学又は編入学を許可することがある。
- 2 第3年次に転入学又は第2年次若しくは第3年次に編入学することができる者は、次のとおりとする。
- (1) 大学第2年次修了者
  - (2) 短期大学卒業生
  - (3) 高等専門学校卒業生
  - (4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
  - (5) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第2項又は同第177条に規定された者並びに文部省令第1号により大学への編入学を認められた者
  - (6) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- 3 第2年次に転入学することができる者は、次のとおりとする。
- (1) 大学第1年次修了者
  - (2) 外国の大学において前号に準じる課程を修了した者
- 4 第3年次に転入学又は編入学することを許可された転入学生及び編入学生の修業年限は2年とし、在学年限は6年を超えることができない。
- 5 第2年次に転入学又は編入学することを許可された転入学生及び編入学生の修業年限は3年とし、在学年限は7年を超えることができない。
- 第24条 入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Iの5に定める入学検定料を納入しなければならない。
- 2 災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。
- 3 前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。



第25条 入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

2 本大学の複数の学部・学科・コース（以下「学部等」という。）の入学許可を得て、一方の学部等の学費を納入した者が、もう一方の学部等へ入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の学部等の学費に振替を認めることがある。

3 前項の振替の詳細は、別に定める。

第26条 保証人は2名とし、その1名は父又は母（父母のいない者は、これにかわる親戚等）とする。

2 保証人は、その学生の在学中は、本人にかかわる一切の事件につき、連帯の責任を負わなければならない。保証人が転籍、転居等をしたときは、その旨直ちに届け出なければならない。

3 保証人が死亡したとき、又はその資格を失ったときは、あらたに保証人を定めて、届け出なければならない。

第27条 学生が疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとするときは、保証人連署のうえ、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願い出て、許可を得なければならない。

2 休学期間は、1年又は半年とする。

3 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

4 休学期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限、在学年限には算入しない。

第27条の2 学生は、在学中当該学部教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学に留学することができる。

2 留学の期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限及び在学年限に算入できる。

3 留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第28条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとするときは、保証人連署のうえ、その旨願い出なければならない。

第29条 学長は学力劣等にして成業見込みなしと認める者、又は出席常でない者を、当該学部教授会の審議を経て、論旨退学させることがある。

第30条 学長は品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該学部教授会において懲戒の対象となりうると認められたときには、けん責、停学又は退学に処することができる。

2 前項の懲戒に関する規程は、別に定める。

第30条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。ただし、第1号については、該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、また第2号並びに第3号については、該当学期末に除籍する。

(1) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(2) 在学期間が第3条第2項並びに第23条第4項及び第5項に規定する在学年限を超える者

(3) 学費未納で履修科目の登録をしていない者

第30条の3 退学者及び前条第1項第1号又は第3号により除籍された者が、保証人連署のうえ、再入学を願い出た場合は、それを許可することがある。

なお、除籍された者が再入学を願い出た場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第30条の4 再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

## 第8節 科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

第31条 各学部を設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、科目等履修生とすることができる。

2 科目等履修生のうち、他の大学の学生で、協定に基づき本大学の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

第32条 科目等履修生が履修した授業科目について試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。

2 前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第33条 削除

第34条 削除

第35条 各学部を設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、聴講生とすることができる。

第36条 聴講生に関する内規は、別に定める。

第36条の2 外国人留学生に関する内規は、別に定める。

## 第9節 学 費

第37条 在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。

2 外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

3 履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。

第38条 学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、研修料を含む。）、教育充実費、実験実習料、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Iから別表Iの4にこれを定める。

2 協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本大学から1学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

3 休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

4 第31条第2項に定める、協定に基づき本大学の授業科目を履修するため、他の大学から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

5 いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

6 履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。

7 退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、当該学期の学費を徴収する。

8 第30条第1項に基づく停学に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第39条 やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

2 前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第39条の2 本大学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、授業料及び入学金の減免を行う。

2 前項の授業料及び入学金の減免の詳細は、別に定める。

第39条の3 災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することがある。

2 前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

### 第3章 附属施設

第40条 図書館を設け、学生の自由な研究に資する。

2 大学には学部研究室、実験室、研究所等を設ける。

第41条 寄宿舎を設け、通学に不便な者等一部学生を入舎させる。

第42条 学生支援機構保健センターを設け、教職員及び学生の保健医療に当る。

#### 附 則

1 この学則は、2005年4月1日から施行する。

2 第27条第3項の規定は、1989年度入学生から適用する。

3 第9条に規定する教育職員免許状を得るための資格（高等学校地理歴史・公民科）については、1990年度入学生から適用する。

4 第7条、第16条は、知識工学科設置、機械工学科、機械工学第二学科の機械システム工学科、エネルギー機械工学科への名称変更及び工業化学科、化学工学科の機能分子工学科、物質化学工学科への改組転換により1994年4月1日から改正施行する。

5 第7条は、学部第2部を1997年度入学生から学生募集停止及び文学部第1部、法学部第1部、経済学部第1部、商学部第1部の文学部、法学部、経済学部、商学部への名称変更により1997年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部英文学科、文化学科国文学専攻、法学部法律学科、政治学科、経済学部、商学部に昼間主コース、夜間主コースを設置。これにともなう学部、学科の収容定員増加変更により1997年4月1日から改正施行する。

なお、各学部の第2部は、当該学部の第2部に在学する者がなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（1997年4月1日改正）

6 第7条、第16条は、神学部に神学科、経済学部を経済学科、商学部に商学科の学科名明示により、1999年4月1日から改正施行する。（1999年4月1日改正）

7 第7条、第16条は、文学部社会学科新聞学専攻のメディア学専攻への名称変更、政策学部政策学科、工学部情報システムデザイン学科及び環境システム学科の設置により2004年4月1日から改正施行する。（2004年4月1日改正）

8 第7条は、文学部の改組・再編による文化学科、社会学科及び各学科内の専攻の廃止、それに伴う文学部哲学科、心理学科、美学芸術学科、文化史学科、国文学科及び社会学部社会学科、社会福祉学科、メディア学科、産業関係学科、教育文化学科の設置並びに文化情報学部文化情報学科の設置により2005年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部の改組・再編に伴う学部・学科の設置及び文化情報学部の設置並びに法学部及び経済学部の昼間主コース、夜間主コースの廃止により2005年4月1日から改正施行する。

なお、廃止する文化学科及び社会学科の各専攻並びに法学部

及び経済学部の昼間主コース及び夜間主コースは、2005年度より学生募集を停止する。ただし、各学科・専攻及びコースは、当該学科・専攻及びコースに在学する者がなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（2005年4月1日改正）

9 第13条に規定する試験の成績評価は、2004年度第1年次入学生から適用し、2003年度以前の入学生については、従前の規程による。

10 第15条に規定する学位は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、従前の規程による。

11 第30条の3に規定する再入学は、2004年度第1年次入学生から適用する。

12 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

13 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2005年度入学生に適用する。2004年度以前の入学生については、従前の学費による。

14 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、休学在籍料については、2003年度以降在学の学生に適用する。ただし、2002年度以前の入学生のうち、従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は、その額とする。

#### 附 則

1 この学則は、2006年4月1日から施行する。

2 第7条及び第16条は、工学部知識工学科の名称変更により、改正・施行する。なお、知識工学科は、2006年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規定は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2006年度第1年次入学生から適用し、2005年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2006年度入学生に適用する。2005年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

1 この学則は、2007年4月1日から施行する。

2 第16条は、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース、夜間主コースの廃止により、改正・施行する。なお、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2007年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2007年度第1年次入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2007年度入学生に適用する。2006年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

1 この学則は、2008年4月1日から施行する。

2 第7条は、理工学部数理システム学科、生命医科学部医工学科、医情報学科、医生命システム学科及びスポーツ健康科学部スポーツ健康科学部の設置並びに工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により、改正・施行する。

第16条は、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止、理工学部数理システム学科、生命医科学部及びスポーツ健康科学部の設置並びにこれにともなう学部・学科の収容定員変更及び工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により改正・施行する。

なお、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コース並びに工学部は、2008年度より学生募集を停止する。ただし、各学部・学科及びコースは、当該学部・学科及びコースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2008年度第1次入学生から適用し、2007年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2008年度入学生に適用する。2007年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

1 この学則は、2009年4月1日から施行する。

2 第7条は、心理学部心理学科の設置及びそれにとまなう文学部心理学科の廃止により、改正・施行する。

第16条は、心理学部心理学科の設置及びそれにとまなう文学部心理学科の廃止並びに学部・学科の収容定員変更により改正・施行する。

なお、文学部心理学科は、2009年度より学生募集を停止する。ただし、文学部心理学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2009年度第1次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009年度入学生に適用する。2008年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

1 この学則は、2010年4月1日から施行する。

2 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2010年度第1次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010年度入学生に適用する。2009年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

1 この学則は、2011年4月1日から施行する。

2 第7条及び第16条は、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の設置により、改正・施行する。

3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2011年度第1次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

#### 附 則

1 この学則は、2012年4月1日から施行する。

2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2012年度第1次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

#### 附 則

1 この学則は、2013年4月1日から施行する。

2 第7条は、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

第16条は、学部・学科の収容定員変更、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止並びにグローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

なお、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2013年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2013年度第1次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

#### 附 則

1 この学則は、2014年4月1日から施行する。

2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2014年度第1次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

#### 附 則

1 この学則は、2015年4月1日から施行する。

2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2015年度第1次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

1 この学則は、2016年4月1日から施行する。

2 留学生別科は、2016年度より学生募集を停止する。ただし、当該組織に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2016年度第1次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

- 1 この学則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2017年度第1年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

- 1 この学則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2018年度第1年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

#### 附 則

- 1 この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、

2019年度第1年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2019年度入学生に適用する。2018年度以前の入学生については、従前の学費による。

なお、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年4月1日以降に再入学する学生に適用する。

- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年4月1日以降に派遣を決定する学生に適用する。

#### 附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、理工学部エネルギー機械工学科の名称変更により改正・施行する。

なお、理工学部エネルギー機械工学科は、2020年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2020年度第1年次入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2020年度入学生に適用する。2019年度以前の入学生については、従前の学費による。

## 別表 I 学 費

### 入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料

(年額)

		入 学 金	授 業 料	教育充実費	*実験実習料
神 学 部 文 学 部 社 会 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部 政 策 学 部 グローバル地域文化学部	第 1 年次	200,000円	870,000円	149,000円	
	第 2 年次		895,000円	157,000円	
	第 3 年次		900,000円	165,000円	
	第 4 年次		905,000円	173,000円	
文化情報学部	第 1 年次	200,000円	925,000円	160,000円	30,000円
	第 2 年次		952,000円	169,000円	30,000円
	第 3 年次		959,000円	178,000円	30,000円
	第 4 年次		966,000円	187,000円	70,000円
理 工 学 部 (数理システム 学科を除く) 生命医科学部	第 1 年次	200,000円	1,231,000円	225,000円	78,000円
	第 2 年次		1,266,000円	237,000円	109,000円
	第 3 年次		1,281,000円	249,000円	140,000円
	第 4 年次		1,296,000円	261,000円	140,000円
理 工 学 部 (数理システム 学科)	第 1 年次	200,000円	1,231,000円	225,000円	20,000円
	第 2 年次		1,266,000円	237,000円	20,000円
	第 3 年次		1,281,000円	249,000円	30,000円
	第 4 年次		1,296,000円	261,000円	90,000円
ス ポ ー ツ 健 康 学 部	第 1 年次	200,000円	925,000円	160,000円	50,000円
	第 2 年次		952,000円	169,000円	80,000円
	第 3 年次		959,000円	178,000円	100,000円
	第 4 年次		966,000円	187,000円	100,000円
心 理 学 部	第 1 年次	200,000円	973,000円	168,000円	25,000円
	第 2 年次		1,001,000円	177,000円	30,000円
	第 3 年次		1,009,000円	186,000円	55,000円
	第 4 年次		1,017,000円	195,000円	90,000円
グ ローバル・ コ ミュニケー シ ョ ン 学 部	第 1 年次	200,000円	973,000円	168,000円	
	第 2 年次		1,001,000円	177,000円	
	第 3 年次		1,009,000円	186,000円	
	第 4 年次		1,017,000円	195,000円	

\* 実験実習料については、文化情報学部、理工学部、生命医科学部、スポーツ健康科学部及び心理学部のみ徴収する。

- (1) 授業料、教育充実費及び実験実習料については、各々2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 4年を超えて在籍した場合（再修生）の学費は、第4年次の学費を適用する。
- (3) 転入学生及び編入学生の入学金は、200,000円とし、授業料、教育充実費及び実験実習料は転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生に限り、入学金は2分の1とする。
- (4) 再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料、教育充実費及び実験実習料は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度4月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

ダブルディグリープログラム による留学期間	特別在籍料
1 年	300,000 円
1 学期	150,000 円

### 休学在籍料

休 学 期 間	休学在籍料
1 年	120,000 円
半 年	60,000 円

・母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

## 別表 I の 2 履修料

履修登録料	全 学 部	25,000 円
履 修 料 (1 単位につき)	神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部	20,000 円
	文化情報、スポーツ健康科学部	21,000 円
	理工、生命医科学部	28,000 円
	心理、グローバル・コミュニケーション学部	22,000 円

- (1) 履修料の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超えるときは、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、2分の1とする。
- (3) 学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

## 別表 I の 3 聴講料

聴講登録料	全 学 部	25,000 円
聴 講 料 (1 単位につき)	神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部	13,000 円
	文化情報、スポーツ健康科学部	14,000 円
	理工、生命医科学部	19,000 円
	心理、グローバル・コミュニケーション学部	15,000 円

- (1) 聴講料の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超えるときは、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、2分の1とする。
- (3) 学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

## 別表 I の 4 外国人留学生（特別学生）入学金及び研修料

(年額)

	入 学 金	研 修 料
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部	25,000 円	400,000 円
文化情報学部 スポーツ健康科学部	25,000 円	420,000 円
理工学部 生命医科学部	25,000 円	560,000 円
心理学部 グローバル・コミュニケーション学部	25,000 円	440,000 円
グローバル教育センター 日本語・日本文化教育センター	25,000 円	600,000 円

- (1) 研修料については、2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。なお、年度内の在学期間が7月以内の場合、研修料は半額とする。
- (2) 特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
- (3) 期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第4条第2項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
- (4) 秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
- (5) 特別学生が、年度内に20単位（グローバル教育センター及び日本語・日本文化教育センターは、30単位）を超えて科目登録をする場合は、超過する分1単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録する場合は学則別表Iの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録する場合は大学院学則別表Iの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録する場合は専門職大学院学則別表Iの2に定める履修料相当額を、グローバル教育プログラム科目、日本語・日本文化教育プログラム科目及び日本語・日本文化教育科目を登録する場合は学則別表Iの2に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。

- (6) 研修料の総額が当該年度の第1年次の授業料を超えるときは、その額にとどめる。  
 (7) 外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しない場合がある。

### 別表Ⅰの5 入学検定料

区 分		金 額
一般選抜入学試験 推薦入学試験 転入学試験 編入学試験		35,000 円
大学入試センター試験を利用する 入学試験	個別学力検査を課す場合	25,000 円
	個別学力検査を課さない場合	15,000 円
アドミッションズオフィスによる入学者選抜	第1次審査	25,000 円
	第2次審査	10,000 円
推薦選抜入学試験 自己推薦入学試験 その他特別入学試験		35,000 円
推薦選抜入学試験における二段階選考 自己推薦入学試験における二段階選考 その他特別入学試験における二段階選考	第1次選考	10,000 円
	第2次選考	25,000 円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験 外国人留学生転入学試験 外国人留学生編入学試験	書類選考および学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
グローバル・コミュニケーション学部 (日本語コース) 入学試験	書類選考および学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
国際教育インスティテュート (国際教養コース) 入学試験		15,000 円

### 別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表 (省略)

# 学 部 一 般 内 規

(2020年4月1日改正)

## 学 年 暦

別に定める「学年暦」は、年間の行事を示し特別の通知・掲示がない限り、このとおり行われる。行事の詳細については、その都度指示する。

## 学 籍 番 号

- 1 学生には、入学と同時に学籍番号が付与され、在学する期間を通じて変わらない。
- 2 第2年次転入学生及び編入学生には、第2年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。
- 3 第3年次転入学生及び編入学生には、第3年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。
- 4 再入学生には、再入学を許可された年次に該当する入学年度を冠した学籍番号が付与される。

## 学 生 証

- 1 学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯しなければならない。
- 2 学生証は、卒業、退学及び除籍の場合は、直ちに返納しなければならない。
- 3 学生証を紛失したときは、直ちに届け出て再交付を受けなければならない。ただし、別に定める手数料を納入することを要する。
- 4 学生証は、他人に貸与又は譲渡してはならない。

## 履修科目の登録

- 1 履修する科目は、学年暦に定められた期間に登録しなければならない。ただし、在学留学が認められた場合は、これによらないことがある。
- 2 合格となった科目は、再度登録履修することはできない。
- 3 各年次で登録履修できる単位数は、春学期及び秋学期合計50単位に満たない範囲内において学部の定めるところによる。
- 4 前項の規定にかかわらず、転入学生及び編入学生の登録履修できる最高単位数は、学部の定めるところによる。

## 学 業 成 績

- 1 学修の成果は、定められた期間に実施される定期試験、臨時に行われる試験及び授業内に行われる多面的評価等に基づき、成績として評価される。
- 2 成績は、成績原簿に記録される。
- 3 不合格となった科目を再履修し、合格となった場合は、直近の不合格の評価のみ改変される。

## 試 験

- 1 試験上の注意
  - (1) 学費未納のままでは受験できない。
  - (2) 未登録の授業科目は、受験できない。
  - (3) 授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取り消すことがある。
  - (4) 試験には、必ず学生証を持参しなければならない。
  - (5) 試験に15分以上遅刻した者は、受験を許さない。また、試験開始後30分経過するまでは退室できない。
  - (6) 論文・レポート試験及びe-learning等 Learning Management System(LMS)による試験に関する注意事項等は別に定める。
  - (7) 試験にかかる不正行為があつて、当該学部教授会がそれを認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格とし、これを公表する。ただし、当該学部が定める科目については除く。
  - (8) その他、試験に関する注意事項等は別に定める。
  - (9) 試験上の注意は授業内に行われる多面的評価に適用することがある。
- 2 追 試 験
  - (1) 病気又はやむを得ない事由のために、定期試験又は学部教授会が認める臨時試験を受験できなかった者に追試験を行うことがある。やむを得ない事由は別に定める。
  - (2) 受験希望者は、追試験願を、当該科目試験終了日から3日以内に提出しなければならない。ただし、課外活動のため受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。
  - (3) 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を添付しなければならない。必要な証明書類は別に定める。
  - (4) 1科目につき1,000円の追試験料を納入しなければならない。

## 届書・願書

届書及び願書には、次のようなものがある。

- 1 届 書
  - (1) 欠 席 届 授業科目担当者名明記、理由書(診断書等)添付のこと。
  - (2) 改 姓(名)届 戸籍抄本添付のこと。
  - (3) 住所変更届 新旧住所併記のこと。
  - (4) 保証人変更届 新旧保証人併記のこと。
- 2 願 書
  - (1) 休 学 願 理由書(診断書等)添付のこと。
  - (2) 退 学 願 理由書添付のこと。



- (3) 再入学願 理由書添付のこと。
- (4) 在学留学願 留学する大学の入学許可書添付のこと。
- (5) 転学部・転学科願 理由書添付のこと。
- (6) 追試験願 理由及び受験科目名記載のこと。

以上の各種届書及び願書は、所定様式により提出する。必要によっては、当該学部教授会の審議を経て処理される。

教室使用願、物品使用願等は、願い出責任者を明記のうえ、教育支援機構教務部に提出すること。

## 再入学

- 1 退学日又は除籍日から5年以内は、当該学部教授会の審議を経て、再入学を許可する。5年を経過したときは、試験のうえ、教授会の判定によって再入学を許可する。
- 2 再入学の時期は、学期の始めとする。
- 3 再入学を許可する学部・学科等は、退学又は除籍時の学部・学科等とする。ただし、退学又は除籍時の学部・学科等が存在しない場合及び学生募集が停止されている場合は、当該学生の再入学願を審議する学部教授会は、学長が指定する。
- 4 再入学を許可する年次、修業年限及び在学年限は、再入学前に在籍していた期間により定める。
- 5 再入学生生の教育課程は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同様とする。

## 転学部・転学科

- 1 転学部及び転学科は、やむを得ない事情の生じた場合に限り、第2年次から第3年次に進むとき、関係学部教授会の審議を経て許可することがある。なお、学部教授会が特に必要と認めた場合は、第1年次から第2年次に進むときも当該学部内において転学科を許可することがある。
- 2 いったん転学部・転学科を許可した学生の再転学部・転学

科は認めない。

- 3 転学部・転学科願書の受付期限は秋学期講義最終日とし、許可決定の時期は、当該年度の終わりとする。

## 学士入学

学士入学は、転入学・編入学試験を受けなければならない。ただし、本学卒業生は、同一学部学科への学士入学は認められない。

## 免許資格課程登録料

免許資格課程を登録する者は、次の各号の免許資格課程登録料を納入しなければならない。

- (1) 教職課程 30,000円
- (2) 博物館学芸員課程 10,000円
- (3) 図書館司書課程 10,000円

- 2 免許資格課程登録料の詳細は、別に定める。

## 教育実習費

教育実習を登録する者は、登録と同時に実習費を納めなければならない。

## 諸会費

本学が代理徴収を行う学会、父母会及び卒業生団体の諸会費は、所定の期日までに納入しなければならない。

## 定期健康診断

学生は、毎年、学期始めに行う定期健康診断を必ず受けなければならない。疾病その他やむを得ない理由によって定期健康診断を受けることができなかった者は、その理由のなくなった後、速やかに受けなければならない。

## 外国留学に関する諸規程

### 外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規

#### (設置)

第1条 本学の学部又は大学院の学生が、本学の教育課程の一環として学則第27条の2、大学院学則第20条の2、専門職大学院学則第29条又は法科大学院学則第15条により留学する場合は、この内規の定めるところによる。

#### (教育機関の定義)

第2条 この内規にいう外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はこれに相当する教育機関をいう。

2 外国の大学の調査認定は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が行う。

#### (留学の定義)

第3条 この内規にいう留学とは、本学の許可を受けて外国の大学に在学し、科目を履修し、又は研究指導を受けることをいう。

#### (条件)

第4条 この内規の適用を受けて留学する学生は、次の要件を満たさなければならない。ただし、大学院学生には適用しない。

- (1) 本学に1年以上在学していること。
  - (2) 30単位以上修得していること。
- 2 前項第2号は、当該学部教授会の認める特別な事情がある場合には、適用しない。

#### (学籍)

第5条 この内規の適用を受けて留学する学生の本学学籍上の取扱いは、在学留学とし、休学としない。ただし、学生が休学を認められ、外国の大学で学修する場合は、この内規は適用しない。

#### (期間)

第6条 在学中に留学できる期間は、1年以内とする。在学留学期間の算定は、留学先大学の別にかかわらず、当該教育課程における在学留学期間の通算にて行う。

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別な事情がある場合は、1年間を限度として、在学留学期間の延長を許可する。

#### (履修)

第7条 留学する大学での履修については、留学前に留学する大学の授業科目を検討した上、当該学部又は研究科の指導を受けなければならない。

#### (学生納付金)

第8条 この内規の適用を受けて留学する学生は、留学中所定の学生納付金を納入しなければならない。

#### (手続)

第9条 外国の大学に留学する学生で、この内規の適用を希望する場合は、在学留学願を当該学部長又は研究科長を通じて学長に提出するものとする。

2 出発・帰国に際しては、留学出発・帰国届を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

3 在学留学期間の延長を願い出る場合は、在学留学延長願を当該学部長又は研究科長を通じて、学長に提出するものとする。

#### (単位認定)

第10条 単位認定を受けようとする者は、帰国後速やかに、次に掲げる必要書類（留学した大学の発行するもの）を添付した取得単位認定願を、当該学部長又は研究科長に提出するものとする。

- (1) 成績証明書（時間数、単位数、科目名を明記したもの）
- (2) 指導教員又はこれに準ずる教員の所見を記したものと
- (3) 受講した科目の内容を説明した教授細目
- (4) 大学履修要項

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会は、関係機関と協議の上審議し、留学した大学での取得単位を学則の定めるところにより認定することができる。

#### (帰国後の登録及び履修)

第11条 留学した学生の帰国直後の春学期又は秋学期における登録及び履修については、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が出国時までの履修状況等を勘案し、特別な措置を講ずることがある。なお、設置科目によっては関係機関との協議を必要とする。

#### (事務)

第12条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

#### (改廃)

第13条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

#### 附 則

この内規は、2015年4月1日から施行する。

## 同志社大学外国協定大学派遣留学生に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、同志社大学外国協定大学派遣留学生制度を設け、本学の外国協定大学に学生を派遣し、もって本学建学の精神である国際主義を体得した学生を養成することを目的とする。

(定義)

第2条 この制度による外国協定大学派遣留学生とは、本学と外国の大学との大学間協定に基づき、学長の推薦により、外国の大学に留学する学生をいう。

(取扱い)

第3条 外国協定大学派遣留学生として留学をする場合は、この内規によるほか、「外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規」の定めるところによる。

(出願条件)

第4条 外国協定大学派遣留学生として出願できる学生は、学力、人物共に優秀で本制度の趣旨をよく理解し、留学年度の4月1日現在、学部2年次生以上の者又は大学院に在学中の者とする。

(義務)

第5条 外国協定大学派遣留学生として留学を希望する学生は、募集要項に定める出願書類を指定された期日までに提出しなければならない。

(推薦方法)

第6条 外国協定大学派遣留学生は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の推薦に基づき、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が候補者を決定し、留学先大学に推薦する。

(候補者の決定)

第7条 外国協定大学派遣留学生の最終決定は、留学先大学による当該留学生の受入れ決定に基づき、学長がこれを行う。

(留学期間)

第8条 留学期間は、留学先大学の正規の1年以内とする。ただし、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が外国協定大学への在学留学期間の延長を認めることがある。

(事務)

第9条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

(改廃)

第10条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2015年4月1日から施行する。

## 学 業 履 修 に つ い て

本学のカリキュラム（教育課程）は、各学部・学科の教育上の目的を達成するために、学部ごとに定められています。本学において卒業するためには、所定の単位を修得し、この課程を修めなければなりません。

各学部のカリキュラムに定める授業科目の登録・履修にあたっての詳細な説明・手続については、本要項および各学部ごとに作成されている『登録要領』を参照してください。なお、各授業科目の内容については『シラバス』（CD-ROM版もあります）を参照してください。

### 障がいのある学生への受講に対する配慮

「見る」「聴く」「話す」「四肢を使って作業する」など、心身の機能障がいのため「社会的障壁」となる内容を含む科目（演習、実験、実習、語学など）については、「合理的配慮」として代替措置をとることが可能なものがあります。

登録前に、学部・研究科事務室までご相談ください。

### 単 位 制

単位制とは、各学部ごとに定められた授業科目を登録・履修し、試験に合格することによりそれぞれの授業科目の所定の単位を得、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

現在の我が国の大学制度は単位制度を基本としており、下記に記載している学則のとおり、1単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。授業だけでなく、準備学習や復習の時間の重要性をよく理解しておくようにしてください。

卒業必要単位数は学部によって異なるので、所属学部の欄を参照してください。学部授業科目の単位数の計算は、次の基準によります（学則第9条 3項 4項）。

3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本大学が定める。

4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

### 授業時間

本学における授業時間は1講時について90分とし、これを2時間と計算しています。例えば、「春学期・週2時間」とは、春学期期間中に90分の授業が週1回行われるということであり、「秋学期・週4時間」とは、秋学期期間中に90分の授業が週2回行われるということです。

講 時	授 業 時 間
1	9 : 00 ~ 10 : 30
2	10 : 45 ~ 12 : 15
3	13 : 10 ~ 14 : 40
4	14 : 55 ~ 16 : 25
5	16 : 40 ~ 18 : 10
6	18 : 25 ~ 19 : 55
7	20 : 10 ~ 21 : 40

### 休 講

授業は、学年暦によって行われますが、担当者の公務、出張、学会、病気などによって休講となる場合もあります。休講は、担当者からの連絡により原則として1週間前から掲示しますが、当日になって連絡を受けて掲示する場合がありますから、必ず、登下校時に掲示を見る習慣をつけてください。なお、休講の掲示もなく、講義が始まらない場合は各キャンパスの教務センターへ申し出て、確かめるようにしてください。また、休講は本学ホームページでも確認することができます。学修支援システム（DUET）では個人別に登録している科目についての休講情報を確認できます。

### 補 講

補講が行われる場合には、教務部掲示板または学部掲示板に掲示しますので、日時、教室などをよく確認して受講してください。

### 集中講義

科目によっては、特定期間内に集中して行う講義（集中講義）があります。詳細については、すべて掲示によって連絡します。

### 授業教室

- (1) 学部授業時間割表は、科目登録・履修に必要な書類とともに、各自に配付されますが、それ以後の時間割変更および教室・担当者変更などは、すべて掲示でお知らせしますので、よく注意してください。なお、秋学期開講科目の学部授業時間割表は、9月中旬にあらためて配付します。
- (2) 開講当初の授業教室は、学部授業時間割表に記載しています。授業教室は登録者数の増減により変更することがありますので、掲示板で変更教室を確認のうえ、授業に出席してください。
- (3) 授業教室名はすべて略号と教室番号で記載されています（次頁表）。例えば、京田辺校地の場合「1-201」は知真館1号館201番教室（2階）、「KD202」は恵道館202番教室（2階）を、また、今出川校地の場合「Z地1（ZB1）」は尋真館地下1番教室（地階）、「S32」は至誠館32番教室（3階）を表すものです。
- (4) 授業教室は、臨時に変更することがあります。この場合は「臨時教室変更」として掲示しますので、その講時のみ変更された教室で受講してください。

〔京田辺キャンパス〕

略号	館名
(TC) 1	知真館1号館
(TC) 2	知真館2号館
(TC) 3	知真館3号館
KD	恵道館
TS	頌真館
MK	夢告館
JM	情報メディア館
RM	ローム記念館
KR	交隣館
RG	理化学館
IN	医心館
YE	有徳館西館
YM	有徳館東館
SC	至心館
KC	香知館
HS	報辰館
SO	創考館
CG	知源館
SJ	知証館南館 心理学実験室
D	知証館南館 電気系実験実習棟
IJ	知証館北館 機械系実験実習棟
MS1	知証館北館 機械実習工場
MS2	実習工場別棟
HC	訪知館
BJ	磐上館
KHH	香柏館高層棟
KHL	香柏館低層棟
DV	デイヴィス記念館
TW	体育シャワー棟

〔今出川キャンパス〕

N	寧静館
M	明德館
S	至誠館
K	弘風館
G	神学館
F	扶桑館
CL	クラーク記念館
H	博遠館
T	徳照館
KE	光塩館
RY	良心館

〔新町キャンパス〕

Z	尋真館
R	臨光館
IS	育真館
KS	溪水館

〔烏丸キャンパス〕

SK	志高館
----	-----

〔室町キャンパス〕

KMB	寒梅館
-----	-----

〔大阪サテライト〕

OS	大阪サテライト
----	---------

情報教室（京田辺キャンパス）

略称	教室名	館名
J M101	情報メディア館演習室1	情報メディア館1階
J M102 A～C	情報メディア館情報道場1～3	情報メディア館1階
J M201～206	情報メディア館201～206番教室	情報メディア館2階
J M301～306	情報メディア館301～306番教室	情報メディア館3階
J M402～406	情報メディア館402～406番教室	情報メディア館4階
T S101・102	頌真館101・102番教室	頌真館1階
TS202	頌真館202番教室	頌真館2階

情報教室（今出川キャンパス）

N地1～地3	寧静館地下1～3番教室	寧静館地階
N21～23	寧静館21～23番教室	寧静館2階
K21	弘風館21番教室	弘風館2階
RY307～315	良心館307～315番教室	良心館3階

情報教室（新町キャンパス）

R303・304	臨光館303・304番教室	臨光館3階
----------	---------------	-------

情報教室（烏丸キャンパス）

SK地1・地9	志高館地下1・地下9番教室	志高館地階
---------	---------------	-------

試験および授業内に行われる多面的評価について

本学の成績評価は、試験と授業内に行われる多面的評価により行います。

1. 試験

試験には下記の種類があります。

- (1)定期試験  
各学期末の定められた期間に行われる試験を定期試験といいます。
- (2)臨時試験  
定められた期間以外に行われる試験を臨時試験といいます。
- (3)追試験  
病気またはやむを得ない理由のために、定期試験または学部教授会が認める臨時試験を受験できなかった場合に限り行われる試験を追試験といいます。受験希望者は以下の点に注意してください。  
a. 当該科目の試験終了日から3日以内(窓口業務休止日を除く)に、追試験願を所属学部・研究科窓口へ提出しなければならない。ただし、課外活動のために受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。  
b. 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する以下の書類を添付しなければならない。  
c. 1科目につき1,000円の追試験料を必要とする。ただし、裁判員制度および検察審査会制度を事由とする追試験については、追試験料を免除する。なお、追試験を未受験であった場合でも追試験料は返還しない。  
d. 追試験は通常の試験と同等に評価される。減点はされない。  
e. レポート試験は追試験の対象にはなりません。提出締切日・時間に突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わなくなった場合は、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り、指示を受けること。  
f. 追試験も何らかの事情により受験できなかった場合には、これに対する追試験は実施しない。

対象事由例	必要な証明書類
本人の病気、怪我	医師の診断書（試験当日安静が必要である旨の記載が必要） 学校感染症の場合は、大学所定の「[学校において予防すべき感染症]罹患証明書」でも可
親族(2親等内)死亡 (適用期間は次のとおりとする。 ・死亡日を1日目とした7日以内。 ・死亡前日を1日目として遡った3日以内。)	死亡診断書、会葬案内等
教育実習	免許資格課程センター事務室の証明書
介護等体験	免許資格課程センター事務室の証明書
館園実習	免許資格課程センター事務室の証明書
社会福祉援助、精神保健福祉援助に関する実習	社会学部・社会学研究科事務室の証明書
就職試験(注1)	企業等が発行する就職試験受験証明書(大学所定用紙あり)
大学院入学試験	当該大学院が発行する受験証明書
正課科目のインターンシップ	キャリアセンター、または大学コンソーシアム京都が発行する証明書
大学コンソーシアム京都単位互換科目の定期試験	当該科目設置大学が発行する受験証明書
国家試験	当該試験の受験票
課外活動	事前届出に基づく学生支援センターの証明書
災害	被災証明書
交通機関の事故、不通(1時間以上(注2)の延着の場合に限る。)	交通機関の延着証明書
裁判員制度 ・裁判員候補者として裁判員等選任手続に参加 ・裁判員、補充裁判員として職務に従事	裁判所が発行する証明書
検察審査会制度 ・検察審査員、補充員として職務に従事	検察審査会事務局が発行する証明書

(注1) 採用に関わらないセミナー、説明会を除く。追試験の対象事由について判断しかねる場合は、キャリアセンターに問い合わせてください。

(注2) 1時間未満の場合は、その都度教務部で対応を決定する。

2. 試験上の注意

- (1) 受験のためには次の条件を備えていることが必要です。
  - a. 有効な登録がなされた科目であること。
  - b. 学費納入が済んでいること。
  - c. 科目担当者の指定する条件を備えていること。なお、授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取消すことがある。
- (2) 試験場においては次のことを守らなければなりません。
  - a. 指定された試験場で受験すること。
  - b. 必ず学生証を持参し、机上に提示すること。万一、持参しなかった場合は、その試験の始まる前に事務室で仮学生証の交付を受けること。

- c. 持ち込みを許された物以外はすべて鞆・袋などに入れること。なお、携帯電話（スマートフォン、PHS含む）、パソコン（モバイルPC等を含む）、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等（以下「携帯機器類」という。）については、電源を切って鞆や袋などに入ること（携帯機器類は時計代わりの使用も認めない）。
- d. 試験開始より15分以上遅刻したものは受験できない。また、試験開始後30分を経過するまでは退室できない。
- e. 受験者は学生証と答案用紙の氏名との照合確認を受けること。
- f. 答案用紙の学生ID、氏名は必ずペン書とする。
- g. 試験を放棄する場合は答案用紙に学生ID、氏名を記入して提出すること。答案用紙を持ち帰ってはならない。
- h. その他すべて試験監督者の指示に従うこと。
- (3) 次の場合には、その答案は無効とみなされることがあります。
  - a. 無記名の場合。
  - b. 指定された試験場で受験しなかった場合。
  - c. 氏名を訂正した場合。
- (4) 次の行為は、不正行為として取り扱います。
  - a. 本人以外の者が、本人になりすまして試験を受けること。
  - b. 試験を受験するにあたって、机上や衣服、身体等に書き込みをすること。
  - c. 試験を受験するにあたって、持ち込みや使用を認められたものに書き込みをする等、本来の使用目的と異なる使い方をすること。
  - d. 試験時間中に、カンニングペーパー類や持ち込みを許可されていない参考書・ノート類を持ち込んだり、他の受験生の答案を見ること、他の人から答えを教わること。
  - e. 試験時間中に、答えを教える等の他の受験生を利するような行為をすること。
  - f. 答案用紙配付から回収までの私語や答案の見せ合い、交換をすること。
  - g. その他、試験監督者の指示に従わないこと。
- (5) 次の行為は、不正行為として取り扱う場合があります。
  - a. 試験時間中に、使用を認められていない器具を使用して解答すること。
  - b. 試験監督者の試験開始の指示の前に解答を始めること。
  - c. 試験監督者の試験終了の指示の後に、筆記用具や消しゴムを持ち続けていたり、解答を続けていたりすること。
  - d. 試験場において、他の受験生の迷惑となる行為をすること。
  - e. 試験時間中に、携帯電話（スマートフォン、PHSを含む）、パソコン（モバイルPC等を含む）、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機能を有する機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等（以下「携帯機器類」という。）を身に付けていたり、指示された以外の場所・状態で保管していること。
  - f. 試験時間中に、携帯機器類・時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を鳴らすこと。

講時	試験時間
1	9:20~10:30
2	11:00~12:10
3	13:25~14:35
4	15:05~16:15
5	16:45~17:55
6	18:25~19:35
7	20:05~21:15

#### 窓口受付時間（開講期間）

	月～金曜日	土曜日	
今 出 川 ※	今出川キャンパス教務センター 文学部、法学部、経済学部、今出川校地教務課、 免許資格課程センター事務室、 全学共通教養教育センター事務室	9:00～11:30 12:30～17:00 総合窓口 8:40～17:00	総合窓口のみ 8:40～11:30 12:30～17:00
	新町総合窓口 社会学部事務室、政策学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00 総合窓口 8:40～17:00	
	神学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	閉室
	商学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	
	グローバル地域文化学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	
京 田 辺 ※	国際教育インスティテュート事務室 国際教養教育院事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	閉室
	京田辺キャンパス教務センター 生命医科学部、スポーツ健康科学部、心理学部、 グローバル・コミュニケーション学部、 免許資格課程センター事務室、京田辺校地教務課	9:00～11:30 12:30～17:00	閉室
	文化情報学部事務室 理工学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	閉室

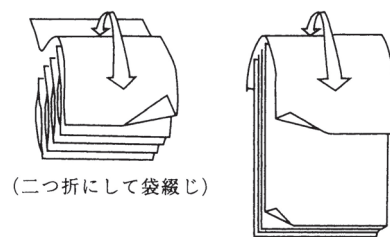
登録期間、休暇期間は受付時間が変わります。窓口受付時間が変更になる場合は、掲示によってお知らせします。  
※ 教務センターの総合窓口では、一般的な質問や仮学生証発行、レポートの受付等を行います。

- g. その他、試験の公平性を損なう行為をすること。
- (6) 前2項の不正行為があつて、当該学部教授会がそれを認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格(2004年度生以降)または0点(2003年度生以前)とし、これを公表する(ただし、当該教授会が定める科目については除く)。

### 3. 論文・レポート試験の注意

- (1) 論文・レポート提出時は、次のことに注意すること。
  - a. 論文・レポートには所定の表紙（同志社生協で販売又は、[https://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/exam\\_type.html](https://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/exam_type.html)でダウンロード可）を付けること。
  - b. 表紙およびレポート受領書は、ペン書きのこと。
  - c. 学生証を持参のうえ、必ず本人が提出すること。郵送は認めない。
  - d. 提出締切日・時間に遅れた論文・レポートは、受け付けない。ただし、提出締切日の突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わない場合、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り指示を受けること。
  - e. 一度提出したレポートは、提出締切日前であっても加筆・修正はできない。
  - f. レポート受領書は、評価が出るまで大切に保管すること。

〈見本〉 原稿用紙 レポート用紙



- (2) 論文・レポートに関する不正行為について。  
次のような論文・レポートの不正作成は、筆記試験におけると同様に不正行為として取扱い、教授会が認定した場合は学部一般内規に従って処分の対象となります。
  - a. 論文・レポートの作成にあたって、他人の著作物やWEB上の情報等を参照・引用したにもかかわらず、引用部分の明示や出典の記載もなく、自身で作成したように記述すること。
  - b. 他人が作成した論文・レポートを自分のものとして提出すること。
  - c. 他人に依頼し作成された論文・レポートを自分のものとして提出すること。
  - d. 他人に依頼されて論文・レポートを作成すること。
  - e. 転記目的で他人が作成した論文・レポートの提供を受けること、また自身が作成した論文・レポートを転記目的で他人に提供すること。
  - f. その他、論文・レポートの公平性を損なう行為をすること。

### 4. e-learning 等 Learning Management System (LMS) による試験に関する注意

e-learning等LMSによる試験を受験する場合は、次のことに注意すること。

- a. パスワードを他人に教えたり、IC学生証を貸し借りしたりしないこと。
- b. 上記行為による、なりすまし、代理解答は不正行為にあたり、当該学部教授会がそれを認定した場合は、通常の筆記試験と同等に処分の対象となる。

### 5. 授業内に行われる多面的評価について

評価の方法により、「1. (3)追試験」、「2. 試験場の注意」、「3. 論文・レポート試験の注意」、「4. e-learning等 Learning Management System (LMS) による試験に関する注意」を適用することがある。

## 学業成績

### 成績評価

#### (1) 2004年度生以降

- a. 学業成績は以下の基準にしたがいA、B、C、D、Fの5段階で評価され、D以上が合格、Fが不合格です。就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には、D以上の評価を得た科目とその成績に加えて、履修した全ての科目のGPA (Grade Point Average) が記載されます。

#### 判定基準

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

- b. GPAは、A～Fの段階で評価された全科目の評価を評点に換算して、その単位数で加重平均することによって算出されます。GPAの算出方法は次のとおりです。

$$GPA = \frac{(A \times 4.0 + B \times 3.0 + C \times 2.0 + D \times 1.0 + F \times 0.0)}{(A + B + C + D + F)}$$

(A～F)はA～Fの評価が付いた科目の単位数の合計

#### (2) 2003年度生以前

- a. 学業成績の評価は、100点満点で60点以上が合格、それに満たないものは不合格です。ただし、就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には優、良、可(英文の場合はA、B、C)による評価が使用されます。優(A)は100～80点、良(B)は79～70点、可(C)は69～60点です。
- b. 平均点は、合格点に達している科目の得点を、その単位数で加重平均することによって算出されます。加重平均の算出方法は次のとおりです。

$$\text{平均点} = \frac{(\text{各科目の得点} \times \text{単位数}) \text{の合計}}{\text{総単位数}}$$

### 成績発表

履修科目の成績は、春学期末(9月中旬)と秋学期末(3月下旬)に各自に通知します。それ以前の成績の照会には応じません。

### 採点質問

成績評価に関する質問や異議申し立てをしたい場合は、定められた成績通知日から1週間以内に、所属の学部・研究科窓口にて採点質問票を提出してください。

### 不合格科目

#### (1) 2004年度生以降

F評価であった科目を再び履修してD以上の評価を得た場合は、直近のF評価についてのみ新たな評価に変更されます。

ただし、一部の科目については取扱いが異なる場合がありますので、各学部の配布物等を参照してください。

#### (2) 2003年度生以前

不合格となった科目を再び履修して合格点を得た場合は、以前の不合格点は合格点に変更されます。

### 卒業の可否発表

卒業の可否の発表は2月下旬から3月上旬の卒業判定教授会終了後、各学生(父母住所宛)に通知します。それまでは、成績および卒業可否についての問い合わせには一切応じません。

### クレーム・コミッティ制度

受講している科目の授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、所属の学部・研究科窓口にご相談ください。学生からの申し出を受けて、各学部等のクレーム・コミッティが授業担当者から事実関係を調査し、原因や対策について回答します。

なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が授業担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

### 欠席届

授業に欠席し、その理由を授業担当者に伝える場合は、欠席届を利用します。欠席届の用紙は学部・研究科事務室または各キャンパス教務センターで配布していますので、必要事項を記入の上、授業担当者に直接提出してください。なお、欠席届は任意で提出するものですので、届出必要科目は各自で判断してください。

#### ○提出の際の留意点

- ・欠席届は、欠席の事由を授業担当者へ伝える届です。本学には「公欠」の制度はありませんので、「追試験の対象となる事由」に該当する事由か否かにかかわらず、欠席届の取扱い(欠席扱いにしない・する等)は、担当者の判断に委ねられます。
- ・欠席の事由を客観的に証明する書類がある場合は、欠席届に添付して提出してください(コピーでも可)。

例) 病気の場合は「診断書」、就職試験の場合は「受験先企業等が発行する就職試験受験証明書(本学所定用紙あり)」など

※ ただし、欠席の事由が以下に該当する場合は、まずそれぞれの窓口へ申し出て相談してください。

事由	相談窓口
学校感染症罹患による出席停止	所属の学部窓口
免許資格課程が必修としている 正課科目の実習（教育実習、博 物館実習、図書館演習）や介護 等体験に参加	免許資格課程センター事務室 (各キャンパス教務センター内)
資格取得に必修となっている 正課科目の実習に参加、など	当該科目の設置学部・研究科 事務室、所属の学部窓口
裁判員制度によるもの	所属の学部窓口
検察審査会制度によるもの	所属の学部窓口



## I. 文化情報学部について

科学・技術の著しい進歩発展により、私たちは物質的な豊かさを享受してきました。しかし、精神的にも物質的にも真に豊かな社会を築いていくためには、人間に対するより深い理解と、それに裏づけされた科学・技術の健全な発展が不可欠です。

特に、現代世界においては、文化的背景、歴史的背景、価値観などの異なる人々が、相互に理解しあい、信頼しあって共生していくことが強く求められています。そのためには、人間の精神的・知的活動の表現としての文化に係わる諸現象を、科学的な新たな視点から分析し、人間の本質を明らかにし、そのことによって互いの理解を深めていくことが重要です。

文化現象をデータサイエンスという視点を中心に科学的に分析し、人間の理解を深めていくためには、文化の諸現象に関する深い知識と、データに基づいて現象の理解を試みるデータサイエンスの手法と自然科学の手法を融合させる必要があります。しかし、このような人文系の知識と自然科学系の手法という、異なる分野の知識を融合した教育研究活動は、教育研究範囲が明確な既存の学部では難しく、そのため、これまでになかった文理融合型の新しい教育研究体系を構築する必要がありました。

文化情報学部は、このような時代が求める新たな学問分野を開拓するため、同志社大学9番目の学部として設置されました。

本学部では、「文化の背後にある個別的・人間的な発想法と、自然科学の基底にある普遍的・論理的な思考法の双方をバランスよく兼ね備えた柔軟なものの考え方ができ」、「さまざまな文化現象に関し、問題を発見し、必要なデータを生成し、分析し、解明する能力を持ち」、そして「深い人間理解に基づく倫理観と責任感を持ち国際社会で活躍できる」有為な人材の育成を教育目的としています。

## Ⅱ. 人材養成目的

19世紀以来の目覚ましい科学技術の発展により、人間社会は物質的な豊かさを享受してきましたが、真に豊かな社会を築いていくためには、科学・技術の健全な発展に加え、人間に対する深い理解が必要です。

このため、人間の精神的・知的活動の表現としての文化にかかわる諸事象を、新たな視点で分析し、文化の基底にある人間の本質を明らかにすることへの重要性が高まっています。

文化情報学部は、文化の諸事象を、データサイエンスを中心とした様々な科学的手法を駆使して研究し、文化の根底にある人間の本質の理解を目指した教育研究活動をとおして、文化事象に対する理解力、課題解決能力、情報の収集・分析・判断・発信能力及び柔軟な発想力を身に付け、高い倫理観と責任感を有し、国内外の各分野において活躍できる人材を育成し、次のような能力を修得することを目指します。

1. 文化的あるいは社会的事象が持つ多様で複雑かつ曖昧な情報から、必要なデータを抽出し、そのデータに基づき事象を理解・分析することにより、問題の発見・解決能力を育成する。
2. データサイエンスとコンピュータを駆使した情報解析をその基礎から応用まで徹底的に学び、高度情報化社会で不可欠な、主体的に情報を収集、分析、判断、発信する能力を育成する。
3. 科学・技術の根底にある普遍的・論理的な思考法と、人間の営みである文化の背後にある個別的・人間的な発想法の双方をバランスよく学び、特定の分野に偏らない柔軟な発想力を育成する。

## Ⅲ. 養成する能力 Diploma Policy

文化情報学部では卒業時に次のような能力を身につけていることを求め、そのために必要な教育プログラムを実施しています。

### 知識・技能

文化と人間に関する複雑で捉えがたい現象に対し、データの収集から集計および分析などのデータサイエンス的な手法により知見を見出すことができる技能を備え、文化領域の幅広い知識に基づいた科学的探究を行える。

### 思考力・判断力・表現力

文化と人間に関する複雑で捉えがたい現象に対し、文化領域の幅広い知識をふまえた形で本質的な問題を見出すことができる。

文化と人間に関する複雑で捉えがたい現象に関する問題に対し、仮説設定、データ生成、仮説検証に基づく科学的探究を行える。

### 主体性・多様性・協働性

文理の枠にとらわれず、他者の視点も取り入れる柔軟な発想により、文化と人間の本質を捉えることができる。

## Ⅳ. カリキュラム Curriculum Policy

文化と人間に関する現象を科学的な方法によって調査し、問題発見・問題解決できる人物を育成するために、必修科目、選択科目Ⅰ・Ⅱ、自由科目によって構成される探究志向型のカリキュラムを設置する。

必修科目では文化と人間に関わる仮説設定および科学的調査の基礎的な知識・技能を（17単位）、選択科目Ⅰでは文化およびデータサイエンスの多様性をA～C群に分けて（56単位）、選択科目Ⅱでは、幅広い教養および外国語の基礎的運用能力をD～G群に分けて学ぶ（40単位）。

必修科目として文化情報学演習1、2、3を1年次から2年次にかけて設置し、科学的調査・観察・実験を実施するために必要な知識・技能の修得を行う。

選択科目ⅠのA群は、必修科目で行う研究の対象となる幅広い文化領域の知識を得ることを到達目標とし、1年次から3年次にかけて文化資源学科目、言語データ科学科目、行動データ科学科目からなる講義科目20単位以上を選択履修する。

選択科目ⅠのB群は、必修科目で行う研究の科学的方法のベースとなるデータサイエンスの知識・技能を習得することを到達目標とし、1年次から3年次にかけてデータ分析科目、基礎数理科目、情報・コンピュータ科目からなる講義・演習科目18単位以上を選択履修する。

選択科目ⅡのG群から、免許・資格の取得に必要な知識・技能を習得すること、および、個々人の興味に応じて知識・技能を補完することを到達目標とし、1年次から4年次にかけて必要単位を履修する。（知識・技能）

必修科目におけるジョイント・リサーチおよび卒業研究を通して、1年次から2年次において修得した知識・技能を活かして文理融合的な探究を実践できる能力を養う。

選択科目ⅡのE群から、英語の実践的な運用能力を習得することを到達目標とし、1年次から2年次にかけて少人数クラスの英語演習科目8単位以上を履修する。

選択科目ⅡのF群から、英語以外の外国語の基礎的運用能力を習得することを到達目標とし、1年次から2年次にかけて少人数クラスの初修外国語演習科目4単位以上を履修する。（思考力・判断力・表現力）

必修科目におけるジョイント・リサーチおよび卒業研究を通して、他者の視点を取り入れながら共同作業を行う能力を涵養する。さらに、コロキウムおよびアドバンスト・コロキウムにおいて他者の研究発表に対して議論を深めることで、物事に対する多様な捉え方を受け入れることができる姿勢を身につける。

選択科目ⅠのC群は、様々な形での体験を通して、文化と人間に対する知的好奇心や学問的興味をもつと同時に、その科学的探究の重要性を理解することを到達目標とし、1年次から3年次にかけて各界の専門家による講義科目4単位以上を選択履修する。

選択科目ⅡのD群から、同志社建学の精神をはじめ、キャリア形成、人文科学、社会科学、自然科学など、幅広い教養を得ることで文理の枠にとらわれない柔軟な発想を身につけることを到達目標とし、1年次から4年次にかけて16単位以上を選択履修する。（主体性・多様性・協働性）

## V. カリキュラムの特色

文化情報学部では、文化に関する諸事象を、データサイエンスを中心とした様々な科学的手法を駆使して研究し、文化の根底にある人間の本質の理解を目指した教育研究活動を通して、文化事象に対する理解力、課題解決能力、情報の収集・分析・判断・発信能力および柔軟な発想力を身につけることができるようにカリキュラムを編成しています。

カリキュラムは、必修科目、および、選択科目Ⅰ（専門教育科目）、選択科目Ⅱ（教養教育科目）、自由科目から編成されており、卒業するためには、各科目区分から必要な科目を履修のうえ、合計124単位以上修得することが必要です。卒業が認められたものには、学士（文化情報学）が授与されます。

必修科目には、導入教育科目として、文化や情報の様々な専門分野に触れ文化情報学部で学ぶことが可能な研究内容を知る「文化情報学入門」や卒業研究発表会に参加・討論することにより文化情報学の面白さを理解する「コロキウム」が設置されています。1年次の秋学期から2年次までは、基本的な知識・技術の修得と問題発見・解決能力の育成を相互に関連付けた探求型の演習「文化情報学演習」があります。ここでは、基礎的な探求型演習を通して、文献の読み方、文化事象の見方、データの収集・分析方法等を習得することや統計解析ツールを使用した基礎的なデータ解析法を学び、データを適切な方法で集計・解析する能力を養います。2年次には、学生自身が自分の関心に基づき研究室の選択を行い、3年次には、指導教員が担当する「ジョイント・リサーチ」において、文化現象の知識やデータサイエンスの実践力を活用しながらグループ単位で創意工夫を凝らした研究活動を行うことで、課題解決能力を養います。4年間の集大成として、4年次に所属する研究室において、主担当教員と副担当教員から指導を受け、卒業論文を作成します。一つのテーマに対して、これまで身につけた学力を駆使し、問題の解決方法を見出すとともに、討論や発表会を通じて、プレゼンテーション能力の更なる向上も目指します。

「卒業研究」には、作成した卒業論文の成果発表の場として、卒業論文試問会の機会が設けられています。卒業論文試問会には、これまで論文指導にあたってきた教員だけでなく、本学部の他の教員が出席し、論文や発表の内容について質疑を行います。「卒業研究」の評価は、提出された卒業論文と試問会での発表・応答をもとに、複数名で構成される審査委員の教員によって行われます。

選択科目Ⅰ（専門教育科目）は、文化クラスター科目群、データサイエンス科目群および体験型教養科目で構成されています。文化クラスター科目群は、文化資源学科目、言語データ科学科目および行動データ科学科目から成り、様々な伝統文化や現代文化、言語、認知、感性、社会といった非常に幅広い文化事象に関する講義が置かれています。データサイエンス科目群は、データ分析科目、情報・コンピュータ科目および基礎数理科目から成り、文化現象の解析法、コンピュータ等に関する多様な講義に加え、多くの演習科目が用意されています。また、体験型教養科目では、文化情報学に関連した最先端の知見を踏まえた特色のある講義を、学外の各分野の第一人者を迎え実習等を含めて実施します。

選択科目Ⅱ（教養教育科目）は、全学共通教養教育科目および外国語科目から構成されています。全学共通教養教育科目および外国語科目は、同志社大学の全ての学生を対象とした共通の教養教育カリキュラムで、本学の建学の精神である「良心教育」を実現すべく、「キリスト教主義」、「自由主義」、「国際主義」という三つの教育理念にもとづき、幅広い学問分野における多くの科目を開設しています。同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目、教養演習科目、学際科目、プロジェクト科目、保健体育科目、日本語・日本文化教育科目から選択することができます。外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、イタリア語の8カ国語について、基礎から応用まで段階的にカリキュラムを編成しています。

これらの本学部のカリキュラムは、平成20年度文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」に採択されており、教育の質の向上につながる取り組みとして、高く評価されています。

## VI. 履修の要領

### 1. 卒業に必要な単位数

本学の学則および一般内規にしたがい、文化情報学部において4年以上在学し、所定の単位を修得した者には、「学士（文化情報学）」の学位が授与されます。文化情報学部が定めた卒業必要単位数は下記のとおりです。

必修科目	専門教育科目			教養教育科目				自由科目
	選択科目Ⅰ			選択科目Ⅱ				
	A群	B群	C群	D群	E群	F群	G群	
	文化 クラスター 科目群	データ サイエンス 科目群	体験型教養 科目	全学共通 教養教育科目 同志社科目 他 (注1) (注2)	全学共通 教養教育科目 外国語科目 英語 他 (注3)	全学共通 教養教育科目 外国語科目 英語以外の 外国語  日本語・ 日本文化 教育科目 日本語 (注4)	免許関係科目 他学部設置 科目 他 (注5) (注6)	
17	18以上	18以上	4以上	16以上	8以上	4以上		—
	56以上			40以上				—
124以上								

(注1) 全学共通教養教育科目

同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端領域科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目、日本語・日本文化教育科目（日本語を除く）、（日本の伝統と美、日本の伝統と文化、日本の伝統と芸能、日本の伝統と能楽、日本の伝統と芸術を除き、外国人留学生のみ履修することができる）、クリエイティブ・ジャパン科目から選択。

(注2) 保健体育科目については、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位を限度として卒業必要単位数に算入する。

(注3) 全学共通教養教育科目 外国語科目・英語

全学共通教養教育科目 外国語科目・英語から選択 または 外部試験結果による単位認定。

(注4) 全学共通教養教育科目 外国語科目・英語以外の外国語

外国語科目・英語以外の外国語および日本語・日本文化教育科目 日本語（外国人留学生のみ履修することができる）から選択。

F群については、一言語から4単位以上を修得すること。

※外国人留学生については、母語以外の外国語を履修すること。

(注5) 免許関係科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、早稲田大学交流協定による修得単位認定、外国協定大学における修得単位認定、チュービンゲン大学IES科目。

(注6) 早稲田大学交流協定による修得単位、外国協定大学における修得単位については、必修科目、選択科目Ⅰ、選択科目Ⅱ（D群、E群、F群）の授業科目として認定することができる科目については、当該授業科目の単位として認定する。認定することができない場合は、G群の単位として認定する。

## 2. 最高および最低登録単位数

学期および年間で登録できる単位数は次のとおりです。必ずこの単位数以内で登録してください。

年間最高登録単位数	48単位
学期最高登録単位数	30単位
学期最低登録単位数	1単位

## 3. 科目の登録

科目登録は、『履修要項』と合わせて『登録要領』をよく読み、理解のうえ行うようにしてください。

### <注意事項>

#### ●履修校地について

文化情報学部の学生は、原則として京田辺キャンパスで開講する授業科目・クラスを履修してください。京田辺キャンパス以外（今出川キャンパス、新町キャンパス、キャンパスプラザ京都など）で開講する授業科目・クラスを履修する場合は、学部の必修科目、あらかじめクラスが決まっている語学科目の履修に影響しないように注意してください。今出川校地で履修した科目の都合を理由に、京田辺校地における科目を遅刻・欠席したり、京田辺校地における科目のクラス変更を申し出ること是一切認められません。

両校地で開講されている科目については京田辺校地で開講されている科目を優先すること。

#### ●履修中止対象外科目について

授業開始後1カ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目について、定められた期間内に履修の中止を認めます。ただし、必修科目については履修中止をすることができません。

## Ⅶ. 履修の体系

必修科目、選択科目とも、所定の履修年次以降に履修するようにしてください。

### 科目群の概要と卒業要件

#### 必修科目

**必修科目は17単位すべてを修得する必要があります。**

必修科目には、文化情報学部で学べることを鳥瞰し、「ジョイント・リサーチ」で用いる手法を修得する準備のための科目のほか、3、4年次には文化に対する深い洞察を求める科目が含まれます。

4年次の「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」では、4年間の学びの集大成として卒業論文を作成します。

#### 〈「ジョイント・リサーチⅠ」「ジョイント・リサーチⅡ」を履修するための条件について〉

##### 【2018年度以前生】

研究室配属が決まっていること

##### 【2019年度以降生】

- (1) 2年以上在学していること
- (2) 研究室配属が決まっていること

##### 【2020年度以降生】

- (1) 2年以上在学していること
- (2) 卒業必要単位のうち52単位以上を修得していること
- (3) 研究室配属が決まっていること

※2年次の秋学期に研究室配属の手続きを行い、3年次より研究室へ配属されます。

#### 〈「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を履修するための条件について〉

- ① 卒業必要単位のうち100単位以上を修得していること。  
(卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入しない。\*)
- ② 「コロキウム」「アドバンスト・コロキウム」の単位を修得していること。
- ③ 3年以上在学していること。

※「1. 卒業に必要な単位数 p.5」に求められる各要件（「必修科目」「選択科目Ⅰ」「選択科目Ⅱ」「A～G 各群」）を見据えて計画的に履修すること。特定の選択科目や群に偏りすぎるとこの条件を満たさないことがあるので注意すること。

#### 選択科目Ⅰ（A群～C群）

**A群から18単位、B群から18単位、C群から4単位を含む合計56単位以上を修得する必要があります。**

##### 【A群】

- ・文化の分野を概観し、それらの理解を深める科目が含まれます。文化資源学科目、言語データ科学科目、行動データ科学科目に分類し、多様な科目の履修により、広い視野を身につけられるように配慮しています。

##### 【B群】

- ・情報関連の基本的な知識を深める科目のほか、様々な分析手法を学ぶ科目が含まれます。データ分析科目、基礎数理科目、

情報・コンピュータ科目に分類し、幅広く基礎学力の修得を可能にする履修を促しています。

## 【C群】

- さまざまな分野の担当者が、社会的に関心の高いトピックスを選び、人文・社会科学系において話題性のあるテーマを専門的に解説し、授業を行う体験型教養科目があります。

## 選択科目Ⅱ (D群～G群)

**D群から16単位、E群から8単位、F群から4単位を含む合計40単位以上を修得する必要があります。**

### 【D群】 全学共通教養教育科目

同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端領域科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目、日本語・日本文化教育科目（日本語を除く）、（日本の伝統と美、日本の伝統と文化、日本の伝統と芸能、日本の伝統と能楽、日本の伝統と芸術を除き、外国人留学生のみ履修することができる）から選択できます。

保健体育科目については、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位を限度として卒業必要単位に算入します。

### 【E群】 全学共通教養教育科目 外国語科目・英語

全学共通教養教育科目 外国語科目・英語から選択 または 外部試験結果により単位を認定します。

### 【F群】 全学共通教養教育科目 外国語科目・英語以外の外国語

外国語科目・英語以外の外国語および日本語・日本文化教育科目 日本語（外国人留学生のみ履修することができる）から選択します。

F群については、一言語から4単位以上を修得する必要があります。

（注）大学院によっては、進学にあたってフランス語やドイツ語等が必要となる場合があるのでよく検討して履修すること。

（注）外国人留学生については、母語以外の外国語を履修すること。

### 【G群】 免許関係科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、早稲田大学交流協定による修得単位認定、外国協定大学における修得単位認定、チュービンゲン大学IES科目

G群の科目は卒業単位数に含めることができます。文化情報学部が提供しているG群の科目は下表のとおりです。

コード	科目名	単位	配当年次	備考
10809120	情報処理演習	1	2～	
10809110	代数学	2	3～	
10809118	幾何学Ⅰ	2	3～	
10809119	幾何学Ⅱ	2	3～	
10809111	教科教育法B（数学）	2	3～	
10809125	経済原論	4	2～	



(注) 早稲田大学交流協定による修得単位、外国協定大学における修得単位については、必修科目、選択科目Ⅰ、選択科目Ⅱ(D群、E群、F群)の授業科目として認定することができる科目については、当該授業科目の単位として認定します。認定することができない場合は、G群の単位として認定します。

## 注意すべき科目と単位認定について

### 自由科目

- 自由科目は卒業必要単位数に算入されません。GPAにも算入されませんが、登録単位数には算入されます。文化情報学部の自由科目は下表のとおりです。

コード	科目名	単位	配当年次	備考
11610145	情報メディア	2	1～	
11610243	情報と職業	2	3～	
11630323	コンピュータと数学	2	3～	
11610111	コンピュータグラフィックス	2	1～	
11610220	情報メディア実習	1	1～	
11610244	情報と社会	2	1～	
15010150	特別支援と福祉の教育	2	1～	2017年度は科目コード： 10952242
15040010	学校図書館サービス論	2	2～	2018年度以降生のみ登録可

### 免許・資格関係科目

- 学部課程の履修と併行して、各種の免許・資格を希望する学生のために、本学では「教職課程」「博物館学芸員課程」「図書館司書課程」「学校図書館司書教諭課程」が設けられています。
- 文化情報学部の「教職課程」は、下記が取得できます。

中学教諭1種免許状		高等学校教諭1種免許状			
数学	社会	数学	情報	地理歴史	公民
○	○	○	○	○	○

- 免許・資格取得希望者は、必ず別冊の『免許・資格関係履修要項』を参照してください。  
(免許・資格取得に必要な科目は『免許・資格関係履修要項』に記載されています。)
- 免許・資格取得を希望する人は教務課免許資格係で教職課程・司書課程などの課程登録手続きをしてください。
- 文化情報学部設置科目や他学部設置科目の履修可能な科目は、最高登録単位数以内であれば卒業単位数にも免許・資格単位数にも算入されます。(ただし、自由科目は卒業単位数に算入されません。)
- 免許・資格取得に必要な科目は、最高登録単位数を超えて履修することが出来ます。この場合、卒業単位数、GPAには算入されません。(ここでいうGPAとは、卒業必要単位におけるGPAで、教育実習A・B・Cを登録するためのGPAではありません。)

1 課程履修 (例.教職課程のみ)	18単位以内
2 課程履修 (例.教職課程と図書館司書課程)	22単位以内

\*2課程とは教職課程と博物館学芸員課程のように異なった課程をさし、教職課程の2教科を意味するものではありません。このような、卒業単位数、GPAに算入されない免許・資格取得に必要な科目は、「免許・資格登録科目」と呼ばれています。この科目は登録時の種別欄に「M」と入力して登録します。

### 各科目の取り扱いについて

各科目群の取り扱いは以下のとおりです。

	必修科目・選択科目	自由科目	免許・資格登録科目
登録単位数に算入	○	○	×
卒業必要単位数に算入	○	×	×
GPAに算入	○	×	×
免許・資格取得に有効	免許・資格の課程に認定されている科目は○	免許・資格の課程に認定されている科目は○	○

### 他大学単位互換科目

- **大学コンソーシアム京都単位互換科目**は、財団法人大学コンソーシアム京都に加盟している京都地域の私立大学、短期大学、国立大学の授業科目を履修できる制度です。単位互換制度の詳細については『単位互換履修生募集ガイド』（文化情報学部事務室で配布）を参照してください。
- **同志社女子大学単位互換科目**は、同一法人内の大学である同志社女子大学の授業科目を履修できる制度です。単位互換科目の詳細については、『同志社女子大学単位互換科目履修ガイド』（文化情報学部事務室で配布）を参照してください。

### 入学前修得単位の認定について

- 入学前に、他大学もしくは本学の他学部で修得された単位（科目等履修生として修得した単位を含みます）を、本学学部学則第9条の4にもとづき、授業内容を勘案したうえで、本学部の卒業単位として認定します。認定を希望する場合は、『登録要領』を参照し、所定の期間内に申請手続きをしてください。

### 在学留学・早稲田大学学生交流について

- 在学留学制度とは、同志社大学に在学したまま、本学と交流協定を結んでいる外国の大学へ留学することです。留学先の大学で修得した単位については、授業内容を勘案したうえで本学部の卒業単位として認定します。協定校や在学留学制度の詳細は国際交流センターで配布している『外国留学の手引き』を

参照してください。

- 早稲田大学学部学生交流制度（国内留学）とは、同志社大学と早稲田大学が学生交流に関する協定を締結し、毎年相互に学部学生の派遣および受け入れをおこなっている制度です。早稲田大学で修得した単位については、授業内容・授業時間数を勘案したうえで本学部の卒業単位として認定をします。詳細は、7月末に発表される募集要項を参照してください。

### 外部試験結果による英語の単位認定について

- 「TOEFL-iBT」、 「TOEIC<sup>®</sup> Listening & Reading Test」、 「実用英語技能検定（英検）」、 「国際連合公用語英語検定」において、一定水準以上の成果を修めた場合、申請により、E群の単位として認定する。

#### (1) 単位認定する試験の種類および基準

試験の種類	4単位認定基準	8単位認定基準
TOEFL-iBT	79点以上	100点以上
TOEIC <sup>®</sup> Listening & Reading Test (IPテストは含まない)	730点以上	850点以上
実用英語技能検定（英検）	—	1級
国際連合公用語英語検定	A級	特A級

#### (2) 単位認定申請手続き

申請は、春学期、秋学期の講義開始日から1週間以内（事務室開室時間）に限る。

#### (3) 認定について

- ①認定を受けた試験において、在学中に試験結果を高めた場合は、申請により追加認定をする。  
例えば、TOEIC<sup>®</sup> Listening & Reading Testで730点以上の成果で4単位の認定を受けた者が在学中に850点以上の成果を修めた場合、さらに4単位（合計8単位）を認定する。  
但し、異なる試験で同レベルの成果を組み合わせることは認めない。
- ②試験結果は、試験実施日より1年以内のものに限り、試験実施日から1年超えるものは受け付けない。
- ③単位認定を受けた者が、英語科目を履修する場合は、それぞれの科目の配当年次にしたがって履修をすること。履修条件については、外国語の登録相談を受けること。
- ④単位認定を申請する者は、外部試験結果単位認定申請書に署名・捺印のうえ、合格証明書（原本）や成績書（原本）等を添えて提出すること。
- ⑤単位認定は、文化情報学部教授会が行う。
- ⑥認定を受けた者の成績原簿には、成績欄に「認定」と記入する。GPAには、算入しない。
- ⑦休学期間中の申請は、受け付けない。

以 上

# 大学院進学を希望するみなさんへ 「学部・奨励学生」制度について

## 制度の概要・趣旨

「学部・奨励学生」制度は、同志社大学大学院文化情報学研究科への進学を希望する本学文化情報学部生のための制度です。「学部・奨励学生」として認められた学生は、学部4年次から学部生の身分のまま文化情報学研究科博士課程（前期課程）1年次生と同じ条件で科目履修や研究を遂行することができます。「学部・奨励学生」には、定められた条件を満たすことで、本研究科へ入学後、前期課程を1年間で修了できる（「早期修了」）可能性が広がります。本制度を利用すれば、学部卒業から大学院修了までの過程にいくつかの**進路選択**（\*1）が可能となります。自身の学修計画にもとづいて進路を選択することで、より計画的に、修士学位の取得を目指すことが期待されています。

## 大学院受験と入学前単位認定

大学院への進学にあたっては、文化情報学研究科博士課程（前期課程）入学試験を受験しなければなりません。ただし、「学部・奨励学生」は、「一般入学」による受験とは別に設けられた「**特別推薦制度**」を利用することが可能です。

また、「学部・奨励学生」は、学部時代に大学院科目を先行して履修しますが、取得した大学院科目の単位は、大学院進学後、10単位を上限に単位認定（「**入学前単位認定**」）を受けることが可能です。

（注）「特別推薦制度」によって大学院へ入学する場合、入学後、一部の奨学金において給付対象とならないことがあります。受験に関する詳細は『大学院入学試験要項』を確認してください。

### （\*1）進路選択

「学部・奨励学生」の認定を受けた学生も、学部4年次では、「卒業研究」をはじめ、学部を卒業するために必要な単位の取得が必要であることには変わりはありません。その上で、大学院に設置された科目（「大学院科目」）を10単位以上並行して履修します。ここで履修する大学院科目の選択や単位の取得状況によって、次のような進路に分かれます。

- (1) 「学部・奨励学生」が、学部4年次に、『**定められた大学院科目（「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」）**』を履修し、かつ審査を経て合格となった場合、大学院進学後は、「**大学院・奨励学生**」として科目履修や研究を行うことが認められます。「**大学院・奨励学生**」は、「**入学前単位認定**」が受けられるほか、大学院1年次で修了に必要な要件を満たせば「**早期修了**」が可能です。
- (2) 「学部・奨励学生」が、学部4年次に、『**定められた大学院科目（「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」）**』を履修した場合でも、**審査の結果合格とならない場合**は、「**大学院・奨励学生**」の認定を受けることはできません。それでも、大学院入試では「**特別推薦制度**」を利用することは可能です。また、「**入学前単位認定**」を受けることも可能なため、大学院（博士前期課程）ではより研究に集中することが可能となります。
- (3) 上記(1)(2)で説明された「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」を、学部4年次に履修することは必須ではありません。学部4年次に**これらの科目を履修しない場合**、大学院進学後、「**大学院・奨励学生**」となることはできませんが、上記の場合と同様、「**特別推薦制度**」を利用して大学院を受験することや「**入学前単位認定**」を受けることが可能です。

## 「学部・奨励学生」募集要項（概要）（※詳細は、年度毎に公表される「募集要項」で確認してください。）

「学部・奨励学生」として認定を受けるためには、年度毎に公表される募集要項にもとづいて出願し、審査に合格しなければなりません。出願の時期は、3年次・秋学期（9月頃）です。募集要項の概要は、次のとおりです。

### 1. 募集人数

20名程度

### 2. 出願資格

出願時において以下の資格をすべて満たすこと。

- (1) 本学文化情報学部にて2014年4月以降に入学し、出願時において、5セメスター以上の期間在学している者。（※当制度は、2013年度以前生には適用されません。）
- (2) 本研究科への進学を希望し、本学大学院文化情報学研究科教員からの推薦を受けた者。
- (3) 3年次春学期までに修得した科目のGPAが3.0以上の者。
- (4) 3年次秋学期終了時点で「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」以外の卒業必要単位数である116単位以上を修得する見込みの者。（※各科目群に定められた卒業要件の単位修得の状況は問わない。）

注1) 編入生や転入生、3年次までに休学期間を含む者は、個別に資格判定する。

注2) 「学部・奨励学生」に決定後、出願年度の3月末において上記（1）～（4）に定めた条件を満たすことができなかった場合は、その決定を取り消す。

### 3. 出願書類

「申請書」、「研究計画書」（いずれも所定様式）、他

## 学部・奨励学生の履修条件等

「学部・奨励学生」が、学部4年次において、本来の学部履修科目とは別に文化情報学研究科で開講される科目（「大学院科目」）を履修する際の履修条件等は次のとおりです。

- ① 文化情報学研究科が第1・2セメスターに開講する授業科目の中から、10単位以上を履修しなければならない。
- ② ①による履修は、『学部における「自由科目（\*2）」』として登録履修する。

（\*2）学部における当該年度の最高登録単位には含まれるが、学部の卒業要件単位数には算入されない。

## 大学院への進学

「学部・奨励学生」が「大学院・奨励学生」として大学院へ進学する場合は次の条件を全て満たすことが必要です。

- ① 学部4年次生の期間に「学部・奨励学生」として10単位以上を修得すること。
- ② 学部4年次に「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得し、かつ所定の審査に合格すること。
- ③ 学部4年次生の年度末に学部卒業の要件を満たすこと。
- ④ 所定の入学選考に合格すること。

# 文化情報学部 科目説明

- ・「履修条件」：当該科目の履修にあたって、先のセメスターで提供されている科目を事前に履修する、または同じセメスターで提供されている科目を同時に履修することが条件となる（左側：履修条件が課される科目）。

「現象と数理」(4)	→	「微分方程式」(3)
「社会調査演習」(4)	→	「社会調査法」(3)
「ジョイント・リサーチⅡ」(6)	→	「ジョイント・リサーチⅠ」(5)
「プログラミング応用」(6)	→	「プログラミング基礎」(2)
「認知科学実習」(5)	→	「認知科学の方法」(5)
「データサイエンス入門演習」(1)	→	「データサイエンス入門」(1)
「データサイエンス演習」(2)	→	「データサイエンス基礎」(2)
「定量的データ分析演習」(3)	→	「定量的データ分析」(3)
「定性的データ分析演習」(4)	→	「定性的データ分析」(4)

- ・「事前履修科目」：その科目の内容の理解を前提にして授業を設計するため、事前の履修を強く求めるもの（学生がその科目の内容を知っていないと内容が理解できない）。
- ・「履修推奨科目」：その科目の内容の理解が当該の科目の内容理解に大きく役立つため、事前の履修を推奨するもの（その科目の内容を知っていなくてもよいが、知っているともより内容の理解が深まる）。

## 必修科目

### 「文化情報学入門」(1)

様々な文化現象における問題に対して、情報科学、数理科学、統計科学におけるどのような手法が用いられており、どのような研究成果が得られているのかを紹介するとともに、文化現象の解明や記述に対してどのような有効な手法が考えられるかを概観する。

### 「コロキウム」(2)

リサーチ・リテラシーの基礎を学ぶ。様々な文化体験や卒業研究等の発表会に参加・討論する機会を通じて文化情報学研究のおもしろさを理解する。

### 「文化情報学演習1」(2)

文化・言語現象を対象とし、基礎的な探究型演習をおこなう。グループ単位での演習を通じて先行研究・参考文献の探索、文献の読み方、興味深い現象の見方や・データ収集・分析方法などを学び、調査結果を論理的にまとめ、発表し、レポートを作成する。

### 「文化情報学演習2」(4)

人間の行動や社会に関わる現象を対象とし、基礎的な探究型演習をおこなう。グループ単位での演習を通じて先行研究・参考文献の探索、文献の読み方、興味深い現象の見方や・データ収集・分析方法などを学び、調査結果を論理的にまとめ、発表し、レポートを作成する。

### 「文化情報学演習3」(3)

ジョイント・リサーチ、卒業研究の実施に向けて実際に統計解析ソフトウェアを使用した基礎的なデータ解析の方法を習得する。データの要約・視覚化、データサイエンスによる具体的な解析の手法および解析結果の解釈の仕方やレポート作成の方法を学び、データを適切な方法で集計・解析し、レポートする能力を養う。

### 「ジョイント・リサーチⅠ・Ⅱ」(5・6)

グループ単位で創意・工夫を凝らした研究活動をおこなう。演習・講義科目で学んだ文化現象の知識やデータサイエン

スの実践力を活用し、問題を発見・解決する能力を養う。研究結果の発表・討論、レポート作成をおこなうことによって研究対象の理解を深め、卒業研究への布石とする。

### 「アドバンスト・コロキウム」(6)

卒業研究等の発表を聴き、質問やコメントなどの討議に参加することが求められると同時に、討議を通して、卒業研究のゼミの選択や自分の研究テーマを絞り込む機会とする。

### 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」(7・8)

個々の学生の関心に基づいてゼミを選択し卒業論文を作成する。副担当教員からも助言を受け、文系・理系の枠を超えた研究活動を展開する。「コロキウム」等において卒業研究の発表を行い、これまでの探究活動で得られた問題発見・解決力やプレゼンテーション能力のさらなる発展を目指す。最終的な成果は試問会にて発表を行う。

## 体験型教養科目

### 「体験型教養科目」(1～2)

文化情報学に関係した話題について最先端の知見をふまえた講義を行う。例えば、科学技術と社会・文化など。

## 文化資源学

### 「日本文化史」(1)

音楽・文学・絵画・芸道の4つの分野の中から、毎年1つの分野について、日本の伝統文化の歴史を、基礎的な知識を中心に論じる。

### 「現代文化概論」(1)

現在では国際的に認知されるようになったマンガ、アニメ、怪獣、ゲームなどの日本の現代文化の諸相を大衆メディア論やカルチュラル・スタディーズの分析方法を通して学び、日本文化の特異性を記号論的に記述する方法を習得する。

### 「文化計量学入門」(1)

データに基づいた、文化に関わる現象の計量的、客観的な

研究法について、基本的考え方、データの生成法、計量的分析法、分析の注意点等について講義する。

### 「文献学入門」(2)

『源氏物語』など複数の写本が伝来する文献について、写本間に存する本文異同から伝本の性格を比較分析する、本文批判の方法を説く。

### 「歴史文化情報入門」(2)

列島の文化史：日本の歴史を、列島各地の地域性と地域文化に注目して、遺跡・史料・地名・地形など様々な歴史文化情報の総合により見直す。

### 「歴史文化情報概説」(3)

遺跡の見方と考え方：日本の国家形成に重要な役割を果たした古墳時代を中心に、邪馬台国・伝仁徳天皇陵古墳などの論争もふまえて、古墳時代の多彩な情報の客観的な総合化の方法を考える。

### 「文献講読」(3)

『源氏物語』や『百人一首』などの日本の古典文学作品を、くずし字に親しみながら、複数の写本の本文を比較して読み進める。

### 「美術史学」(4)

美術品の歴史と意義：歴史学としての美術史、美学（哲学）史としての美術史について、伝世された日本の芸術作品に即して考察する。作品なくして美術史学が存在しえないことを究極的に見せることを目的とする。

履修推奨科目：「文献学入門」、「日本文化史」

### 「文化・社会人類学」(4)

「人類とは何か」という命題に対し、人類を取り巻く生物・形質学的進化、現象に対する反応や行動、それによる文化や社会の変容と実態を、人類の生態、進化、歴史、文化の様々な側面から検証し、無限の「文化」観や「現象」の多様性を、実際の人類学的、社会学的調査データから考察する。様々な学問分野で想定される「人類」というイキモノの定義と哲学的命題、生物遺伝子とミーム、人類やその社会を調査する方法とデータ解析、文化を実践的に扱い研究する方法。

### 「伝統音楽論」(4)

西洋と日本の古典音楽を中心に「人間と音楽のかかわり」を考え、文化情報学部での研究対象として音楽文化を扱う上で個別事象をいかに普遍化するかを探索する。

### 「歴史文化情報論」(5)

分類・編年・分布・解釈：歴史文化情報概説をふまえて、日本の考古学および歴史学研究における、主に定量的な分析の歴史と実際と課題について考える。

履修推奨科目：「歴史文化情報概説」

### 「音楽解析」(5)

日常接する多様な音楽について、音響の可視化や楽譜情報の変換などによる基礎的データの取得と客観的な分析の方法を学ぶ。また、これらのデータと音楽評価データなどとの関連性についても学ぶ。

### 「古典文化論」(5)

古典文化の可能性：近代および現代の文化が、それ以前に成立した文化をもとに成立したことを絵画を材料に明らかにする。ポスト・モダニズム論の虚妄を検証する。

履修推奨科目：「歴史文化情報入門」、「文献講読」

### 「文化記号論」(5)

衣食住などの暮らしや文学・美術・音楽・伝統芸能などの文化活動、スポーツ・流行・広告などについて、記号という代替による認識の対象と認識する意識の関係性を探る。

### 「文化解析」(6)

文学、考古学、美術などの文化領域における具体的な研究例を用い、文化現象の解明における、データに基づく計量的、客観的方法の有効性を示す。

## 言語データ科学科目

### 「ことばと文化」(1)

人間の諸活動全般を「文化」と捉え、文化とことばとの接点を探る。文化とは、文化比較の理論と実際（価値志向、自然観、関与性、時間的観念など）、日英語に見られる文化比較、男ことばと女ことばに見られる文化比較、非言語行動に見られる文化的諸相。

### 「ことばの科学」(1)

ことばを分析するための前提となる基礎知識を解説し、言語研究のおもしろさを理解してもらう。ことば、科学、ことばを科学することの意義、言語音・語・句・文の形式的性質、語・句・文の意味、ことばの獲得、ことばの使用。

### 「ことばと社会」(2)

同じ言語の話者であってもその人の性別、年齢、出身地といった属性や場面によってことばづかいが異なるような事例を解説し、ふだん何気なく使っている言語の多様性とその要因を理解させる。例えば、言語と社会、言語と社会階級、言語と民族、言語と性別、言語と場面、言語と国家、言語と地理、言語と文字体系、言語の変化等。

履修推奨科目：「ことばの科学」、「ことばと文化」、「データサイエンス基礎」

### 「世界の諸言語」(2)

世界で話されている様々な言語を取り上げ、言語間に見られる多様性の理解を目指す。さらに、世界のあらゆる言語に共通して見られる普遍的特徴や「言語とは何か」という問題についても考察する。世界の諸言語、言語の分類、言語の多様性、言語の普遍性。

履修推奨科目：「ことばの科学」

### 「コーパス言語学」

コーパス（言語研究に使用するために大量に収集された書き言葉および話し言葉のテキスト）と語の出現頻度や出現状況を可視化するコンコーダンスソフト等を利用して、言語をより広く深く理解することを目指す。例えば、コーパスの作成、コーパス検索の技術、コーパス頻度の処理、コーパスに基づく語彙・用例・文法研究、学習者コーパスの利用等。

履修推奨科目：「ことばの科学」

## 「言語研究の方法1」(3)

言語分析に関する一般的な概念や研究方法について、音・語・文・意味のレベルで解説する。主として、英語・日本語のデータを分析対象とする。言語の一般的性質、動物の「ことば」、音声学、音韻論、形態論、語形成、統語論、意味論、語用論。

履修推奨科目：「ことばの科学」

## 「言語類型論」(3)

個別言語を比較・対照し、言語間に共通する特徴を探る。歴史的に関係づけることができない共通の特徴をどのように抽出するのか議論する。また、言語間の特徴の分析や言語の分類と理論化について学ぶ。語形成、品詞分類、格、語順、ヴォイス。

履修推奨科目：「世界の諸言語」

## 「音韻論」(4)

言語音の音韻的性質を記述・分析する方法を学ぶ。具体的には、音素をどのように決定するのか、音素は音韻的・形態的環境に基づいてどのように表層に現れるのか、音素同士はどのように結合してより大きい単位を構成するのか、音素とは別にアクセントやイントネーションなどの韻律的特性がどのように具現するのかなど、自然言語の様々な音韻的現象を扱う。

事前履修科目：「ことばの科学」、「世界の諸言語」

## 「言語研究の方法2」(4)

この講義では、これまでに学んだ音韻分析・形態分析・統語分析・意味分析などの方法を活かした言語データの分析をおこない、従来の記述の妥当性を考察する。未だ十分な説明を与えられていない言語現象を取り上げ、記述の一般化を図る。

履修推奨科目：「言語研究の方法1」

## 「語用論」(5)

ことばを理解・発することを行動の1つとして捉え、ことばが実際の会話や文章の中でどのように理解され、その後の行動に影響を及ぼしているのかについて論じる。例えば、命題の意味と話者の意図、発話行為、協調の原理、文脈、談話構造など。

履修推奨科目：「言語研究の方法1」

## 「統語論」(5)

自然言語の可能な記号列を生み出すモデルを概観する。モデルがどのような言語データや理論的問題に直面することによって修正・破棄されるのか、その歴史的変遷を辿り、モデルの妥当性を考察する。生成文法、オートマトン、初期理論、標準理論、改訂標準理論、改訂拡大標準理論、Tモデル、原理とパラメータ理論。

履修推奨科目：「言語研究の方法2」

## 「言語と脳科学」(6)

言語データからどのように言語を生み出す脳内の神経生理学的メカニズムを探ることができるのか議論する。自然言語の普遍的性質、脳の基本構造と言語野、生得仮説、言語能力の獲得と損傷、生物言語学、脳機能イメージング、言語の神経生理学的性質。

履修推奨科目：「統語論」

## 「認知言語学」(5)

ことばは人間がもっている認知能力の反映であるという仮定に基づき、ことばの意味とは何か、また、ことばの意味が多様に解釈されるのはなぜかについて論じる。例えば、言語と認知能力、意味の定義と記述方法、カテゴリ化、プロトタイプ、比喩、文法化、多義性など。

履修推奨科目：「言語研究の方法1」

## 行動データ科学科目

### 「身体論」(1)

あらゆる知の発生基盤である「身体」について考える。多分野にわたる研究者、専門家が「身体」に関わるトピックを提供し、「身体」を契機とした諸問題を概観する。

### 「社会調査入門」(2)

社会調査の方法について基本的な知識を習得する。社会調査の歴史的背景、目的、必要性、意義、種類と事例(量的調査、質的調査、国勢調査、官庁統計、世論調査、市場調査など)、調査に伴う倫理な問題点について解説し、社会を正しく知るための社会調査の入門的知識を学ぶ。

事前履修科目：「データサイエンス入門」

履修推奨科目：「データサイエンス基礎」

### 「認知科学入門」(2)

認知科学における基礎的な概念を学び、心や知性を科学的に理解することは可能か、という問いに答える。例えば、心身問題、表象主義、認知科学における計算の概念など。

### 「社会調査法」(3)

社会調査におけるデータ収集方法と調査データ分析方法を習得する。例えば、調査企画と設計方法、仮説の構成、標本抽出法、質問文・調査票の作成、調査の実施法、データの集計方法、量的・質的データの分析方法など社会におけるデータに基づいた問題の発見と探究方法を学ぶ。

事前履修科目：「社会調査入門」

履修推奨科目：「定量的データ分析」

### 「計量社会学」(3)

既存の社会学諸分野にとらわれず、社会システム・諸社会現象への理解や行動科学に必要な統計的・数理的な専門知識を身につける。研究設計、既存資料の活用、データの収集・分析などに関する方法論と、社会科学研究を遂行するための計量的な技能を学ぶ。

事前履修科目：「データサイエンス基礎」

履修推奨科目：「線形代数」「微分積分」

ただし、「データサイエンス基礎」が未履修の2017年度生で、本科目の履修を希望する者は、事務室に申し出ること。

### 「感覚・知覚論」(3)

人間が外部世界の心的表象をどのように形成しているのかに関する感覚・知覚の知見に関して講義を行う。例えば、視覚システムの基礎、明るさ・色の知覚など。

履修推奨科目：「認知科学入門」

### 「人間と文化」(3)

文化領域を学習するための基礎科目である。文化を芸術に限らず、たとえば宗教や都市化など、広く人間が活動する



すべての領域としてとらえ、文化と人間の関係を文化理論を用いて講義する。

#### 「比較文化論」(4)

異なった地域や集団の文化、あるいは、ある文化の過去と現在など、2つ以上の文化形態を比較・対照し、文化理論を用いて特定の文化現象を記述する方法を講義する。

#### 「社会調査演習」(4)

社会調査入門、社会調査法などで学んだ知識に基づいて、調査の企画から報告書の作成までの一連のプロセスについて実習・演習を行う。例えば、調査の企画、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施、ソフトウェアを用いたデータの整理・集計・分析、報告書の作成など。

履修条件科目：「社会調査法」

#### 「視覚表現論」(4)

図、絵画、写真、映像などの視覚表現を、人類が継承する重要な文化として捉え、視覚表現の様々な方法、形態、機能を概観する。また、主として認知科学の観点から、視覚表現の機能を科学的に研究する方法の基礎を学ぶ。

履修推奨科目：「論理と数理」「認知科学入門」「感覚・知覚論」

#### 「身体メディア論」(4)

原初的感性メディアである「身体」を媒介として伝達される情報の発信・受信メカニズムや、非言語コミュニケーションにおける「身体」の果たす役割について概観する。

履修推奨科目：「身体論」

#### 「行動計量分析法」(5)

「文化とは何か」という命題に対し、それが人々の様々な「行動」によって作り出され、人間生活を豊かにする新しい価値を生み出すものであると定義し、文化を理解するための具体的な計量対象としての人間行動に照準を合わせ、行動にかかわるデータの獲得・分析の論理と手法、結果解釈までの方法論と実践的な適用を学ぶ。

履修推奨科目：「文化・社会人類学」、「定量的データ分析」、「定性的データ分析」

#### 「認知科学実習」(5)

「認知科学の方法」で概観する研究方法を中心に実習を行う。

履修条件科目：「認知科学の方法」

#### 「認知科学の方法」(5)

認知科学で用いられる研究方法で、文化の研究に関連したものを取りあげて概観する。例えば、尺度構成、行動観察、認知研究など。

#### 「社会ネットワーク分析」(6)

個人や組織の関係をネットワーク理論から捉え、様々な集団のダイナミズムやリーダーシップ構造の分析に有用な知識を習得する。ネットワークの概念、原理及びデータの獲得・活用に関する理論とともに、パーソナル・ネットワーク、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)、組織文化などへの応用技能を学ぶ。

事前履修科目：「社会調査法」

履修推奨科目：「情報理論」「最適化法」「比較文化論」

#### 「認知システム論」(6)

人間の認知システムについて、主だった実験結果や理論を概観する。例えば、注意、記憶、カテゴリー化など。

履修推奨科目：「感覚・知覚論」

### データ分析科目

#### 「データサイエンス入門」(1)

データ処理と記述統計の基礎を学ぶ。データ、データの尺度水準、データの要約と視覚化、記述的な回帰分析。

履修条件科目：「データサイエンス入門演習」

#### 「データサイエンス入門演習」(1)

データサイエンス入門の内容に対応して、実際に表計算ソフトウェアを用いた演習を行う。データ処理、データの要約と視覚化、回帰分析の演習。

履修条件科目：「データサイエンス入門」

#### 「データサイエンス基礎」(2)

確率と推測統計の基礎を学び、実際に問題に対して推測統計の方法を適用し、結果を解釈する方法を学ぶ。確率変数と確率分布(数学的ではなく素朴に)、期待値と分散、基本確率分布、母集団と標本、推定と検定、分散分析(数学的ではなく具体的に)、分割表と独立性の検定。

事前履修科目：「データサイエンス入門」、「データサイエンス演習」

#### 「データサイエンス演習」(2)

データサイエンス基礎の内容に対応して、実際に表計算ソフトウェアを用いた演習を行う。各種統計量の導出、推定と検定、分散分析、独立性の検定。

履修条件科目：「データサイエンス基礎」

事前履修科目：「データサイエンス入門」、「データサイエンス入門演習」

#### 「定量的データ分析」(3)

人類の文化・社会を対象とし、様々な量的データから現象の本質を見抜く論理と方法を学ぶ。データの次元、多次元データの縮約、多次元データの固有値問題、などのデータの論理。主成分分析・判別分析・回帰/重回帰分析・クラスター分析・因子分析・系統分析などの分析の手法。データ分析の論理と手法によって、人類の生態や心理、行動や社会・文化などの多様なテーマに沿って、データの作成→評価→分析→評価→解釈という手順を追った実践形式での講義を行う。

履修条件科目：「定量的データ分析演習」

事前履修科目：「データサイエンス基礎」

#### 「定量的データ分析演習」(3)

定量的データ分析で学んだ様々な分析事例を踏まえ、より実用的なデータ分析を受講生自らが演習形式で実践し、論理や手法の応用力を育成する。人類を取り巻く様々な現象を具体的に引き上げ、データ解析ツールを用いて分析し、その現象の解釈を行う(受講生自らが主題を選定し、命題をたて、データ作成から分析→解釈までを実践する)。

履修条件科目：「定量的データ分析」

事前履修科目：「データサイエンス演習」

## 「定性的データ分析」(4)

文化科学や社会科学におけるカテゴリカルデータ分析の論理と方法を理解することを目指す。例えば、カテゴリカルデータの記述と整理、カテゴリカルデータの確率分布、カテゴリカルデータの推測統計、分割表のモデリング、ロジスティック回帰、対応分析などに関する知識と方法について学ぶ。

履修条件科目：「定性的データ分析演習」

事前履修科目：「定量的データ分析」

## 「定性的データ分析演習」(4)

定性的データ分析で学んだ知識の理解を深め、データに基づいた問題解決のスキルを向上する。データ解析専用ツールを用いて、定性的データ分析で学んだ知識と手法について演習を行う。

履修条件科目：「定性的データ分析」

事前履修科目：「定量的データ分析演習」

## 「ベイズ統計」(5)

ベイズ統計法とは、事象の条件付確率から導かれるベイズの定理に基づいて推論を行う統計分析手法である。本講義では、基本的なベイズ統計の理論、実用的なベイズ統計モデルを用いた分析法に加え、ベイズ法の実装に中核的な役割を果たすマルコフ連鎖モンテカルロ法について学習する。ベイズの定理、ベイズ決定、事後分布、事前分布、マルコフ連鎖モンテカルロ法、ベイズ学習。

事前履修科目：「確率統計」、「数理統計」

## 「機械学習」(5)

データに基づいた特徴抽出、予測、判別・識別のための機械学習法について、教師なしの学習法と教師ありの学習法を中心として統計的機械学習法およびアンサンブル学習法、カーネル法、ニューラルネットワーク学習法などについて学ぶ。

事前履修科目：「定量的データ分析」

履修推奨科目：「定性的データ分析」

## 「データハンドリング」(6)

多様な入力形式に対応しファイル管理能力が極めて高い汎用統計パッケージSASを用いて、データハンドリング、データ集計の実習を行う。様々な外部データの読み込み、データクレンジング、データセットの加工、集計、外部ファイルへの出力など。

履修推奨科目：「定量的データ分析」「定性的データ分析」「データベースシステム」

## 「テキストマイニング」(6)

テキストから情報・知識を発掘する論理と方法を学ぶ。例えば、テキストの前処理（洗浄、形態素解析、構文解析）、テキストからデータの抽出、テキストの特徴分析、テキストの分類など統計的機械学習法による情報・知識の抽出と発見に関する基礎知識や主な方法と応用。

事前履修科目：「機械学習」

履修推奨科目：「翻訳解析」、「コーパス言語学」

## 基礎数理科目

### 「数学入門」(1)

高校数学の復習から始めて大学数学の基礎を学ぶ。数、数列とその和、関数、関数のグラフ、多項式とその性質、方程式、3角関数、指数関数、対数関数、これらの関数の基本的な性質とその微分積分、関数の近似。

### 「論理と数理」(1)

一階述語論理の理解をとおして論理的な推論の方法を学ぶ。また、基礎的な集合論を題材に、論証の方法を学ぶ。一階述語言語（命題演算、量化子、標準形）、一階述語論理における証明、集合論の基礎（集合、集合に対する演算、関係、関係の性質）、集合論における証明、ブール代数。数学的帰納法。

### 「線形代数」(1)

線形代数の基礎を学ぶ。ベクトル、行列、行列式の定義と基本的な計算、基本的性質、線形独立性、基本変形、階数、連立1次方程式、正則行列、逆行列、固有値と固有ベクトル。

履修推奨科目：「数学入門」

### 「離散数学」(2)

離散数学の道具を使って世界を把握する方法を学ぶ。同値関係と集合の分割、集合としての関数（関数の要件、関数の分類）、順序集合（全順序と半順序、同型写像）、グラフ理論の基礎概念（有向グラフ、無向グラフ、連結グラフ、オイラーグラフ、ハミルトングラフ、根つき木、順序木、二分木）。

履修推奨科目：「論理と数理」

### 「微分積分」(2)

微分積分学の基礎を学ぶ。微分積分の定義と基本的な計算、基本的性質、関数、微分と偏微分、微分の諸公式、極値問題、近似式、積分と重積分、積分の諸公式。

履修推奨科目：「数学入門」、「線形代数」

### 「確率・統計」(3)

統計的データ処理の基礎を数理的に学び、確率と統計の基礎概念について学ぶ。1変量データの要約、2変量データの要約、事象と完全加法族、確率と確率空間、条件付き確率と事象の独立、確率変数、確率分布、分布関数、確率密度関数、積率、積率母関数、主な連続型確率分布と離散型確率分布。

事前履修科目：「線形代数」、「データサイエンス基礎」

履修推奨科目：「離散数学」、「微分積分」

### 「微分方程式」(3)

文化現象を記述する方程式として、各種の常微分方程式の解法を学ぶ。現象と微分方程式、1階微分方程式（一般解・初期条件、変数分離形・同次形、線形微分方程式）、2階線形微分方程式（重ね合わせの原理、定数変化法、特殊解）、微分方程式系（非自律系・自律系、線形・非線形）。

事前履修科目：「線形代数」、「微分積分」

履修推奨科目：「確率・統計」

#### 「数理統計」(4)

推測統計の基礎的概念を学ぶとともに、推定法、検定法の理論について学ぶ。母集団、標本、統計量、大数の法則、中心極限定理、十分統計量、標本分布、推定量の性質、フィッシャー情報量、推定法、区間推定、正規母集団の母数の区間推定、比率、比率の差の区間推定検定の性質、尤度比検定、適合度検定、独立性の検定、正規母集団の母数の検定、比率、比率の差の検定。

事前履修科目：「確率・統計」

#### 「最適化法」(4)

与えられたシステムとデータに対して最も適切な判断を行うための方法論について、微分積分学、線形代数、幾何学などの数理的手法を用いた理論的背景と、応用計算機科学にもとづく実践的手法をそれぞれ学ぶ。数理最適化、線形計画法、半正定値最適化、凸最適化、非線形最適化、ネットワーク最適化、組合せ最適化、単体法、内点法。

事前履修科目：「線形代数」、「微分積分」

#### 「現象と数理」(4)

現象を記述する方程式として、各種の微分方程式について学ぶ。現象と微分方程式、1階線形常微分方程式、2階線形常微分方程式、線形偏微分方程式（重ね合わせの原理、特殊解、型分類）、変数分離法、フーリエ級数。

履修条件科目：「微分方程式」

履修推奨科目：「微分積分」

#### 「多変量解析」(5)

線形代数、微分積分および数理統計の知識を前提とし、種々の多変量解析の方法について、数理的に教授する。記述的多変量解析法を中心としながら、多変量推測統計についても触れる。多変量データ行列、平均ベクトル、共分散ベクトル、分散共分散行列、相関行列、線形モデル、一般化線形モデル、構造方程式モデリング。

事前履修科目：「線形代数」、「微分積分」、「確率・統計」、「数理統計」

#### 「数理モデル」(5)

人間と社会が織りなす文化生態系の諸現象を説明する数理モデルの構築と解析、検証の方法を学ぶ。生物社会の競争と共生の数理モデル、集団遺伝学と生物の進化の数理モデル、ゲーム理論と文化の伝播、文化生態系の数理モデル。

事前履修科目：「微分積分」、「微分方程式」

履修推奨科目：「確率・統計」、「現象と数理」、「数値計算」

#### 「数値解析」(5)

コンピュータを使った各種の方程式を解くための数値計算法について学ぶ。例えば、方程式の数値解法（2分法、ニュートン法）、連立1次方程式（ガウスの消去法）、曲線の補間法（ラグランジュ補間、スプライン補間）、数値積分、疑似乱数の生成法、常微分方程式の数値計算法（オイラー法、ルンゲ・クッタ法）、偏微分方程式の数値計算法（差分法）など。

事前履修科目：「微分方程式」

履修推奨科目：「現象と数理」

#### 「時系列解析」(6)

時間とともにランダムに変動する現象のデータ（時系列デ

ータ）の解析法を学ぶ。時系列データ、スペクトル、ピリオドグラム、自己回帰モデル、自己回帰移動平均モデル、状態空間モデル。

事前履修科目：「数理統計」、「多変量解析」

#### 「決定理論」(6)

ものやことの決め方や選択を支援する各種の数理的手法について学習する。不確実性と決定、ベイズ意思決定、ミニマックス決定、ゲームの理論、効用関数、投票とパラドックス、個人的選択と社会的選択。

履修推奨科目：「数理統計」、「多変量解析」

### 情報・コンピュータ科目

#### 「プログラミング入門」(1)

基礎的な教養として、また就職の際のスキルとして年々重要度が高まっているプログラミングを行う上で必要最低限の事項を理解する。例えば、変数、演算子、繰り返し、分岐、配列など。

履修推奨科目：「論理と数理」

#### 「情報倫理」(1)

高度情報化社会における計算機使用者のモラルや職業倫理、そしてそれらとメディアに関わる問題について学ぶ。例えば、情報倫理学、情報セキュリティ（物理的セキュリティ、データセキュリティ、システムセキュリティ、管理運用セキュリティ）、個人情報・プライバシー侵害、情報操作（情報のねつ造、情報の改ざん、情報の破壊）、知的所有権、著作権、コンピュータ犯罪（ハッカー行為とウイルス）など。

#### 「プログラミング基礎」(2)

多くのプログラミング言語で活用されているオブジェクト指向プログラミングの考え方の基礎を理解する。例えば、メソッド、クラス、インスタンス、再帰など。

事前履修科目：「プログラミング入門」

#### 「コンピュータの仕組み」(2)

コンピュータを構成する各要素の動作原理と役割、相互関係を学ぶ。例えば、コンピュータの基礎（数値表現、データ表現）、コンピュータの五大装置と相互関係、外部機器とのインタフェース、基本ソフトウェア（オペレーティングシステム）、応用ソフトウェアなど。

履修推奨科目：「論理と数理」

#### 「プログラミング応用」(3)

実用的なプログラムを作成する能力を実際にアプリケーションを作成していく過程を通じて理解する。例えば、Webフロントエンド技術（HTML、CSS、JavaScript、SVG）、バックエンド技術（サーバクライアントモデル、TCP/IP、HTTP）など。

履修条件科目：「プログラミング基礎」

事前履修科目：「インターネット技術」

#### 「情報理論」(3)

情報の定量化や符号化に関する理論を通じて様々な視点から考察し、情報という概念がどのように表現され扱われているのかを学ぶ。例えば、自己情報量、相互情報量、エン

トロピー、シャノン符号、ハフマン符号、2進法、論理回路、論理関数。

履修推奨科目：「論理と数理」、「数学入門」

## 「情報セキュリティ」(4)

教養としての情報セキュリティから様々な脅威に対する最新セキュリティ技術までを学ぶ。例えば、プライバシーや情報開示・情報操作、個人情報保護、情報セキュリティと法、セキュリティ・マネジメント、暗号技術など。

履修推奨科目：「情報倫理」、「コンピュータの仕組み」

## 「データベースシステム」(4)

データベースの基本概念、データベース言語SQLおよびデータベース管理システムの仕組みについて学び、その演習を行う。例えば、データモデル、関係代数、データベースの正規化、SQL、データベース管理システム（障害回復、トランザクションなど）など。

履修推奨科目：「論理と数理」、「離散数学」

## 「情報アクセス技術」(5)

情報アクセスの基本となる情報検索の概念とその実現手法について学ぶ。例えば、情報アクセスの基礎（システムの構成要素、索引付け、検索質問、検索モデル）、検索システムの評価、自然言語処理技術の利用、インタラクションなど。

## 「アルゴリズムとデータ構造」(5)

効率のよいプログラムを作成するために、データの操作手順であるアルゴリズムと、データを計算機上で表現するためのデータ構造について学ぶ。計算量の問題、アルゴリズム（ソート、サーチなど）、データ構造（リスト、ヒープ、ハッシュ、ツリー、グラフ）など。

履修推奨科目：「プログラミング基礎」、「離散数学」、「線形代数」

## 「ヒューマンコンピュータインタラクション」(6)

人間がコンピュータと行うインタラクションの基本特性、ならびに生産性を向上するインターフェース構築のための設計ガイドラインとその評価法について学ぶ。例えば、ヒューマンコンピュータインタフェースの基礎、人間の感覚・知覚、人間の生理特性、人間の認知と理解、人間特性を考慮したインタフェースの設計、対話型システムのデザイン、入力インタフェース、ビジュアルインタフェース、情報視覚化、人とコンピュータのコミュニケーション、空間型インタフェース、協同作業支援のためのマルチユーザインタフェース、インタフェースの評価など。

履修推奨科目：「コンピュータの仕組み」、「情報アクセス技術」

## 「翻訳解析」(6)

コンピュータを用いた自然言語理解における意味解析、文脈解析技術、およびこれらを総合した翻訳技術について学ぶ。例えば、自然言語処理技術（形態素解析、構文解析、辞書、コーパスなど）、機械翻訳とその応用、多言語処理など。

履修推奨科目：「言語研究の方法1」

# 履修モデル

## ☆ 情報科学を体系的に学ぶ

情報科学とは、情報の生成や活用、情報システムと人間との相互作用に関する研究であるといわれている。ある問題を解決するために問題自体に着眼し、コンピュータを用いてどのように解決すればよいのかを考えることが重要である。そのために必要な基礎知識を体系的に学ぶ。

文化資源学	文化計量学入門
言語データ科学	コーパス言語学、統語論
データ分析	データサイエンス入門、データサイエンス基礎、定量的データ分析、機械学習、テキストマイニング
基礎数理	線形代数、論理と数理、離散数学など
情報・コンピュータ	情報倫理、プログラミング入門、プログラミング基礎、情報理論、コンピュータの仕組み、アルゴリズムとデータ構造、情報アクセス技術、翻訳解析、データベースシステム、プログラミング応用など

## ☆ グラフィック・デザインを論理で解明する

効果的なチラシやポスター、人の目を引くパッケージやロゴ、分かりやすい図やチャート、人気が出る漫画や絵本とは、どのようなものだろうか。グラフィック・デザイナーのプロの技を、認知科学と論理学の視点から解明してみよう。

文化資源学	現代文化概論、美術史学、文化記号論など
言語データ科学	ことばの科学、認知言語学など
行動データ科学	認知科学入門、身体メディア論、感覚・知覚論、認知科学の方法、認知科学実習、視覚表現論、認知システム論など
データ分析	データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習など
基礎数理	論理と数理など

## ☆ 芸術を科学する基礎力を獲得する

高等学校の科目名に「芸術」があったが、大学の文化情報学部の教育においては演奏行為や創作行為そのものをするわけではない。文化として芸術諸領域を総合的に理解するという、本来年季と素養が必要なことを授業を通じて学び、美術館や音楽会に足を運んで自力で養いつつ、哲学を学び認知のしくみを理解し、科学する力をつけなければならない。情報を集めて整理して分析にかけて解釈し、予測したことと分析結果がどのような説明で繋がるかを深く思索する。通説や常識にとらわれず、様々な分析の手法を駆使しながら、見えないものを読みとる力がつくように、学びを深めてほしい。

文化資源学	日本文化史、文化計量学入門、文献講読、美術史学、伝統音楽論、古典文化論、文化記号論、歴史文化情報論、文化解析、音楽解析
言語データ科学	認知言語学、語用論
行動データ科学	身体論、認知科学入門、身体メディア論、感覚・知覚論、視覚表現論、行動計量分析法、人間と文化、比較文化論
データ分析	データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析、定量的データ分析演習、定性的データ分析、定性的データ分析演習
基礎数理	数学入門

## ☆ 人間と感性について体系的に学ぶ

西洋にあっては感性は理性と対立する人間の資質で、これはデカルトとパスカルの哲学を峻別するものとして表出している。近代科学を切り開いたデカルトの科学方法論は人文科学を含む諸科学において大きな成功を収め、この陰にパスカルのバトスに通じる感性は埋もれて来た。一方、東洋とくに日本においては、感性は必ずしも理性に対峙するものとしては捉えられず、豊かな人間性の表象として、重要視されて来た。感性の数理的学としてのファジィ理論はこのような文化を持つ日本に定着し、更に日本発のKANSEI工学が生まれるに至った。「人間と感性」ではこのような意味を持つ人間の感性を数理的に表現する方法を体系的に学ぶ。

言語データ科学	認知言語学、語用論、言語と脳科学など
行動データ科学	感覚・知覚論、認知システム論、人間と文化、比較文化論など
データ分析	定量的データ分析、定性的データ分析など
基礎数理	論理と数理、確率・統計、微分方程式、数理モデル、決定理論など

# 履修モデル

## ☆ 人間と情報について総合的に学ぶ

ヒトの進化の歴史は情報の利用の歴史でもある。ヒトの世代交代が遺伝情報によって担われているように、人間社会と情報は切り離せない関係にある。情報は個体、少人数の個体集団、多人数の社会集団、隔世的社会集団の継続的關係に本質的に関わる。情報の本質を深く知るために、ヒトの進化の歴史を概観し、人類が作り出した言語と文化・社会を学び、この連関において情報を考察する。

**文化資源学科目** 日本文化史、現代文化概論、文化記号論、文化解析、文化・社会人類学など

**言語データ科学科目** ことばの科学、ことばと文化、ことばと社会、認知言語学、語用論、言葉と脳科学など

**行動データ科学科目** 認知科学入門、感覚・知覚論、視覚表現論、認知システム論、人間と文化、比較文化論など

**情報・コンピュータ科目**  
情報倫理、コンピュータの仕組み、アルゴリズムとデータ構造、情報アクセス技術、データベースシステムなど

## ☆ 文化的行動を認知科学的に学ぶ

人間がモノをどのようにとらえ、どのように働きかけるかは文化の生成や発展にとって重要である。その一方で、文化はそこに生きる人間の行動に影響を与えている。例えば、道具を使いこなしたり、作品の創造性や美しさを評価したりといった日常生活における行動がどのようなしくみに基づいているのかを認知科学的に学ぶ。

**文化資源学科目** 現代文化概論、人間と文化、伝統音楽論、美術史学、文化記号論など

**言語データ科学科目** 認知言語学など

**行動データ科学科目** 認知科学入門、感覚・知覚論、身体メディア論、認知科学の方法、認知科学実習、視覚表現論、認知システム論など

**基礎数理科目** 数学入門、論理と数理、決定理論など

**情報・コンピュータ科目**  
情報理論、情報倫理など

## ☆ 文化の諸現象の解明

現象の洞察から始め、その現象の解明に必要な情報は何かを考察し、その情報をデータ化し、加工し、分析するという、データに基づいて現象の解明を試みる「データサイエンス」の観点から、文学、美術、考古学、歴史学、伝統芸能、意識などの文化に係わる諸現象を計量的に解明する方法について学ぶ。

**文化資源学科目** 日本文化史、文化計量学入門、歴史文化情報入門、文献学入門、歴史文化情報概説、文献講読、古典文化論、伝統音楽論、美術史学、歴史文化情報論、文化解析

**言語データ科学科目** 言語研究の方法1、コーパス言語学

**行動データ科学科目** 認知科学の方法、社会調査入門、社会調査法、社会調査演習、行動計量分析法

**データ分析科目** データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析、定量的データ分析演習、定性的データ分析、定性的データ分析演習、機械学習、テキストマイニング、データハンドリング

**基礎数理科目** 数学入門、線形代数、確率・統計、数理統計、多変量解析、時系列解析

**情報・コンピュータ科目**  
プログラミング入門、プログラミング基礎、アルゴリズムとデータ構造、翻訳解析、データベースシステム

## ☆ データサイエンスについて体系的に学ぶ

データサイエンスと数理科学を理解し、これらを通じて、実際の社会のさまざまな人間の営み（文化）を理解することにより、データサイエンスの実践力をつけることは、これからのあなたの人生を豊かにし、明るい人間社会を築く手段を与えることとなります。データサイエンスを体系的に学ぶことにより、実際の社会に潜む不思議を見出し、関連性や法則性などの特徴を発見し、概念化しようとする事により、課題発見解決能力や概念化能力、情報能力などを身につける。

**文化資源学科目** 日本文化史、文化計量学入門など

**言語データ科学科目** 世界の諸言語など

**行動データ科学科目** 身体論、認知科学入門、社会調査入門、社会調査法など

**データ分析科目** データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析など

**基礎数理科目** 数学入門、線形代数、微分積分、確率・統計、微分方程式、現象と数理、数理モデル、数理統計、多変量解析、時系列解析、決定理論、数値解析など

**情報・コンピュータ科目**  
プログラミング入門、プログラミング基礎など

### ☆ 人間の文化や動物の行動を数理モデルを用いて体系的に学ぶ

人間と社会が織りなす様々な文化現象の背後に潜むメカニズムや法則性を数理モデルを用いて理解することを目指し、数理モデルの枠組みやその解析法について学ぶ。

- 文化資源学** 日本文化史、文化計量学入門、文化・社会人類学など
- 言語データ科学** 世界の諸言語など
- 行動データ科学** 認知科学入門など
- データ分析** データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析など
- 基礎数理** 数学入門、線形代数、微分積分、確率・統計、微分方程式、現象と数理、数理モデル、時系列解析、決定理論、数値解析など
- 情報コンピュータ** プログラミング入門、プログラミング基礎など

### ☆ 文化を対象にデータ分析を網羅的に学ぶ

文字、画像、動画、音響などのあらゆる情報（データ）からの知識発見の方法について網羅的に学ぶ。統計学を中心としたデータサイエンスの各手法の理論および応用について深く極め、データ分析の専門家を目指す。

- 文化資源学** 文化計量学入門、文化解析など
- 言語データ科学** ことばの科学、コーパス言語学、言語研究の方法1、言語研究の方法2、統語論など
- 行動データ科学** 認知科学入門、認知科学の方法、認知科学実習、社会調査入門、社会調査法、社会調査演習、行動計量分析法など
- データ分析** データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析、定量的データ分析演習、定性的データ分析、定性的データ分析演習、機械学習、テキストマイニング、データハンドリングなど
- 基礎数理** 論理と数理、離散数学、線形代数、微分積分、確率・統計、数理統計、多変量解析、時系列解析など
- 情報・コンピュータ** プログラミング入門・基礎、数値解析、アルゴリズムとデータ構造、情報アクセス技術、翻訳解析、プログラミング応用など

### ☆ ことばと文化・社会について体系的に学ぶ

ことばには様々な側面があり、ことばが話されている文化や社会によって少なからず影響を受けています。英語や日本語に関するデータを大量に集め、それぞれの特徴が文化や社会現象とどのような関係があるのか突き詰めて調べていくと、そこには新しい発見があるはず。文化クラスターでは言語データ科学科目を中心に、文化や社会に関する科目、データサイエンス科目では、データ分析科目を中心に履修するとよいでしょう。

- 文化資源学** 現代文化概論、文化記号論など
- 言語データ科学** ことばの科学、ことばと文化、世界の諸言語、ことばと社会、言語研究の方法1、コーパス言語学、言語研究の方法2、語用論など
- 行動データ科学** 視覚表現論、社会調査入門、社会調査法、人間と文化、比較文化論など
- データ分析** データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習など
- 基礎数理** 数学入門、論理と数理、確率・統計など

### ☆ ことばとこころの関係について体系的に学ぶ

ことばを話すためには、<こころ>の働きが不可欠です。<こころ>からことばが生み出される仕組みを探ることは容易ではありませんが、認知のメカニズム、ことばを生み出すメカニズムについて学び、様々な実験をおこなうことによって、ことばと<こころ>の相互作用を見いだすことが可能になります。文化クラスターでは言語データ科学科目と認知に関わる行動データ科学科目を中心に、データサイエンス科目では、言語や心理データを解析するために必要なデータ分析科目を中心に履修するとよいでしょう。

- 文化資源学** 文化記号論など
- 言語データ科学** ことばの科学、世界の諸言語、言語類型論、言語研究の方法1、言語研究の方法2、統語論、認知言語学、語用論、言語と脳科学など
- 行動データ科学** 認知科学入門、感覚・知覚論、認知科学の方法、認知科学実習、認知システム論、行動計量分析法、人間と文化など
- データ分析** データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習など
- 基礎数理** 数学入門、論理と数理、確率・統計など
- 情報・コンピュータ** 情報理論など

## ☆ ことばとコンピュータの関係について体系的に学ぶ

人とコミュニケーションができるコンピュータを作ることは人類にとって長年の夢ですが、それを実現するためにはやらなければならないことがたくさんあります。私たちが人と会話をすると、どのような決まり事や共通した特徴があるのか考えることは、自然な会話ができるコンピュータの開発にとって重要です。コンピュータの特性を知っておくことも必要です。文化クラスターでは言語データ科学科目を中心に、行動データ科学科目、データサイエンス科目では、情報・コンピュータ科目及びデータ分析科目を中心に履修するとよいでしょう。

<b>文化資源学</b> 科目	文化計量学入門、文化記号論、文化・社会人類学など
<b>言語データ科学</b> 科目	ことばの科学、ことばと文化、ことばと社会、言語研究の方法1、コーパス言語学、言語研究の方法2、認知言語学、語用論など
<b>行動データ科学</b> 科目	認知科学入門、感覚・知覚論、認知科学の方法、認知科学実習、認知システム論、行動計量分析法など
<b>データ分析</b> 科目	データサイエンス入門、データサイエンス基礎、定量的データ分析、定性的データ分析、機械学習、テキストマイニングなど
<b>基礎数理</b> 科目	線形代数、論理と数理、離散数学など
<b>情報・コンピュータ</b> 科目	コンピュータの仕組み、情報倫理、プログラミング入門、プログラミング基礎、アルゴリズムとデータ構造、翻訳解析、情報アクセス技術、ヒューマンコンピュータインタラクション、データベースシステムなど

## ☆ ことばの普遍性と多様性について体系的に学ぶ

なぜ人間が話すことばは1つではなかったのでしょうか。ことばを比較してみると、すぐにその違いに気づきますが、普遍的で共通した部分もたくさんあります。言語間の違いが何に由来するのか、その共通性をどのように説明できるのか考えるためには、様々なことばに関するデータを大量に集め、詳細に観察し、一般化をおこなうことが必要です。文化クラスターでは言語データ科学科目を中心に、文化や社会に関する科目、データサイエンス科目では、データ分析科目を中心に履修するとよいでしょう。

<b>文化資源学</b> 科目	文化記号論、文化・社会人類学など
<b>言語データ科学</b> 科目	ことばの科学、ことばと文化、世界の諸言語、言語類型論、言語研究の方法1、コーパス言語学、言語研究の方法2、統語論、語用論、言語と脳科学など
<b>行動データ科学</b> 科目	視覚表現論、人間と文化、比較文化論など
<b>データ分析</b> 科目	データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習など
<b>基礎数理</b> 科目	数学入門、論理と数理、離散数学、確率・統計など
<b>情報・コンピュータ</b> 科目	情報理論など

## ☆ 文化を考える

文化事象として、たとえ現代のものを扱うにしても、伝統文化や古典、美術作品の実際をみて知っているかどうかは、学習・研究の深みに異なります。そして、分析手法の形式だけではなく、その理論を理解しているならば、現象に対して適切な解析を行うことができる。その上で、文化を考えてこそ正しい道であろう。四年間は短い。決して無駄のないように。

<b>文化資源学</b> 科目	日本文化史、文化計量学入門、文献学入門、文化記号論
<b>言語データ科学</b> 科目	ことばの科学、コーパス言語学
<b>行動データ科学</b> 科目	身体論、身体メディア論、社会調査法、行動計量分析法
<b>データ分析</b> 科目	データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析、定量的データ分析演習、定性的データ分析、定性的データ分析演習
<b>基礎数理</b> 科目	線形代数、微分積分、確率・統計、微分方程式、現象と数理
<b>情報・コンピュータ</b> 科目	データベースシステム

## ☆ 自然言語における情報と知識の処理から情報化社会の理解と適応力を育む

われわれの日常生活では何気なくことばを用いてコミュニケーションを行っており、メール、ブログ、日記、新聞、講義のテキスト、レポート、小説などを読んだり、書いたりしている。このような人間が使っていることばを自然言語と呼ぶ。自然言語をコンピュータで処理し、機械的に情報と知識を見つけ出し、モデリングしたりすること学ぶことを通じて、文化と社会への理解を高めると同時に高度な情報化社会に必要な情報処理の知識とスキルを身につける。

<b>文化資源学</b> 科目	現代文化概論、文化計量学入門、文献学入門、文化記号論など
<b>言語データ科学</b> 科目	ことばの科学、世界の諸言語、コーパス言語学、言語研究の方法1、言語研究の方法2、言語類型論、認知言語学、統語論、言語と脳科学、語用論など
<b>行動データ科学</b> 科目	社会調査入門、社会調査法、認知科学入門、感覚・知覚論、認知科学の方法、認知システム論など
<b>データ分析</b> 科目	データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析、定量的データ分析演習、定性的データ分析、定性的データ分析演習、機械学習、テキストマイニングなど
<b>基礎数理</b> 科目	論理と数理、数学入門、数理モデル、線形代数、微分積分、離散数学、確率・統計、数理統計、多変量解析、微分方程式、現象と数理、時系列解析、決定理論、数値解析など
<b>情報・コンピュータ</b> 科目	コンピュータの仕組み、プログラミング入門、プログラミング基礎、アルゴリズムとデータ構造、データベースシステム、翻訳解析、情報アクセス技術など



### ☆ 現象の変化をモデルとシミュレーションで捉える

文化現象・社会現象から自然現象までを含む多様な現象を対象にそれらをデータサイエンスの手法で分析し、さらに、様々な変化を捉えるモデルの構築とそのシミュレーションの方法を体系的に学ぶ。

- 文化資源学科目** 文化・社会人類学など
- 言語データ科学科目** ことばと科学、ことばと社会など
- 行動データ科学科目** 認知科学入門、人間と文化など
- データ分析科目** データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析、定性的データ分析など
- 基礎数理科目** 数学入門、線形代数、微分積分、確率・統計、微分方程式、現象と数理、数理モデル、時系列解析、決定理論、数値解析など
- 情報・コンピュータ科目** プログラミング入門、プログラミング基礎、アルゴリズムとデータ構造など

### ☆ 文化情報の工学的処理表現機器の考案基盤の育成

さまざまな文化を、コンピュータを使って工学的に処理・加工・表現などする場合に、それぞれに適合したハードウェア機器を考案するための基盤を身につける。

- 文化資源学科目** 現代文化概論、文化・社会人類学など
- 行動データ科学科目** 認知システム論、人間と文化など
- 基礎数理科目** 線形代数、微分積分、離散数学など
- 情報・コンピュータ科目** 情報理論、ヒューマンコンピュータインタラクションなど

### ☆ 歴史の学びを現代に活かす

歴史の研究とは、大量で多彩で多様な人々の文化を総合し、それをできるだけ公平に普遍的に説明すること、そしてその成果を現代社会に還元し活かすことです。そのためには、遺跡や文献さらに寺社や地名など、現在残っている様々な資料の見方と解釈の方法を学び、それらを適切に情報化する必要があります。デジタルデータや地理情報を基に歴史文化情報を総合化することで、見えない過去をできるだけ客観的に甦らせ、歴史から得られる多くの学びを、これからの社会に活かす方法を考えましょう。

**関連する進路：**博物館・資料館、埋蔵文化財調査センター、旅行・観光関係、出版、マスコミ、教育関連、まちづくりなど

- 文化資源学科目** 歴史文化情報入門、歴史文化情報概説、歴史文化情報論、美術史学、古典文化論、文献学入門、文化記号論、文化計量学入門、日本文化史など
- 言語データ科学科目** ことばと文化、ことばと社会など
- 行動データ科学科目** 認知科学入門、感覚・知覚論、視覚表現論、認知システム論、人間と文化、比較文化論など
- データ分析科目** データサイエンス入門、データサイエンス入門演習、データサイエンス基礎、データサイエンス演習、定量的データ分析、定量的データ分析演習、定性的データ分析、定性的データ分析演習など
- 基礎数理科目** 数学入門など
- 情報・コンピュータ科目** コンピュータの仕組み、情報理論、アルゴリズムとデータ構造など

## VIII. 開講科目一覧

文化情報学部において「学士（文化情報学）」の学位を取得するために学修する科目（卒業に必要な単位を修得できる科目）を掲載しています。

### ●開講科目一覧表の各欄について●

#### 期間 時間

その科目が実施される期間と週当たりの時間数を表しています。例えば、「春2」とは、春学期に週2時間（1コマ）の講義が実施されるということを意味しています。

#### 配当 年次

その科目の履修が可能となる年次を表しています。

#### 備考

先行登録などの記載がある科目は、必ず『登録要領』を参照してください。  
今出川は今出川校地、交流センターはキャンパスプラザ京都、リトリートは同志社びわこリトリートセンターでの開講を表しています。

#### グレー の科目

休講で本年度は開講されない科目、配当年次が該当していない科目で本年度受講できない科目を表しています。

#### 他学部設置科目について

文化情報学部では、他学部設置科目を履修することが可能です。履修が可能な科目は、別紙『文化情報学部時間割表』に掲載しています。履修する場合は、その学部の『履修要項』を参照してください。（文化情報学部事務室に全学部の『履修要項』を置いています。）

日本語・日本文化教育科目（外国人留学生のみ履修可能）の開講科目については、該当年度の別冊の履修要項を参照のこと。

「見る」「聴く」「話す」「四肢を使って作業する」など、心身の機能障がいのため「社会的障壁」となる内容を含む科目（演習、実験、実習、語学など）については、「合理的配慮」として代替措置をとることが可能なものがあります。

登録前に、文化情報学部事務室までご相談ください。

## 必修科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
必修科目【17単位履修すること】										
必修 科目	10807011		文化情報学入門	星 英仁 深川 大路 福田 智子 原 尚幸 波多野賢治 伊藤 紀子 岩本真裕子 金 明哲 河瀬 彰宏 中安 真理 斎藤 元幸 阪田真己子 佐野 明子 妹尾 麻美 下嶋 篤 沈 力 SONG JAEHYUN 杉本 裕二 杉尾 武志 鋤柄 俊夫 田口 哲也 田中 雄 津村 宏臣 宿久 洋 山内 信幸 鄭 躍軍	春2	2	1~	必ず1年次で登録すること	水5	否
	10807012	001	コロキアム	① 深川 大路 福田 智子 原 尚幸 星 英仁 伊藤 紀子 岩本真裕子 SONG JAEHYUN 杉本 裕二 鋤柄 俊夫 田中 雄 宿久 洋 山内 信幸					月2	
	10807012	002	コロキアム	② 深川 大路 波多野賢治 河瀬 彰宏 金 明哲 中安 真理 斎藤 元幸 阪田真己子 佐野 明子 妹尾 麻美 沈 力 杉尾 武志 田口 哲也 津村 宏臣 鄭 躍軍	秋2	1	1~	クラスは指定される	月4	否

開講科目一覧

必修科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
必修 科目	10807051		文化情報学演習 1	中安 真理 福田 智子 星 英仁 伊藤 紀子 佐野 明子 沈 力 鋤柄 俊夫 杉尾 武志 田口 哲也 田中 雄 山内 信幸 高橋 美都 大浦 真	秋2	1	1~		月1	否
	10807061		文化情報学演習 2	妹尾 麻美 河瀬 彰宏 金 明哲 斎藤 元幸 阪田真己子 SONG JAEHYUN 杉尾 武志 鄭 躍軍 波多野 文 藤田 成隆 濱田 大佐 市村賢士郎	秋2	1	2~	グループに分かれ授業 を行う グループ分け等詳細に ついては後日掲示板を 参照すること	水1	否
	10807062	001	文化情報学演習 3	① 河瀬 彰宏 原 尚幸 阪田真己子 SONG JAEHYUN 宿久 洋 竹野 倫彰	春2	1	2		木5	否
	10807062	002	文化情報学演習 3	② 河瀬 彰宏 原 尚幸 SONG JAEHYUN	春2	1	3~		木6	否
	10807031	002	ジョイント・リサーチ I	② 宿久 洋 波多野賢治 深川 大路	春2	1	3~	クラスは指定される ※研究室配属が決まっ ている者のみ登録可	火5	否
	10807031	007	ジョイント・リサーチ I	⑦ 沈 力 河瀬 彰宏					火3	否
	10807031	010	ジョイント・リサーチ I	⑩ 田口 哲也 山内 信幸 石岡 学					火4	否
	10807031	017	ジョイント・リサーチ I	⑰ 金 明哲 鄭 躍軍 妹尾 麻美					水3	否

## 必修科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
必修 科目	10807031	019	ジョイント・リサーチ I	⑱ 星 英仁 沈 力	春2	1	3~	クラスは指定される ※研究室配属が決まっ ている者のみ登録可	水2	否
	10807031	024	ジョイント・リサーチ I	⑳ 深川 大路 福田 智子					火4	否
	10807031	029	ジョイント・リサーチ I	㉑ 中安 真理 下嶋 篤					月3	否
	10807031	031	ジョイント・リサーチ I	㉒ 津村 宏臣 原 尚幸					金1	否
	10807031	033	ジョイント・リサーチ I	㉓ 杉尾 武志 田中 雄 岩本真裕子					火2	否
	10807031	034	ジョイント・リサーチ I	㉔ 田中 雄 杉尾 武志 斎藤 元幸					金1	否
	10807031	035	ジョイント・リサーチ I	㉕ 河瀬 彰宏 伊藤 紀子 波多野賢治					水3	否
	10807031	036	ジョイント・リサーチ I	㉖ 阪田真己子 原 尚幸 波多野賢治					火2	否
	10807031	037	ジョイント・リサーチ I	㉗ 山内 信幸 津村 宏臣 岸田 徹					火5	否
	10807031	038	ジョイント・リサーチ I	㉘ 田口 哲也 佐野 明子	水3	否				
	10807032	002	ジョイント・リサーチ II	㉙ 宿久 洋 波多野賢治 深川 大路	秋2	1	3~	クラスは指定される ジョイント・リサーチ Iの単位を前の学期ま でに修得済のこと ※研究室配属が決まっ ている者のみ登録可	火5	否
	10807032	007	ジョイント・リサーチ II	㉚ 沈 力 河瀬 彰宏					火3	否
	10807032	010	ジョイント・リサーチ II	㉛ 田口 哲也 山内 信幸 石岡 学					火4	否
	10807032	017	ジョイント・リサーチ II	㉜ 金 明哲 鄭 躍軍 妹尾 麻美					水3	否
	10807032	019	ジョイント・リサーチ II	㉝ 星 英仁 沈 力					水2	否
	10807032	024	ジョイント・リサーチ II	㉞ 深川 大路 福田 智子					火4	否
	10807032	029	ジョイント・リサーチ II	㉟ 中安 真理 下嶋 篤					月3	否

開講科目一覧

必修科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否				
	科目コード	クラスコード												
必修 科目	10807032	031	ジョイント・リサーチⅡ	③① 津村 宏臣 原 尚幸	秋2	1	3~	クラスは指定される ジョイント・リサーチ Ⅰの単位を前の学期ま でに修得済のこと ※研究室配属が決まっ ている者のみ登録可	金1	否				
	10807032	033	ジョイント・リサーチⅡ	③③ 杉尾 武志 田中 雄 岩本真裕子					火2	否				
	10807032	034	ジョイント・リサーチⅡ	③④ 田中 雄 杉尾 武志 斎藤 元幸					金1	否				
	10807032	035	ジョイント・リサーチⅡ	③⑤ 河瀬 彰宏 伊藤 紀子 波多野賢治					水3	否				
	10807032	036	ジョイント・リサーチⅡ	③⑥ 阪田真己子 原 尚幸 波多野賢治					火1	否				
	10807032	037	ジョイント・リサーチⅡ	③⑦ 山内 信幸 津村 宏臣 岸田 徹					火5	否				
	10807032	038	ジョイント・リサーチⅡ	③⑧ 田口 哲也 佐野 明子					水3	否				
	10807033	001	アドバンスト・コロキウム	① 深川 大路 福田 智子 原 尚幸 星 英仁 伊藤 紀子 岩本真裕子 SONG JAEHYUN 杉本 裕二 鋤柄 俊夫 田中 雄 宿久 洋 山内 信幸					秋2	1	2~	クラスは指定される	月2	否
	10807033	002	アドバンスト・コロキウム	② 深川 大路 波多野賢治 河瀬 彰宏 金 明哲 中安 真理 斎藤 元幸 阪田真己子 佐野 明子 妹尾 麻美 沈 力 杉尾 武志 田口 哲也 津村 宏臣 鄭 躍軍									月4	否

## 必修科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
必修科目	10807041	***	卒業研究 I		春集中	4	4~	卒業研究 I と卒業研究 II を同時に登録すること <卒業研究 I、卒業研究 II を履修するための条件> ①卒業必要単位のうち100 単位以上を修得していること (卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入しない) ②「コロキウム」「アドバンスト・コロキウム」の単位を修得していること ③3年以上在学していること 卒業研究 I II クラスコード、担当者については下表参照。	集中	否
	10807042	***	卒業研究 II		秋集中	4	4~		集中	否

卒業研究 I・II 担当者表

クラスコード	担当者
001	福田 智子
002	波多野賢治
003	星 英仁
004	伊藤 紀子
005	金 明哲
011	阪田真己子
012	沈 力
014	下嶋 篤
016	杉本 裕二

クラスコード	担当者
017	杉尾 武志
018	鋤柄 俊夫
019	田口 哲也
021	津村 宏臣
023	宿久 洋
024	山内 信幸
026	鄭 躍軍

クラスコード	担当者
028	深川 大路
037	原 尚幸
038	河瀬 彰宏
039	中安 真理
040	田中 雄
041	岩本真裕子
042	佐野 明子

開講科目一覧

選択科目Ⅰ A群 文化クラスター科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
<b>A群 文化クラスター科目群【18単位以上履修すること】</b>										
<b>A群 文化クラスター科目群（文化資源学科目）</b>										
選択科目Ⅰ 【A群から18単位、 B群から18単位、 C群から4単位を 含む合計56単位以上履修すること】	A群文化クラスター科目群 【18単位以上履修すること】	10807111	日本文化史	福田 智子	春2	2	1～		月3	可
		10807112	文化計量学入門	河瀬 彰宏	春2	2	1～		月4	可
		10807113	現代文化概論	佐野 明子	春2	2	1～		火2	可
		10807114	歴史文化情報入門	鋤柄 俊夫	秋2	2	1～		水1	可
		10807115	文献学入門	福田 智子	秋2	2	1～		金4	可
		10807121	歴史文化情報概説	鋤柄 俊夫	春2	2	2～		火2	可
		10807122	文献講読	福田 智子	春2	2	2～		金4	可
		10807123	伝統音楽論	高橋 美都	秋2	2	3～		火1	可
		10807125	美術史学	中安 真理	秋2	2	2～		木3	可
		10807126	文化・社会人類学	津村 宏臣	秋2	2	2～		金2	可
		10807131	歴史文化情報論	鋤柄 俊夫	春2	2	3～		月1	可
		10807132	文化記号論	高橋 美都	春2	2	3～		火1	可
		10807133	古典文化論	中安 真理	春2	2	3～		木2	可
		10807134	音楽解析	河瀬 彰宏	秋2	2	2～	先行登録	火5	可
		10807135	文化解析	佐野 明子	秋2	2	2～		火1	可
<b>A群 文化クラスター科目群（言語データ科学科目）</b>										
		10807211	ことばと文化	山内 信幸	春2	2	1～		水1	可
		10807212	ことばの科学	星 英仁	春2	2	1～		金4	可
		10807213	ことばと社会	伊藤 紀子	秋2	2	1～		木3	可
		10807214	世界の諸言語	田中 雄	秋2	2	1～		火4	可
		10807221	コーパス言語学	伊藤 紀子	春2	2	2～	先行登録	木3	可
		10807222	言語研究の方法1	山内 信幸	春2	2	2～		火3	可
		10807223	言語類型論	沈 力	春2	2	2～		水3	可
		10807224	言語研究の方法2	沈 力	秋2	2	2～		金3	可
		10807231	語用論	伊藤 紀子	春2	2	3～		火4	可
		10807232	統語論	星 英仁	春2	2	3～		水1	可
		10807233	認知言語学	長谷部陽一郎	秋2	2	3～		月5	可
		10807234	言語と脳科学	星 英仁	秋2	2	3～		金2	可
10807225	音韻論	田中 雄	秋2	2	2～	先行登録	水2	可		



## 選択科目 I A群 文化クラスター科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否	
	科目コード	クラスコード									
選 択 科 目 I	A群 文化クラスター科目群 (行動データ科学科目)										
	10807311		身体論	阪田真己子 後安 美紀 菊地 暁 鈴木 康史 山本 倫也	春2	2	1～		木4	可	
	10807312		認知科学入門	杉尾 武志	秋2	2	1～		火4	可	
	10807314		社会調査入門	妹尾 麻美	秋2	2	1～		水2	可	
	10807321		感覚・知覚論	杉尾 武志	春2	2	2～		火4	可	
	10807322		人間と文化	田口 哲也	春2	2	2～		金3	可	
	10807323		社会調査法	鄭 躍軍	春2	2	2～		火2	可	
	10807324		計量社会学	鄭 躍軍	春2	2	2～		水2	可	
	10807325		視覚表現論	下嶋 篤 後安 美紀	秋2	2	2～		水2	可	
	10807326		比較文化論	田口 哲也	秋2	2	2～		火2	可	
	10807327		身体メディア論	阪田真己子	秋2	2	2～		水3	可	
	10807328		社会調査演習	鄭 躍軍 宿久 洋 吉野 諒三 藤田 成隆 妹尾 麻美	秋4	2	2～	先行登録 「社会調査法」の単位を過 学期までに修得済のこと	火3 火4	可	
	10807331		認知科学の方法	杉尾 武志 阪田真己子 斎藤 元幸	春2	2	3～		水1	可	
	10807332		認知科学実習	杉尾 武志 阪田真己子 斎藤 元幸	春2	2	3～	先行登録 「認知科学の方法」を同時 履修または修得済のこと	水2	可	
	10807333		行動計量分析法	津村 宏臣	春2	2	3～		木1	可	
10807334		認知システム論	杉尾 武志	秋2	2	3～		火5	可		
10807335		社会ネットワーク分析	水垣源太郎	秋2	2	3～	先行登録	月1	可		

開講科目一覧

選択科目 I B群 データサイエンス科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
B群 データサイエンス科目群 【18単位以上履修すること】	B群 データサイエンス科目群 (データ分析学科目)									
	10807411	001	データサイエンス入門	① 原 尚幸 宿久 洋 SONG JAEHYUN	春2	2	1	2020年度生のみ登録可 「データサイエンス入門演習」を同時に登録すること	火3	可
	10807411	002	データサイエンス入門	② 竹野 倫彰	春2	2	2～	先行登録 「データサイエンス入門演習」を単位修得済または同時に登録すること	火3	可
	10807412	001	データサイエンス入門演習	① SONG JAEHYUN 原 尚幸 宿久 洋	春2	2	1	2020年度生のみ登録可 「データサイエンス入門」を同時に登録すること	火4	可
	10807412	002	データサイエンス入門演習	② 竹野 倫彰	春2	2	2～	先行登録 「データサイエンス入門」を単位修得済または同時に登録すること	火4	可
	10807413	001	データサイエンス基礎	① 原 尚幸 宿久 洋 SONG JAEHYUN	秋2	2	1	2020年度生のみ登録可 「データサイエンス演習」を同時に登録すること	金2	可
	10807413	002	データサイエンス基礎	② 竹野 倫彰	秋2	2	2～	先行登録 「データサイエンス演習」を単位修得済または同時に登録すること	金2	可
	10807413	003	データサイエンス基礎	③ 竹野 倫彰	秋2	2	2～	先行登録 「データサイエンス演習」を単位修得済または同時に登録すること	木2	可
	10807414	001	データサイエンス演習	① SONG JAEHYUN 原 尚幸 宿久 洋	秋2	2	1	2020年度生のみ登録可 「データサイエンス基礎」を同時に登録すること	金3	可
	10807414	002	データサイエンス演習	② 竹野 倫彰	秋2	2	2～	先行登録 「データサイエンス基礎」を単位修得済または同時に登録すること	金3	可
	10807414	003	データサイエンス演習	③ 竹野 倫彰	秋2	2	2～	先行登録 「データサイエンス基礎」を単位修得済または同時に登録すること	木3	可
	10807421		定量的データ分析	原 尚幸	春2	2	2～	先行登録 「定量的データ分析演習」を単位修得済または同時に登録すること	月2	可
	10807422		定量的データ分析演習	原 尚幸 河瀬 彰宏 宿久 洋	春2	2	2～	先行登録 「定量的データ分析」を単位修得済または同時に登録すること	月3	可
	10807423		定性的データ分析	金 明哲	秋2	2	2～	先行登録 「定性的データ分析演習」を単位修得済または同時に登録すること	木1	可
	10807424		定性的データ分析演習	金 明哲	秋2	2	2～	先行登録 「定性的データ分析」を単位修得済または同時に登録すること	木2	可

選択科目 I B群 データサイエンス科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否	
	科目コード	クラスコード									
選 択 科 目 I	B群 データサイエンス科目群 (基礎数理科目)										
	10807431		ベイズ統計	原 尚幸	春2	2	3~	先行登録	水2	可	
	10807432		機械学習	金 明哲	春2	2	3~	先行登録	木3	可	
	10807433		テキストマイニング	金 明哲	秋2	2	3~	先行登録	木3	可	
	10807434		データハンドリング	阿部 寛康	秋2	2	3~	先行登録	金5	否	
	10807511	001	数学入門	① 岩本真裕子	春2	2	1~	クラスは指定される	水1	否	
	10807511	002	数学入門	② 根岸 章							
	10807512		論理と数理	下嶋 篤 新 茂之	春2	2	1~		金3	可	
	10807513	001	線形代数	① 岩本真裕子	春2	2	1~	クラスは指定される	水2	可	
	10807513	002	線形代数	② 根岸 章							
	10807514		離散数学	深川 大路	秋2	2	1~		火3	可	
	10807515		微分積分	清水 翔之	秋2	2	1~		月5	可	
	10807521		確率・統計	原 尚幸	春2	2	2~		月4	可	
	10807522		微分方程式	岩本真裕子	春2	2	2~		火1	可	
	10807523		数理統計	宿久 洋	秋2	2	2~		水3	可	
	10807524		現象と数理	吉田 尚矢	秋2	2	2~	「微分方程式」を過学期 までに修得済のこと	月5	可	
	10807525		最適化法	深川 大路	秋2	2	2~		金4	可	
	10807531		多変量解析	宿久 洋	春2	2	3~	「数理統計」の単位を過 学期までに修得済のこと	水3	可	
	10807532		数値解析	深川 大路	春2	2	3~	先行登録	水1	可	
	10807533		数理モデル	岩本真裕子	春2	2	3~		月4	可	
	10807534		時系列解析	竹内 恵行	秋2	2	3~	先行登録	水2	可	
	10807535		決定理論	池田 和司	秋2	2	3~		月1	可	
	B群 データサイエンス科目群 (情報・コンピュータ科目)										
	10807611		情報倫理	四方 奨 川崎 友巳 植平 朋行	春2	2	1~		水2	可	
	10807612		プログラミング入門	波多野賢治 河瀬 彰宏 蒲原 智也 小林 靖明 太田 公子	春2	2	1~		月2	否	
	10807613		コンピュータの仕組み	杉本 裕二	秋2	2	1~		木5	可	
	10807614	001	プログラミング基礎	① 波多野賢治 蒲原 智也 太田 公子	秋2	2	1	2020年度生のみ登録可 「プログラミング入門」 を単位修得済のこと	火2	否	
	10807614	002	プログラミング基礎	② 波多野賢治 蒲原 智也 太田 公子			2~	先行登録 「プログラミング入門」 を単位修得済のこと			
10807621		情報理論	深川 大路	春2	2	2~		金1	可		

開講科目一覧

選択科目 I B群 データサイエンス科目群 / C群 体験型教養科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
B群 データサイエンス科目群	10807622		プログラミング応用	深川 大路	春2	2	2~	先行登録 「プログラミング基礎」を過 学期までに修得済のこと	火2	否
	10807623		データベースシステム	波多野賢治	秋2	2	2~	先行登録	月1	可
	10807624		情報セキュリティ	矢内 直人	秋2	2	2~	先行登録	火5	可
	10807631		インターネット技術	岡本 和也	春2	2	3~		金1	可
	10807632		情報アクセス技術	波多野賢治	春2	2	3~		月1	可
	10807633		アルゴリズムとデータ構造	深川 大路	春2	2	3~		金3	可
	10807634		ヒューマンコンピュータイ ンタラクション	杉本 裕二	秋2	2	3~		木1	可
	10807635		翻訳解析	永田 昌明	秋2	2	3~		水2	可
<b>C群 体験型教養科目群【4単位以上履修すること】</b>										
選 択 科 目 I	<b>C群 体験型教養科目群</b>									
	10807851		体験型教養科目 —日本の美について 読み、書き、考える—	中安 真理	春2	2	1~		木3	否
	10807854		体験型教養科目 —環境と情報—	林田 明 岸 基史 鄭 躍軍	秋2	2	1~		月2	否
	10807856		体験型教養科目 —京都の伝統文化—	福田 智子	秋2	2	1~		月3	否
	10807858		体験型教養科目 —「わざ学」のすすめ—	阪田真己子	秋2	2	1~		木4	否
	10807866		体験型教養科目 —データサイエンスと 現代社会—	妹尾 麻美	春2	2	1~		木2	否
	10807867		体験型教養科目 —考えることについて 考える—	斎藤 元幸	春2	2	1~		金2	否
	10807865		体験型教養科目 —Industry-Leading Analytics ビジネスで活用されるアナリティクス—	宿久 洋	春集中	2	2・3	先行登録 講義日程：5/30(土)、6/6(土)、 6/20(土)、6/27(土) 授業時間：2、3、4、5講時 (5/30のみ2、3、4講時) ※履修中止期間に関しては登録要 領を参照のこと。	集中	否
	10807859		体験型教養科目 —Open-Doors Program: Exploring New Orleans—	山内 信幸	秋集中	2	1~3		集中	否
	10807862		体験型教養科目 —Short Program in Heinrich Heine University—	山内 信幸	春集中	2	2~		集中	否
10807863		体験型教養科目 —Short Program in Hamilton College—	山内 信幸	春集中	2	3~		集中	否	

## 選択科目Ⅱ 開講科目

---

### ■D群 全学共通教養教育科目

※該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」（別冊）を参照のこと。

### ■E群 外国語科目 英語

### ■F群 外国語科目 英語以外の外国語

※詳細は、該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」（別冊）および登録要領を参照のこと。

### ■G群 免許関係科目

※本冊子および免許・資格関係履修要項等を参照のこと。

開講科目一覧

選択科目Ⅱ E群/F群

科目群	科目コード	科目名・クラス	単位	配当年次
選択科目Ⅱ E群	外国語科目 英語【8単位以上履修すること】			
	16501013	コミュニケーション・イングリッシュ1	1	1～
	16501014	コミュニケーション・イングリッシュ2	1	1～
	16501023	アナリティカル・リーディング1	1	1～
	16501024	アナリティカル・リーディング2	1	1～
	16501031	イングリッシュ・セミナー1	1	2～
	16501032	イングリッシュ・セミナー2	1	2～
	16501033	イングリッシュ・セミナー3	2	2～
	16501041	イングリッシュ・ワークショップ1	1	2～
	16501042	イングリッシュ・ワークショップ2	1	2～
	16501043	イングリッシュ・ワークショップ3	2	2～
	16501061	アカデミック・イングリッシュA	2	2～
	16501062	アカデミック・イングリッシュB	2	2～
	16501065	プロフェッショナル・イングリッシュA	2	2～
	16501066	プロフェッショナル・イングリッシュB	2	2～
	16501075	プレ・イングリッシュ・プラクティクム	4	1・2
	16501071	イングリッシュ・プラクティクム1	4	1・2
	16501072	イングリッシュ・プラクティクム2	4	1・2
	16501081	言語文化研究1	2	3～
	16501082	言語文化研究2	2	3～
	16501051	現代地域事情・上級講読(英語圏) 1	2	3～
	16501052	現代地域事情・上級講読(英語圏) 2	2	3～
	16509001	サマープログラム・英語A	4	1～
	16509002	サマープログラム・英語B	3	1～
	16509003	サマープログラム・英語C	2	1～

科目群	科目コード	科目名・クラス	単位	配当年次	
E群	16509011	スプリングプログラム・英語A	4	1～	
	16509012	スプリングプログラム・英語B	3	1～	
	16509013	スプリングプログラム・英語C	2	1～	
		スプリングプログラム・英語D	1	1～	
	16509081	セメスタープログラム・英語Ⅰ	4	2～	
	16509082	セメスタープログラム・英語Ⅱ	4	2～	
	16501701	Intensive Courses for TOEFL (Practice)	1	1～	
	16501702	Intensive Courses for TOEFL (Tutorial)	1	1～	
	F群	外国語科目 英語以外の外国語 【ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、イタリア語、日本語・日本文化教育科目 日本語(外国人留学生のみ履修可)から1外国語を選択し、4単位以上履修すること】			
		16502011	ドイツ語入門Ⅰ	2	1～
16502012		ドイツ語入門Ⅱ	2	1～	
16502031		ドイツ語応用1	1	2～	
16502032		ドイツ語応用2	1	2～	
16502033		ドイツ語応用3	1	2～	
16502034		ドイツ語応用4	1	2～	
16502021		ドイツ語インテンシヴⅠ	3	1～	
16502022		ドイツ語インテンシヴⅡ	3	1～	
16502023		ドイツ語インテンシヴⅢ	3	2～	
16502024		ドイツ語インテンシヴⅣ	3	2～	
16502025		ドイツ語インテンシヴⅤ	2	3～	
16502026		ドイツ語インテンシヴⅥ	2	3～	
16502051		ドイツ語文化事情1	2	3～	
16502052		ドイツ語文化事情2	2	3～	
16502061		ドイツ語表現法1	2	3～	
16502062		ドイツ語表現法2	2	3～	
16502071		言語文化原典演習(ドイツ語) 1	2	3～	
16502072		言語文化原典演習(ドイツ語) 2	2	3～	
16502081		現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 1	2	3～	
16502082		現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 2	2	3～	
16502093		サマープログラム・ドイツ語B	3	3～	

## 選択科目Ⅱ F群

科目群	科目コード	科目名・クラス	単位	配当年次
選 択 科 目 Ⅱ  F 群	16502095	スプリングプログラム・ドイツ語	3	1～
	16502101	セメスタープログラム・ドイツ語Ⅰ	4	2～
	16502102	セメスタープログラム・ドイツ語Ⅱ	4	2～
	16502041	ドイツ語会話初級1	1	1～
	16502042	ドイツ語会話初級2	1	1～
	16502043	ドイツ語会話中級1	1	1～
	16502044	ドイツ語会話中級2	1	1～
	16502045	ドイツ語会話上級1	1	1～
	16502046	ドイツ語会話上級2	1	1～
	16503011	フランス語入門Ⅰ	2	1～
	16503012	フランス語入門Ⅱ	2	1～
	16503031	フランス語応用1	1	2～
	16503032	フランス語応用2	1	2～
	16503033	フランス語応用3	1	2～
	16503034	フランス語応用4	1	2～
	16503021	フランス語インテンシヴⅠ	3	1～
	16503022	フランス語インテンシヴⅡ	3	1～
	16503023	フランス語インテンシヴⅢ	3	2～
	16503024	フランス語インテンシヴⅣ	3	2～
	16503025	フランス語インテンシヴⅤ	2	3～
	16503026	フランス語インテンシヴⅥ	2	3～
	16503027	フランス語インテンシヴⅦ	2	4～
	16503028	フランス語インテンシヴⅧ	2	4～
	16503051	フランス語文化事情1	2	3～
	16503052	フランス語文化事情2	2	3～
	16503061	フランス語表現法1	2	3～
	16503062	フランス語表現法2	2	3～
	16503071	言語文化原典演習 (フランス語) 1	2	3～
	16503072	言語文化原典演習 (フランス語) 2	2	3～
	16503081	現代地域事情・上級講読 (フランス語圏) 1	2	3～
	16503082	現代地域事情・上級講読 (フランス語圏) 2	2	3～
	16503091	サマープログラム・フランス語	4	2～
16503095	スプリングプログラム・フランス語	3	1～	
16503041	フランス語会話初級1	1	1～	
16503042	フランス語会話初級2	1	1～	
16503043	フランス語会話中級1	1	1～	

科目群	科目コード	科目名・クラス	単位	配当年次
選 択 科 目 Ⅱ  F 群	16503044	フランス語会話中級2	1	1～
	16503045	フランス語会話上級1	1	1～
	16503046	フランス語会話上級2	1	1～
	16504011	中国語入門Ⅰ	2	1～
	16504012	中国語入門Ⅱ	2	1～
	16504031	中国語応用1	1	2～
	16504032	中国語応用2	1	2～
	16504033	中国語応用3	1	2～
	16504034	中国語応用4	1	2～
	16504021	中国語インテンシヴⅠ	3	1～
	16504022	中国語インテンシヴⅡ	3	1～
	16504023	中国語インテンシヴⅢ	3	2～
	16504024	中国語インテンシヴⅣ	3	2～
	16504025	中国語インテンシヴⅤ	2	3～
	16504026	中国語インテンシヴⅥ	2	3～
	16504027	中国語インテンシヴⅦ	2	4～
	16504028	中国語インテンシヴⅧ	2	4～
	16504051	中国語文化事情1	2	3～
	16504052	中国語文化事情2	2	3～
	16504061	中国語表現法1	2	3～
	16504062	中国語表現法2	2	3～
	16504071	言語文化原典演習(中国語) 1	2	3～
	16504072	言語文化原典演習(中国語) 2	2	3～
	16504081	現代地域事情・上級講読 (中国語圏) 1	2	3～
	16504082	現代地域事情・上級講読 (中国語圏) 2	2	3～
	16504091	サマープログラム・中国語	4	2～
	16504095	スプリングプログラム・中国語	1	1～
	16504041	中国語会話初級1	1	2～
	16504042	中国語会話初級2	1	2～
	16504043	中国語会話中級1	1	2～
	16504044	中国語会話中級2	1	2～
	16504045	中国語会話上級1	1	2～
16504046	中国語会話上級2	1	2～	
16505011	スペイン語入門Ⅰ	2	1～	
16505012	スペイン語入門Ⅱ	2	1～	
16505031	スペイン語応用1	1	2～	
16505032	スペイン語応用2	1	2～	
16505033	スペイン語応用3	1	2～	

開講科目一覧

選択科目Ⅱ F群

科目群	科目コード	科目名・クラス	単位	配当年次
選 択 科 目 Ⅱ  F 群	16505034	スペイン語応用4	1	2～
	16505021	スペイン語インテンシヴⅠ	3	1～
	16505022	スペイン語インテンシヴⅡ	3	1～
	16505023	スペイン語インテンシヴⅢ	3	2～
	16505024	スペイン語インテンシヴⅣ	3	2～
	16505025	スペイン語インテンシヴⅤ	2	3～
	16505026	スペイン語インテンシヴⅥ	2	3～
	16505051	スペイン語文化事情1	2	3～
	16505052	スペイン語文化事情2	2	3～
	16505061	スペイン語表現法1	2	3～
	16505062	スペイン語表現法2	2	3～
	16505071	言語文化原典演習 (スペイン語) 1	2	3～
	16505072	言語文化原典演習 (スペイン語) 2	2	3～
	16505081	現代地域事情・上級講読 (スペイン語圏) 1	2	3～
	16505082	現代地域事情・上級講読 (スペイン語圏) 2	2	3～
	16505091	サマープログラム・スペイン語	4	2～
	16505096	スプリングプログラム・スペイン語C	2	1～
	16505041	スペイン語会話初級1	1	1～
	16505042	スペイン語会話初級2	1	1～
	16505043	スペイン語会話中級1	1	1～
	16505044	スペイン語会話中級2	1	1～
	16505045	スペイン語会話上級1	1	1～
	16505046	スペイン語会話上級2	1	1～
	16506011	ロシア語入門Ⅰ	2	1～
	16506012	ロシア語入門Ⅱ	2	1～
	16506031	ロシア語応用1	1	2～
	16506032	ロシア語応用2	1	2～
	16506033	ロシア語応用3	1	2～
	16506034	ロシア語応用4	1	2～
	16506021	ロシア語インテンシヴⅠ	3	1～
	16506022	ロシア語インテンシヴⅡ	3	1～
	16506023	ロシア語インテンシヴⅢ	3	2～
	16506024	ロシア語インテンシヴⅣ	3	2～
	16506051	ロシア語文化事情1	2	3～
16506052	ロシア語文化事情2	2	3～	
16506061	ロシア語表現法1	2	3～	

科目群	科目コード	科目名・クラス	単位	配当年次
選 択 科 目 Ⅱ  F 群	16506062	ロシア語表現法2	2	3～
	16506071	言語文化原典演習 (ロシア語) 1	2	3～
	16506072	言語文化原典演習 (ロシア語) 2	2	3～
	16506081	現代地域事情・上級講読 (ロシア語圏) 1	2	3～
	16506082	現代地域事情・上級講読 (ロシア語圏) 2	2	3～
	16506091	サマープログラム・ロシア語	4	2～
	16506041	ロシア語会話初級1	1	1～
	16506042	ロシア語会話初級2	1	1～
	16506043	ロシア語会話中級1	1	1～
	16506044	ロシア語会話中級2	1	1～
	16506045	ロシア語会話上級1	1	1～
	16506046	ロシア語会話上級2	1	1～
	16507011	ロシア語入門Ⅰ	2	1～
	16507012	ロシア語入門Ⅱ	2	1～
	16507031	ロシア語応用1	1	2～
	16507032	ロシア語応用2	1	2～
	16507033	ロシア語応用3	1	2～
	16507034	ロシア語応用4	1	2～
	16507021	ロシア語インテンシヴⅠ	3	1～
	16507022	ロシア語インテンシヴⅡ	3	1～
	16507023	ロシア語インテンシヴⅢ	3	2～
	16507024	ロシア語インテンシヴⅣ	3	2～
	16507025	ロシア語インテンシヴⅤ	2	3～
	16507026	ロシア語インテンシヴⅥ	2	3～
	16507051	ロシア語文化事情1	2	3～
	16507052	ロシア語文化事情2	2	3～
	16507061	ロシア語表現法1	2	3～
	16507062	ロシア語表現法2	2	3～
	16507071	言語文化原典演習 (ロシア語) 1	2	3～
	16507072	言語文化原典演習 (ロシア語) 2	2	3～
	16507081	現代地域事情・上級講読 (ロシア語圏) 1	2	3～
	16507082	現代地域事情・上級講読 (ロシア語圏) 2	2	3～



## 選択科目Ⅱ F群

科目群	科目コード	科目名・クラス	単位	配当年次	
選 択 科 目 Ⅱ	16507091	サマープログラム・韓国語	3	2～	
	16507095	スプリングプログラム・韓国語	3	1～	
	16507041	韓国語会話初級1	1	1～	
	16507042	韓国語会話初級2	1	1～	
	16507043	韓国語会話中級1	1	1～	
	16507044	韓国語会話中級2	1	1～	
	F 群	16507045	韓国語会話上級1	1	1～
	16507046	韓国語会話上級2	1	1～	
	16508001	基礎イタリア語Ⅰ	1	2～	
	16508002	基礎イタリア語Ⅱ	1	2～	
	16508003	基礎イタリア語Ⅲ	1	3～	
	16508004	基礎イタリア語Ⅳ	1	3～	
	*	日本語1	1	1～	
	*	日本語2	1	1～	

\*詳細は『外国人留学生履修の手引き』を参照すること

開講科目一覧

選択科目Ⅱ G群 免許関係科目

科目群	科目コード		クラスコード	科目名・クラス	担当者	期間時間	単位	配当年次	備考
	2017年度生	2018年度以降生							
選択科目Ⅱ G群 免許関係科目 他学部設置科目 他									
免許関連科目									
選 択 科 目 Ⅱ	10809120	10809120		情報処理演習	深川 大路	春2	1	2～	
	10809110	10809110		代数学	清水 達郎	秋2	2	3～	
	10809118	10809118		幾何学Ⅰ	岩塚 明	春2	2	3～	
	10809119	10809119		幾何学Ⅱ	岩塚 明	秋2	2	3～	
	11630311	11630311	001	教科教育法A1(数学)	① 内田 靖	春2	2	2～	
	11630312	11630312	001	教科教育法A2(数学)	① 岩塚 明	秋2	2	2～	
	10809111	10809111	001	教科教育法B(数学)	① 岩本真裕子	春2	2	3～	クラスは指定される
	10809111	10809111	002	教科教育法B(数学)	② 根岸 章				
	11630322	11630322	001	教科教育法C(数学)	① 大西 俊弘	秋2	2	3～	
	11630322	11630322	002	教科教育法C(数学)	② 深尾 武史				
	11610241	11610241		教科教育法A(情報)	上田祐一郎	春2	2	3～	
	11610242	11610242		教科教育法B(情報)	上田祐一郎	秋2	2	3～	
	10809128	15010230	001	社会科・地理歴史科教育法	① 田中 曜次	春2	2	2～	
	10952239	15010240	001	社会科・公民科教育法	① 中澤 静男	春2	2	2～	
	10952240	15010210	001	社会科教育法1	① 中澤 静男	春2	2	2～	
	10952241	15010220	001	社会科教育法2	① 児玉 祥一	秋2	2	2～	
	10809124	15010250	001	地理歴史科教育法	① 田中 曜次	秋2	2	2～	
	10952209	15010260	001	公民科教育法	① 奥野 浩之	秋2	2	2～	
	10809126		001	教職実践演習(中・高)	① 原 尚幸 波多野賢治 宿久 洋	秋2	2	4～	「教育実習指導」と同時に履修すること
	10809126		003	教職実践演習(中・高)	③ 鋤柄 俊夫 杉尾 武志 中安 真理 中瀬 浩一				
	10809127		001	教育実習指導	① 原 尚幸 波多野賢治 宿久 洋	春秋1	1	4～	「教職実践演習(中高)」と同時に履修すること
	10809127		003	教育実習指導	③ 鋤柄 俊夫 杉尾 武志 中安 真理 中瀬 浩一				
	10809115	10809115	001	教育実習A	① 原 尚幸 波多野賢治 宿久 洋	2	2	3～	「教育実習A」は基本的に履修できない。履修を希望する場合は、事前に免許資格課程センター事務室まで相談すること
	10809115	10809115	003	教育実習A	③ 鋤柄 俊夫 杉尾 武志 中安 真理 中瀬 浩一				
	10809116		001	教育実習B	① 原 尚幸 波多野賢治 宿久 洋	2	2	4～	
	10809116		003	教育実習B	③ 鋤柄 俊夫 杉尾 武志 中安 真理 中瀬 浩一				

## 選択科目Ⅱ G群 免許関係科目

科目群	科目コード		クラスコード	科目名・クラス	担当者	期間時間	単位	配当年次	備考
	2017年度生	2018年度以降生							
選 択 科 目 Ⅱ  G 群 免 許 関 係 科 目 他 学 部 設 置 科 目 他	10809117		001	教育実習C	① 原 尚幸 波多野寛治 宿久 洋		4	4~	
	10809117		003	教育実習C	③ 鋤柄 俊夫 杉尾 武志 中安 真理 中瀬 浩一		4	4~	
	10952201	15010010	001	教職概論	① 中瀬 浩一	秋2	2	1~	
	10952201	15010010	002	教職概論	② 井上 浩史	春2			
	10952201	15010010	003	教職概論	③ 児玉 祥一	春2			
	10952201	15010010	004	教職概論	④ 児玉 祥一	春2			
	10952201	15010010	005	教職概論	⑤ 大橋 忠司	秋2			
	10952202	15010020	001	教育原理	① 光川 康雄	春2	2	1~	
	10952202	15010020	002	教育原理	② 光川 康雄	秋2			
	10952202	15010020	003	教育原理	③ 佐藤 光友				
	11700405	15010030	001	発達と学習の心理学	① 内山伊知郎	秋2	2	2~ (2018年度 以前生) (2019年 度生) 1~	
	11700405	15010030	002	発達と学習の心理学	② 田中 希穂	春2			
	11700405	15010030	003	発達と学習の心理学	③ 田中 希穂	秋2			
	11700405	15010030	004	発達と学習の心理学	④ 田中 希穂	春2			
	11700405	15010030	005	発達と学習の心理学	⑤ 木村 年晶	春2			
	10952203	15010040	001	学校経営と法規	① 開沼 太郎	春2	2	2~	
	10952203	15010040	002	学校経営と法規	② 沖田 悟博	秋2			
	10912117	15010050	001	学校教育社会学	① 野村 洋平	秋2	2	2~	2015年度以降生のみ登録可
	10952229	15010070	001	教育課程論	① 奥野 浩之	春2	2	2~	
	10952229	15010070	002	教育課程論	② 佐藤 光友	秋2			
	10952229	15010070	003	教育課程論	③ 奥野 浩之	秋2			
	10952227	15010080	001	道徳教育の理論と実践	① 倉本 香	秋2	2	2~	
	10952227	15010080	002	道徳教育の理論と実践	② 桐村 幸雄	春2			
	10952227	15010080	003	道徳教育の理論と実践	③ 田中 曜次	秋2			
	15010091	15010091	001	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	① 大橋 忠司	春2	2	2~	*「特別活動論」を履修済みの者は登録できない。ただし、「特別活動論」を履修済みで、卒業後に大学院生あるいは科目等履修生として一種免を取得する予定の者は、免許資格関係科目（M登録科目）としてのみ登録できる。履修を希望する者は事前に免許資格課程センターに申し出ること。
	15010091	15010091	002	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	② 大橋 忠司	秋2			
15010091	15010091	003	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	③ 大橋 忠司	春2				

開講科目一覧

選択科目Ⅱ G群 免許関係科目

科目群	科目コード		クラスコード	科目名・クラス	担当者	期間時間	単位	配当年次	備考	
	2017年度生	2018年度以降生								
選 択 科 目 Ⅱ	G 群 免 許 関 係 科 目 他 学 部 設 置 科 目 他	10952235	15010110	001	教育方法論	① 山崎 優子	春2	2	2~	クラス③~⑤は 先行登録
		10952235	15010110	002	教育方法論	② 田中 希穂	秋2			
		10952235	15010110	003	教育方法論	③ 岡本 真彦	春2			
		10952235	15010110	004	教育方法論	④ 岡本 真彦	春2			
		10952235	15010110	005	教育方法論	⑤ 岡本 真彦	秋2			
		11700412	15010120	001	生徒・進路指導の理論と方法	① 神山 貴弥	秋2	2	2~	
		11700412	15010120	002	生徒・進路指導の理論と方法	② 井上 浩史	秋2			
		11700412	15010120	003	生徒・進路指導の理論と方法	③ 山本 桂子	春2			
		11700412	15010120	004	生徒・進路指導の理論と方法	④ 大橋 忠司	春2			
		10952214	15010130		教育相談	山本 桂子	秋2	2	3~	
		11700411	15010140	001	学校カウンセリング	① 石川 信一	春2	2	3~	
		11700411	15010140	002	学校カウンセリング	② 山本 健治	秋2			
		11700411	15010140	003	学校カウンセリング	③ 牧 郁子	秋2			
		15010160	15010160	001	スクールインターンシップ	① 沖田 悟傳	秋2	2	2~	先行登録
		10952237	15010060	001	人権教育論	① 河西 正博 他	秋2	2	1~	
		10402643	10402643	001	日本の憲法	① 横山 真紀	春2	2	1~	
		10402643	10402643	002	日本の憲法	② 横山 真紀				
		10402643	10402643	003	日本の憲法	③ 横山 真紀				
		10240107	10240107	001	哲学概論 (1)	① 庭田 茂吉	春2	2	3~	
		10240108	10240108	001	哲学概論 (2)	① 庭田 茂吉	秋2	2	3~	
		10240109	10240109	001	倫理学概論 (1)	① 林 克樹	春2	2	3~	
		10240110	10240110	001	倫理学概論 (2)	① 林 克樹	秋2	2	3~	
		10270316	10270316	001	日本文化史概説 (1)	① 矢内 一磨	春2	2	2~	
		10270317	10270317	001	日本文化史概説 (2)	① 矢内 一磨	秋2	2	2~	
		10270078	10270078	001	地誌学	① 南出 眞助	秋2	2	2~	
		10270101	10270101	001	西洋文化史概説 (1)	① 坂井 聰	春2	2	2~	
		10270102	10270102	001	西洋文化史概説 (2)	① 吉門 昌宏	秋2	2	2~	
		10270117	10270117	001	東洋文化史概説 (1)	① 小野 達哉	春2	2	2~	
		10270118	10270118	001	東洋文化史概説 (2)	① 小野 達哉	秋2	2	2~	
		10270127	10270127	001	人文地理学 (1)	① 川口 洋	春2	2	2~	
		10270128	10270128	001	人文地理学 (2)	① 川口 洋	秋2	2	2~	
		10270420	10270420	001	地理学総論 (1)	① 津村 宏臣	春2	2	2~	
		10270421	10270421	001	地理学総論 (2)	① 津村 宏臣	秋2	2	2~	
10809125	10809125	001	経済原論	① 小田 勇一	春秋2	4	2~			
10912003	10912003	001	社会学概論	① 平尾 一朗	秋4	4	1~			
10809122	15030010	001	生涯学習概論	① 佐々木保孝	春2	2	1~			

## 選択科目Ⅱ G群 免許関係科目／自由科目

科目群	科目コード		クラスコード	科目名・クラス	担当者	期間時間	単位	配当年次	備考		
	2017年度生	2018年度以降生									
選 択 科 目 Ⅱ	G 群 免 許 関 係 科 目 他	11700001	11700001	002	心理学概論 (1)	② 余語 真夫	春2	2	2～		
		11700002	11700002	002	心理学概論 (2)	② 藤村 友美	秋2	2	2～		
		10270410	10270410	001	博物館情報メディア論	① 鋤柄 俊夫 清水 真澄 藤澤 和子 中安 真理	春2	2	2～		
		同志社女子大学単位互換科目									
		大学コンソーシアム京都単位互換科目									
外国人留学生科目【外国人留学生のみ履修することができる】											
自 由 科 目	自由科目										
	11610145	11610145		情報メディア	善本 淳	春2	2	1～			
	11610243	11610243		情報と職業	鈴木 潤	春2	2	3～			
	11630323	11630323		コンピュータと数学	多久和英樹 竹山 理	秋2	2	3～			
	11610111	11610111		コンピュータグラフィックス	渡部 広一	秋2	2	1～			
	11610220	11610220		情報メディア実習	加藤 恒夫	春2	2	1～			
	11610244	11610244		情報と社会	小野 景子	春2	2	1～			
	10952242	15010150	001	特別支援と福祉の教育	① 中瀬 浩一 空閑 浩人	秋2	2	1～	2018年度以前生のみ登録可		
	10952242	15010150	002	特別支援と福祉の教育	② 中瀬 浩一 空閑 浩人	春2					
	10952242	15010150	003	特別支援と福祉の教育	③ 中瀬 浩一 空閑 浩人	秋2					
	10952242	15010150	004	特別支援と福祉の教育	④ 中瀬 浩一 空閑 浩人	春2					
		15010151	001	特別ニーズ教育論	① 中瀬 浩一 空閑 浩人	秋2	2	1～	2019年度以降生のみ登録可		
		15010151	002	特別ニーズ教育論	② 中瀬 浩一 空閑 浩人	春2					
		15010151	003	特別ニーズ教育論	③ 中瀬 浩一 空閑 浩人	秋2					
		15010151	004	特別ニーズ教育論	④ 中瀬 浩一 空閑 浩人	春2					
15040010	15040010		学校図書館サービス論	井上 靖代	秋2	2	2～				

## 免許資格関係について

### ●教職課程・博物館学芸員課程・図書館司書課程

本学においては、各種の免許・資格の取得を志望する皆さんのために下記の課程が設置されています。各課程の詳しい内容、必要な科目の履修については、『免許・資格関係履修要項』を参照してください。

課 程	免許・資格の種類
教職課程	中学校・高等学校の教員免許（＊）
博物館学芸員課程	博物館（美術館・資料館・宝物館・動物園・水族館など）の専門職としての「学芸員」資格
図書館司書課程	図書館の専門職員としての「司書」資格
学校図書館司書教諭課程	「学校図書館司書教諭」資格 ＊ <b>教員免許状</b> を有することが取得条件であるため、 <b>教職課程</b> とともに履修しなければならない。

＊本学では、2006年度から神戸親和女子大学通信教育部発達教育学部児童教育学科（初等教育学コース）（男女共学）との、また2019年度から佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）との、連携プログラム「小学校教諭免許状（一種）取得プログラム」を開始することにより、本学在学中に、中学校一種免、または、高等学校一種免とともに、小学校一種免を取得することが可能です。詳しくは、免許・資格課程センターに相談すること。

### ●社会調査士

「社会調査士」とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。社会調査士資格には、「社会調査士」と「専門社会調査士」の2種類があります。

同志社大学文化情報学部では、所定の科目の単位を修得して申請すれば、学部卒業時に「社会調査士」の認定が受けられます。

### 社会調査士資格取得のためのカリキュラム

社会調査士資格取得のためには、以下のA～Gに対応する授業科目の単位を修得する必要があります。

	文化情報学部設置科目名	配当年次
【A】 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査入門	1～
【B】 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法	2～
【C】 基本的な資料とデータの分析に関する科目	データサイエンス入門	1～
【D】 社会調査に必要な統計学に関する科目	データサイエンス基礎	1～
【E】 量的データ解析の方法に関する科目	定量的データ分析または定性的データ分析	2～
【G】 社会調査の実習を中心とする科目	社会調査演習	2～

大学在学中には、「社会調査士（キャンディデイト）」を申請することができます。

社会調査士（キャンディデイト）の要件は、

- ① 在籍期間が2年以上であること

② 社会調査士科目を設置している大学（機関）で標準カリキュラムA～Gに対応した科目単位を申請時まで、3科目以上単位修得していること

③ ②の単位修得済み科目と申請年度履修中の科目の合計が5科目以上であること

です。取得見込みの申請をしようとする学生は、要件を満たすよう履修・登録に留意してください〔とくに3年生の登録時〕。なお、秋学期開講科目について、春学期の時点では、科目登録をしていれば、「履修中」とみなします。

社会調査士資格取得については、別途掲示板等でお知らせします。

〔社会調査協会ホームページ〕 <http://jasr.or.jp>

## ●公認スポーツ指導者

財団法人日本体育協会が実施する公認スポーツ指導者養成講習会の共通科目および専門科目を修了することにより、スポーツ指導基礎資格、競技別指導者資格フィットネス系資格、メディカル・コンディショニング系資格などの資格取得が可能となります。同志社大学では、卒業後当該養成講習会時に修了証明書により共通科目の講習・試験の免除を受けることが可能となります。

### （資格）

資 格	共通科目	専門科目
指導員 ジュニアスポーツ指導員	共通科目Ⅰ	指導員専門科目
上級指導員 スポーツプログラマー	共通科目Ⅰ＋Ⅱ	上級指導員専門科目 スポーツプログラマー専門科目
コーチ 教師 アスレティックトレーナー	共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ	コーチ専門科目 教師専門科目 アスレティックトレーナー専門科目

\* (財)日本体育協会に共通科目の修了証明書を申請するとスポーツリーダー（地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして基礎的なスポーツ指導や運営にあたる）として登録され、認定書が送付される。

手続き等の詳細は『スポーツ健康科学部 履修要項』を参照すること。

詳細は下記部課にお問い合わせください。

窓口相談業務：京田辺校地教務センター（スポーツ健康科学部）、教務課

## ●検定・認定試験（ご参考までに）

### 情報処理技術者試験

情報処理技術者試験は、「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」の水準がある程度以上であることを認定している国家試験です。

情報システムを構築・運用する「技術者」から情報システムを利用する「エンドユーザ（利用者）」まで、ITに関係するすべての人に活用いただける試験として実施しています。特定の製品やソフトウェアに関する試験ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる技能について、幅広い知識を総合的に評価しています。（合格者には、経済産業大臣から合格証書が交付されます。）

〔受験資格〕

全試験区分で特に制限はありません。

〔実施期間〕

春期試験（4月第3日曜日）、秋期試験（10月第3日曜日）

試験区分	試験の対象	実施時期
ITパスポート試験	職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識をもち、情報技術に携わる業務に就くか、担当業務に対して情報技術を活用していこうとする者	随時
情報セキュリティ マネジメント試験	情報システムの利用部門にあって、情報セキュリティリーダとして、部門の業務遂行に必要な情報セキュリティ対策や組織が定めた情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシーを含む組織内諸規程）の目的・内容を適切に理解し、情報及び情報システムを安全に活用するために、情報セキュリティが確保された状況を実現し、維持・改善する者	春秋
基本情報技術者試験	高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けた者	春秋
応用情報技術者試験	高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者	春秋
ITストラテジスト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、企業の経営戦略に基づいて、ビジネスモデルや企業活動における特定のプロセスについて、情報技術を活用して改革・高度化・最適化するための基本戦略を策定・提案・推進する者。また、組込みシステムの企画及び開発を統括し、新たな価値を実現するための基本戦略を策定・提案・推進する者	秋
システムアーキテクト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、ITストラテジストによる提案を受けて、情報システム又は組込みシステムの開発に必要な要件を定義し、それを実現するためのアーキテクチャを設計し、情報システムについては開発を主導する者	秋
プロジェクトマネージャ試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、システム開発プロジェクトの責任者として、プロジェクト計画を立案し、必要となる要員や資源を確保し、計画した予算、納期、品質の達成について責任をもってプロジェクトを管理・運営する者	春
ネットワーク スペシャリスト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、ネットワークに関係する固有技術を活用し、最適な情報システム基盤の企画・要件定義・開発・運用・保守において中心的な役割を果たすとともに、固有技術の専門家として、情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守への技術支援を行う者	秋
データベース スペシャリスト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、データベースに関係する固有技術を活用し、最適な情報システム基盤の企画・要件定義・開発・運用・保守において中心的な役割を果たすとともに、固有技術の専門家として、情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守への技術支援を行う者	春
エンベデッドシステム スペシャリスト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、組込みシステム開発に関係する広い知識や技能を活用し、最適な組込みシステム開発基盤の構築や組込みシステムの設計・構築・製造を主導的に行う者	春
ITサービスマネージャ試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、情報システム全体について、安定稼働を確保し、障害発生時には被害の最小化を図るとともに、継続的な改善、品質管理など、安全性と信頼性の高いサービスの提供を行う者	秋



試験区分	試験の対象	実施時期
システム監査技術者試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、被監査対象から独立した立場で、情報システムや組込みシステムに関するリスク及びコントロールを総合的に点検、評価し、監査結果をトップマネジメントなどに報告し、改善を勧告する者	春

(情報処理推進機構 <https://www.jitec.ipa.go.jp/>)

〔試験に関する問合せ先〕

独立行政法人 情報処理推進機構

### ①文化情報学部事務室（京田辺キャンパス 夢告館1F）

皆さんの学籍や成績の管理、レポートの受付など教務に関するさまざまな窓口となります。

（事務室開室時間）

月～金曜日：9:00～11:30, 12:30～17:00

### ②文化情報学部文献室（京田辺キャンパス 夢告館1F）

文化情報学部所蔵の図書・雑誌・非図書資料の利用について

#### 1. 利用について

下記「同志社大学文化情報学部文献室の利用に関する規則」を遵守すること。

利用資格：文化情報学部4年次生、大学院学生、大学院研究生・研修生、大学院聴講生、研究室主任が必要と認められた者。

開室時間：月～金・9：00～17：00 ※夏季、年末・年始は別に定める。

#### 2. 貸出・閲覧手続

入室した際に、入退室記入表に所定事項を記入。荷物はロッカーへ入れること。

学生証を持参のうえ、文化情報学部・文化情報学研究科事務室で手続を行うこと。

#### 3. 機器の利用について

文献室に設置する機器（複写機、印刷機、プリンタ、裁断機、製本機、マイクロリーダー等）を利用するときは、係員に申し出てその指示に従わなければならない。

## 同志社大学文化情報学部文献室の利用に関する規則

### （利用資格）

第1条 同志社大学文化情報学部文献室を利用することができる者は、次のとおりとする。利用にあたっては、原則として学生証または身分証明書を提示しなければならない。

- （1）文化情報学部専任教員、客員教員
- （2）文化情報学部嘱託講師、客員研究員
- （3）文化情報学部3年次生以上で「ジョイント・リサーチ」科目を登録した者
- （4）文化情報学部研究補助員
- （5）文化情報学研究科学生
- （6）文化情報学部以外の本学専任教員、客員教員
- （7）文化情報学部以外の本学嘱託講師、客員研究員
- （8）文化情報学研究科以外の本学の大学院学生
- （9）学外研究者（大学院学生含む）で所属長の依頼状、またはそれに準ずる書面を提出した者
- （10）研究室主任の許可を得た者

### （開室時間）

第2条 開室時間は、別に定める場合のほか、平日は午前9時から午後5時までとする。

### （入退室手続）

第3条 入室および退室をするときは、入退室記入表に所定事項を記入しなければならない。

- 2 入室者はノート、筆記用具以外のものを備付けのロッカーに納めなければならない。

3 前2項の規定は文化情報学部専任教員および客員教員にはこれを適用しない。

#### (閲覧)

第4条 閲覧のため借り受けた図書は、文献室外に帯出することはできない。

2 閲覧後の図書は、所定の返却棚に返却しなければならない。

#### (借用冊数・期間・手続)

第5条 借用することのできる図書の冊数および借用期間は、次のとおりとする。借用にあたっては、原則として身分証明書を提示しなければならない。

(1) 文化情報学部専任教員、客員教員	50冊以内	1年以内
(2) 文化情報学部嘱託講師、客員研究員	5冊以内	14日以内
(3) 文化情報学部3年次生以上で「ジョイント・リサーチ」科目を登録した者	5冊以内	14日以内
(4) 文化情報学部研究補助員	5冊以内	14日以内
(5) 文化情報学研究科学生	10冊以内	28日以内
(6) 文化情報学部以外の本学専任教員、客員教員	50冊以内	90日以内
(7) 文化情報学部以外の本学嘱託講師、客員研究員	5冊以内	14日以内
(8) 文化情報学研究科以外の本学の大学院学生	10冊以内	28日以内
(9) 学外研究者（大学院学生含む）で所属長の依頼状、またはそれに準ずる書面を提出した者	5冊以内	14日以内
(10) 研究室主任の許可を得た者	5冊以内	14日以内

2 図書の借用を希望する者は、受付カウンターで所定の手続きをとること。

#### (返却)

第6条 借用中の図書は、借用期間内に返却しなければならない。

2 借用図書の返却は受付カウンターで行なう。

#### (借用期間の更新)

第7条 借用期間が満了した場合において他に利用希望者がいないときは、借用期間の更新をすることができる。

2 借用期間の更新は、図書をいったん返却したうえあらためて借用手続きをとることによって行なう。

#### (返却請求)

第8条 研究室主任は、他に利用希望者があるときまたは事務整理上必要があるときは、借用期間中の図書の返却を求めることができる。

#### (利用資格の喪失)

第9条 第1条に掲げる者が借用期間中にその身分を失ったときは、借用中の図書を直ちに返却しなければならない。

#### (帯出禁止図書)

第10条 雑誌、参考図書およびマイクロ資料ならびに研究室主任が指定した図書は借用することができない。ただし、研究室主任の許可する図書については、文化情報学部専任教員にかぎり所定の手続きを経て1週間以内に限り研究室個室への帯出をすることができる。

#### (機器の利用)

第11条 文献室内に設置する機器（複写機、断裁機）を利用する時は、係員に申し出てその指示に従わなければならない。

2 設置されている機器を利用したときは、その都度実費を支払わなければならない。

### (図書の紛失など)

第12条 利用中の図書および機器について汚損、破損または紛失などの事故が生じた時は、利用者は直ちに係員に申し出てその指示に従わなければならない。

### (一般的禁止事項)

第13条 文献室内での喫煙および飲食は禁止する。

### (細則)

第14条 この規則に定めるもののほか、文献室の利用に関し必要な事項は別に定める。

### (改廃)

第15条 この規則の改廃は、文化情報学部教授会において決定する。

### 附 則

- 1 この規則は2019年2月14日から施行する。

## ③ 掲示板

登校の際は、必ず掲示板を見るようにしてください。なお、掲示板に加え、大学が交付した電子メールアドレス宛や学修支援システムDUET等で連絡する場合があります。

掲示板の場所	掲 示 内 容
夢 告 館 (南側)	文化情報学部連絡事項・試験・レポート
知真館1号館 (北側)	授業時間割・休講・補講・教室変更等

なお、同志社大学ホームページでも休講情報や試験に関する情報などさまざまな情報を得ることができますが、変更等が生じることやデータ更新までのタイムラグがありますので、必ず掲示板でも確認するようにしてください。

## ④ 学生手帳

上記以外にも学生生活を送るにあたって必要となるさまざまな情報、学内の組織や制度、諸手続きの方法および事務取扱などでぜひ知っておかなければならない情報などがまとめてありますので参照してください。

## ⑤ 文化情報学会

同志社大学文化情報学会は、文化情報学の研究と普及を目的に設立されました。学会では、研究紀要「文化情報学」の発行、講演会の開催等を行っています。

文化情報学部の学生は、全員文化情報学会の会員ですので、「文化情報学」を受取り、勉学に役立ててください。

## ⑥ 大学院進学について

大学院文化情報学研究科博士課程（前期課程・後期課程）があり、文化情報学についてより高度な教育・研究活動を展開しています。

# 交通機関の不通と暴風警報・特別警報発表に伴う 授業・試験の実施について（司法研究科以外）

交通機関が不通の場合および暴風警報、特別警報が発表された場合、授業ならびに試験の実施については、以下の措置をとります。

## I. 交通機関の不通（原因の如何を問わず）の場合

- ・以下のいずれかに該当する交通機関の不通が発生した場合、発生時の次の講時からその日の授業・試験の一部あるいは全部についてその実施を中止します。
- ・その後の授業・試験の開始等措置は、以下の表のとおり、開通時刻により開始講時を決定します。（早朝からの不通が6時30分までに開通した場合は、平常通り授業を実施します。）
- ・該当交通機関での事故等による一時的な運転見合わせの際には、平常通り授業・試験を実施しますので、ご注意ください。

### 1. 対象となる交通機関

[今出川校地]

- イ. 京都市営バスと地下鉄が同時に全面不通の場合
- ロ. 阪急電車（京都河原町～大阪梅田間）、京阪電車（出町柳～淀屋橋間）、近鉄電車（京都～大和西大寺間、大和西大寺～大阪難波間）、JR（神戸～米原間）のうち、2以上の交通機関が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

[京田辺校地]

- イ. 京都市営バスと地下鉄が同時に全面不通の場合
- ロ. 阪急電車（京都河原町～大阪梅田間）、京阪電車（出町柳～淀屋橋間）、近鉄電車（京都～大和西大寺間、大和西大寺～大阪難波間）、JR（神戸～米原間、木津～京橋間）のうち、2以上の交通機関が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合
- ハ. 近鉄電車（京都～大和西大寺間）が全面不通の場合

### 2. 交通機関開通時刻と授業・試験開始講時

開通時刻	授業・試験開始講時
6時30分までに開通	1講時から実施
6時31分から10時30分までに開通	3講時から実施
10時31分から15時30分までに開通	6講時から実施
15時31分以後に開通	全講時休講

## II. 暴風警報あるいは特別警報発表の場合

- ・以下の区域において暴風警報あるいはなんらかの特別警報が発表された場合、発表時の次の講時からその日の授業・試験の実施を中止します。
- ・ただし、発表された時点で、すでに実施中あるいは開始直前の授業・試験については、警報の緊急性等を考慮の上で、大学がその中止を判断します。
- ・特別警報が発表された場合、該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。警報発表地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。特別警報の種類は問いません。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。また自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、自身の判断により、命を守るために最善と思われる行動をとってください。
- ・警報解除の後、危険が回避されたことが確認された場合には、以下の表のとおり、警報解除時刻により授業開始講時を決定します。それ以外の場合、状況判断の上、別途指示します。（早朝からの警報が6時30分までに解除となった場合は、平常通りの授業を実施します。）

## 1. 警報発表対象地域

- ・予報一次細分区域における  
京都府南部、大阪府
- ・予報二次細分区域における  
京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部、大阪市、北大阪、東部大阪、南河内、泉州

■警報・注意報が市町村を対象区域として発表される※ようになっていることから、以下の表に示す市町村のいずれかに警報が発表された場合は、該当の予報二次細分区域に警報が発表されたものとして、授業・試験の実施は中止します。

※テレビやラジオの放送では、これまでどおり「市町村をまとめた地域の名称」で発表される場合があります。

### 京都府南部

予報二次細分区域	市町村
京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
山城中部	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
山城南部	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村

### 大阪府

予報二次細分区域	市町村
大阪市	大阪市
北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四条畷市、交野市
南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

## 2. 警報解除時刻と授業・試験開始講時

警報が解除される時間帯によって、以下のとおり授業・試験を実施します。

警報解除時刻	授業・試験開始講時
6時30分までに解除	1講時から実施する。
9時30分までに解除	1・2講時は実施しない。3講時から実施する。
14時30分までに解除	1～5講時は実施しない。6講時から実施する。
14時31分時点で警報が発表中	全講時実施しない。

- Ⅲ. I、IIにかかわらず、授業・試験を行うことが困難あるいは危険であると学長が判断した場合、休講・中止とすることがあります。
- Ⅳ. 試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験の実施に関しては、必要に応じて大学HP、DUETあるいは学内掲示板等を利用して案内します。
- Ⅴ. 特別警報、暴風警報等の発表時には、必要に応じ、大学HP、DUETあるいは学内掲示板等を利用して、大学から学生に対して連絡を行います。  
大学HP、DUET等を確認するようご注意ください。

以上

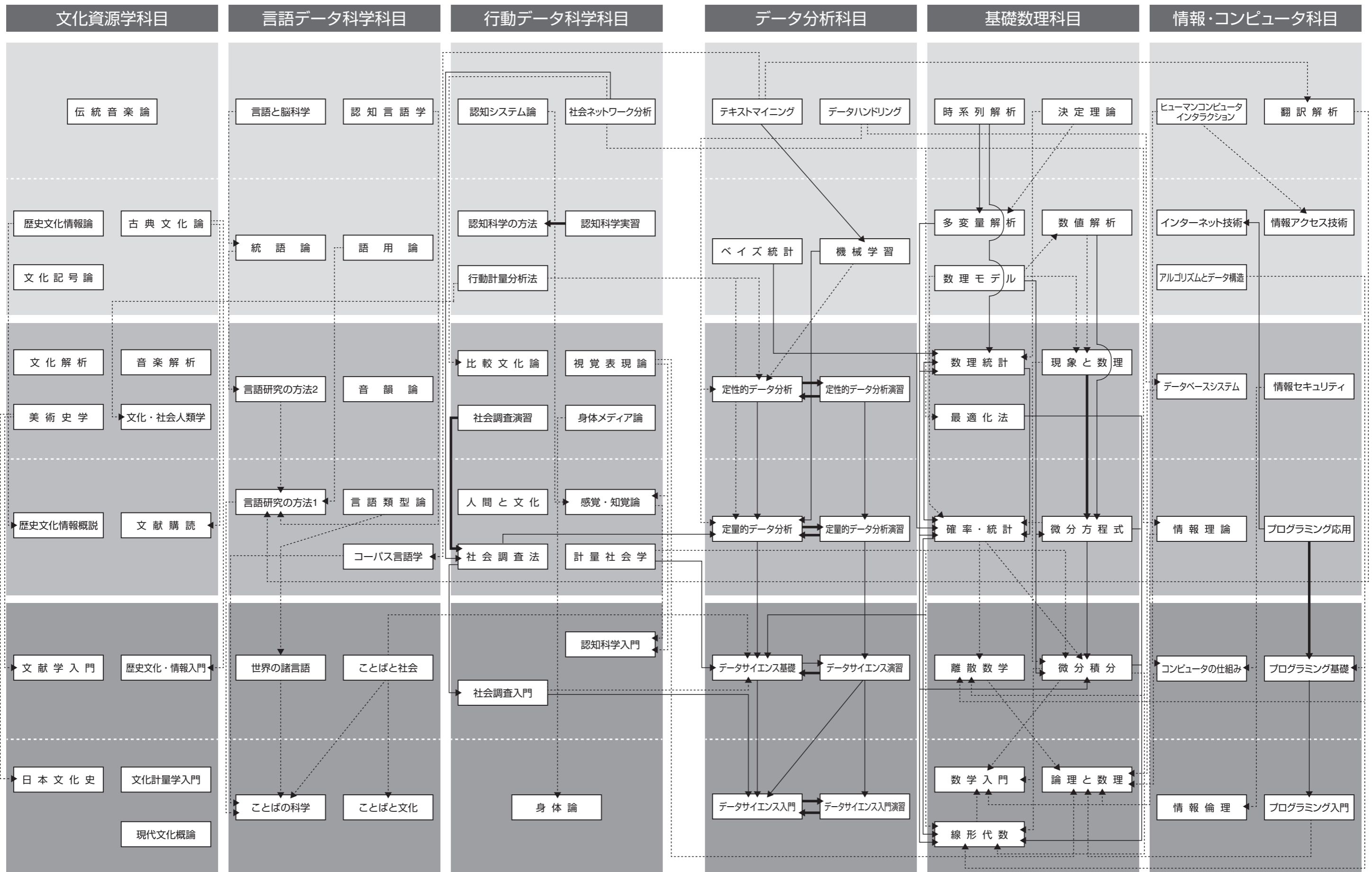
# 履修体系図

## A 群

## 文化クラスター科目群

## B 群

## データサイエンス科目群



※この他に必修科目、体験型教養科目があります。

→ 履修条件科目 (その科目を履修していないと登録できない)

→ 事前履修科目 (その科目の内容を知っていないと理解できない)

---▶ 履修推奨科目 (その科目の内容を知っているとより理解が深まる)

---

発行 同志社大学文化情報学部

〒610-0394

京都府京田辺市多々羅都谷1-3

☎0774-65-7610

2020年4月1日

---



